令和２年度　　令和３年度

業務報告／業務計画

（第 65 号）

八戸市農業経営振興センター

表紙写真解説　～カンパニュラ赤色 LED 電照技術調査～

カンパニュラは三八地方の花きの主力の一つで、仏花、贈答用等需要が多く花きの出荷数が少ない春先４月から６月に流通する品目。

従来はビニールハウスの加温と電照処理による促成栽培が主流であったが、近年赤色 LED の電照処理を用いた開花促進が可能との研究がなされたことから、当センターにおいても栽培技術調査を実施している。

近年価格が高騰している冬期の燃料費削減等、生産コストを抑えながら早期出荷が可能な、新たな栽培技術として期待される。

目　次

第 1 施設の概要及び機構 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
第 2 業務報告
2-1 気象 ・・・ 5
2-2 調査成績（施設野菜）
No. 1 種子繁殖型いちご品種「よつぼし」の品種特性調査（継続 H29～R2）・・・・・・・・・・ 8
No. 2 夏秋どりいちごの品種比較調査(継続 H31～R2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
No. 3 ほうれんそうの寒締め栽培における品種比較調査（新規 R2～3）・・・・・・・・・・・・・ 17
No. 4 トマトの促成栽培における品種比較調査（継続 H31～R3）・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
No. 5 トマトの夏秋栽培における品種比較調査（新規 R2～R3）・・・・・・・・・・・・・・・ 22
No. 6 トマトの抑制栽培における品種比較調査（継続 H31～R3）・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
No. 7 ミニトマトの促成栽培における品種比較調査（継続 H31～R3）・・・・・・・・・・・・・ 30
No. 8 ミニトマトの夏秋栽培における品種比較調査（継続 H31～R3）・・・・・・・・・・・・・ 34
No. 9 ミニトマトの抑制栽培における品種比較調査（継続 H31～R3）・・・・・・・・・・・・・ 39
2-3 調査成績（露地野菜）
No. 1 ねぎの品種比較調査（新規 R2～4）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
No. 2 ねぎのリン酸減肥技術品種比較調査(新規 R2～3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
No. 3 ピーマンの品種比較調査(新規 R2～4)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
No. 4 ピーマン品種「ピクシー」の施肥体系別収量調査（継続 H31～R2）・・・・・・・・・・ 55
No. 5 ピーマン整枝方法別収量比較調査（新規 R2～4）・・・・・・ ・・・・・・・・・・・ 58
No. 6 にんにくの種子植付時期比較調査（継続 H31～R2）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
2-4 調査成績（花き）
No. 1 トルコギキョウの品種比較調査（7～8 月出荷）（新規 R2～3）・・・・・・・・・・・・ 64
No. 2 トルコギキョウの品種比較調査（9 月出荷）（新規 R2～3）・・・・・・・・・・・・・ 68
No. 3 カンパニュラの赤色 LED 電照技術調査（新規 R2～4）・・・・・・・・・・・・・・・・ 72
No. 4 ディスバッドマムの品種比較調査(8 月出荷)(継続 H31～R2)・・・・・・・・・・・・・ 74
2-5 調査成績（耕畜連携推進事業パートナー制度）
ながいも栽培における堆肥の施用効果の検討 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 77
2-6 土壌分析 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 81
2-7 植物組織培養 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 87
2-8 市民農園設置事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 87
2-9 農業体験学習 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 88
2-10 農業講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 89
2-11 家庭菜園講習会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 89
2-12 施設利用実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 89

第 3 業務計画

3-1 調査計画（施設野菜）

No. 1 種子繁殖型いちご品種「よつぼし」の品種特性調査（新規 R3～5）・・・・・・・・・・・ 91

No. 2 ほうれんそうの寒締め栽培における品種比較調査（継続 R2～3）・・・・・・・・・・・・ 92

No. 3 トマトの促成栽培における品種比較調査（継続 H31～R3）・・・・・・・・・・・・・・・ 93

No. 4 トマトの夏秋栽培における品種比較調査（継続 R2～R3）・・・・・・・・・・・・・・・ 94

No. 5 トマトの抑制栽培における品種比較調査（継続 H31～R3）・・・・・・・・・・・・・・・ 95

No. 6 ミニトマトの促成栽培における品種比較調査（継続 H31～R3）・・・・・・・・・・・・・ 96

No. 7 ミニトマトの夏秋栽培における品種比較調査（継続 H31～R3）・・・・・・・・・・・・・ 97

No. 8 ミニトマトの抑制栽培における品種比較調査（継続 H31～R3）・・・・・・・・・・・・・ 98

3-2 調査計画（露地野菜）

No. 1 ねぎの品種比較調査（継続 R2～4）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 99

No. 2 ねぎのリン酸減肥技術品種比較調査(継続 R2～3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 100

No. 3 ピーマンの品種比較調査(継続 R2～4)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 101

No. 4 ピーマン品種「ピクシー」の施肥体系別収量調査（新規 R3～4）・・・・・・・・・・・・102

No. 5 ピーマン整枝方法別収量比較調査（継続 R2～4）・・・・・・ ・・・・・・・・・・・・・ 103

3-3 調査計画（花き）

No. 1 トルコギキョウの品種比較調査（7～8 月出荷）（継続 R2～3）・・・・・・・・・・・・・ 104

No. 2 トルコギキョウの品種比較調査（9 月出荷）（継続 R2～3）・・・・・・・・・・・・・・・105

No. 3 トルコギキョウの赤色 LED 電照栽培技術調査（新規 R3～4）・・・・・・・・・・・・・・106

No. 4 カンパニュラの赤色 LED 電照栽培技術調査（継続 R2～4）・・・・・・・・・・・・・・・107

No. 5 ディスバッドマムの品種比較調査(8 月出荷)(新規 R3～4)・・・・・・・・・・・・・・・108

3-4 調査計画（耕畜連携推進事業パートナー制度）

ながいも栽培における堆肥の施用効果の検討 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 109

3-5 土壌分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 110

3-6 植物組織培養・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 111

3-7 市民農園設置事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 111

3-8 農業体験学習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 112

3-9 栽培展示計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 113

第１　施設の概要及び機構

目　的

農業経営振興センターは、計画立案業務、担い手育成業務、農業金融業務及び野菜、花き、果樹、稲作、畑作等に関する生産振興業務等の農業経営に関する重要な施策を一元的に推進することにより、起農、他産業からの農業参入、既存農業経営者の規模・品目の拡充等を促進し、産業としての農業の振興を図るとともに、市民農園の設置及び農作業体験学習会の開催等により、自然に親しめる潤いのある市民生活の向上に資することを目的としています。

事業の概要

１　計画立案業務
２　担い手育成業務
３　農業金融業務
４　野菜、花き、果樹、稲作、畑作等に関する生産振興業務
　（１）　野菜、花き、果樹、稲作、畑作等に関する生産振興業務
　（２）　野菜、花きに関する栽培調査及び展示業務
　（３）　植物組織培養業務
　（４）　土壌分析及び土壌改良支援業務
５　市民農園の設置及び農作業体験学習会の開催等に関する業務

組織図及び職員数（令和３年度）

組織図及び職員数　＜14 名＞

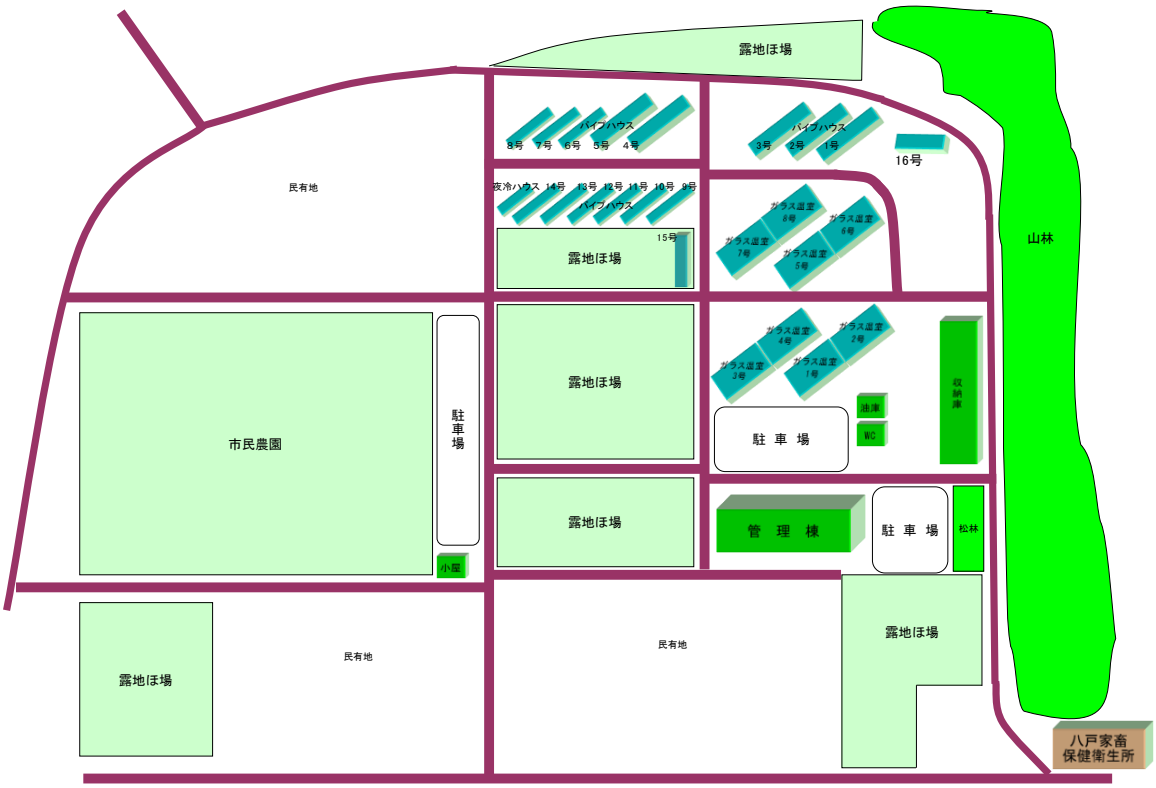
- 所長
  - 主幹（経営支援 GL）
    - 計画立案、担い手育成及び農業金融業務等担当　4 名
    - 庶務担当　1 名
  - 副参事（生産振興 GL）
    - 野菜、花き、果樹、稲作、畑作等に関する補助事業業務担当　2 名
    - 施設野菜栽培調査等業務担当　1 名
    - 花き栽培調査等業務担当　1 名
    - 露地野菜栽培調査及び市民農園等業務担当　1 名
    - 土壌分析業務等担当　1 名

施設の概要

土地利用区分	
総面積	114,901 ㎡
管理施設用地	
建物等	1,471
駐車場・通路等	5,525
ほ場	
施設	14,842
ガラス温室	
パイプハウス	
露地	24,235
市民農園	18,237
山林	46,075
原野他	4,516

主要施設		
管理棟＜鉄骨造平屋建＞	1 棟	713 ㎡
多目的研修室		
調理実習室		
会議室		
土づくり相談室		
バイオ体験室		
ガラス温室（鉄骨造）	4 棟（8 室）	1,498 ㎡
パイプハウス	16 棟	1,991 ㎡
収納庫＜鉄骨造平屋建＞	1 棟	450 ㎡
屋外トイレ	1 棟	28 ㎡
油庫	1 棟	10 ㎡
農業用水施設	1 式	
気象観測施設	1 式	

場内案内図



沿　革

昭和 30．5　青森県農事試験場南部支場委託蔬菜展示農場として三戸郡大館村（新井田常光田地区）に発足
昭和 32．4　三戸郡大館村に移管し、大館村蔬菜展示農場に改称
昭和 33．9　合併により八戸市立そ菜展示農場に改称
昭和 36．1　八戸市農村青年研修所を併設
昭和 36．4　八戸市立園芸指導農場に改称
昭和 45．1　十日市天摩地区に移転し、八戸市農業センターに改称
昭和 57．4　八戸市都市緑化植物公園（現八戸公園）開設により、尻内町毛合清水地内に移転し、八戸市農業研修センターに改称
昭和 63．4　花き（切花）部門・植物組織培養部門（バイテク）設置
平成　2．4　市民農園開設
平成 11．12　高規格道路等建設計画により現在地に移転し、八戸市農業交流研修センターに改称
平成 23．4　機構改革により農業経営に関する支援業務を一元化し、八戸市農業経営振興センターに改称

業務報告

【令和２年度】

所　　長	久　保	昌　広
（経営支援グループリーダー事務取扱）		
副 参 事	中　山	貢
（生産振興グループリーダー）		
主　　幹	窪　田	奈央子
主　　査	柳　谷	悟
技　　査	田　茂	竜　児
主　　査	三　戸	由　香
主　　査	白　川	大　祐
技　　査	戸　田	瞳
主　　事	苫米地	三由希
主　　事	島　守	康　洋
技　　師	佐々木	達　也
技　　師	外　和	昌　大
技　　師	細　越	敬太郎
技　　師	柴　田	あかね

2－1　気象

1　令和２年の平均気温・日照時間・降水量

表１　令和２年 平均気温･日照時間･降水量 旬表

月	旬	平均気温（℃）				日照時間（h）				降水量（mm）			
		平年値	R2年	差	*八戸特別地域気象観測所*	平年値	R2年	差	*八戸特別地域気象観測所*	平年値	R2年	差	*八戸特別地域気象観測所*
1	上旬	-1.1	-0.4	0.7	*0.2*	41.3	36.7	-4.6	*36.7*	13.8	36.5	22.8	*37.0*
	中旬	-2.0	-0.2	1.8	*0.3*	41.5	29.6	-11.9	*25.1*	9.5	4.0	-5.5	*8.0*
	下旬	-2.0	1.2	3.2	*1.8*	48.4	43.5	-4.9	*42.4*	11.6	64.5	52.9	*82.5*
平均・計		-1.7	0.2	1.9	*0.8*	131.2	109.8	-21.4	*104.2*	34.9	105.0	70.2	*127.5*
2	上旬	-1.8	-2.6	-0.8	*-1.8*	45.3	32.9	-12.4	*35.8*	11.3	16.5	5.2	*15.5*
	中旬	-1.2	2.2	3.4	*2.8*	45.1	45.7	0.6	*46.1*	12.2	42.5	30.3	*44.0*
	下旬	-0.1	1.4	1.5	*2.3*	39.3	30.6	-8.7	*36.4*	8.7	12.5	3.8	*9.5*
平均・計		-1.0	0.3	1.3	*1.1*	129.7	109.2	-20.5	*118.3*	32.1	71.5	39.4	*69.0*
3	上旬	0.6	3.6	3.1	*4.3*	51.2	37.6	-13.6	*36.1*	14.2	28.5	14.3	*42.5*
	中旬	2.2	4.1	1.9	*4.8*	52.3	56.5	4.2	*58.3*	15.0	20.5	5.5	*13.5*
	下旬	3.7	5.5	1.8	*5.9*	64.7	73.7	9	*79.9*	18.0	11.5	-6.5	*11.5*
平均・計		2.2	4.5	2.3	*5.0*	168.2	167.8	-0.4	*174.3*	47.2	60.5	13.3	*67.5*
4	上旬	6.2	7.4	1.2	*7.9*	62.2	39.7	-22.5	*45.9*	*16.4*	24.0	7.6	*60.0*
	中旬	7.9	5.8	-2.1	*6.3*	60.8	36.1	-24.7	*41.4*	*19.4*	47.5	28.2	*67.0*
	下旬	10.3	8.5	-1.8	*9.2*	66.6	48.3	-18.3	*63.2*	*22.1*	10.5	-11.6	*7.0*
平均・計		8.2	7.2	-1.0	*7.8*	189.6	124.1	-65.5	*150.5*	*57.8*	82.0	24.2	*134.0*
5	上旬	11.8	15.3	3.5	*15.7*	65.7	56.4	-9.3	*63.5*	23.7	2.5	-21.2	*2.5*
	中旬	13.1	12.8	-0.3	*13.4*	61.1	36.4	-24.7	*44.9*	24.6	61.5	36.9	*77.5*
	下旬	14.6	14.8	0.2	*15.1*	70.1	68.9	-1.2	*82.7*	29.4	14.5	-14.9	*13.5*
平均・計		13.2	14.3	1.1	*14.7*	196.9	161.7	-35.2	*191.1*	77.7	78.5	0.8	*93.5*
6	上旬	15.2	18.6	3.3	*18.9*	61	71.9	10.9	*91.7*	19.8	5.0	-14.8	*3.0*
	中旬	16.3	18.9	2.6	*19.3*	54.6	33.4	-21.2	*54.8*	36.9	53.0	16.1	*39.0*
	下旬	17.6	16.9	-0.7	*17.5*	52.2	18.8	-33.4	*40.7*	34.3	48.0	13.7	*48.0*
平均・計		16.4	18.1	1.7	*18.6*	167.8	124.1	-43.7	*187.2*	91.0	106.0	15.0	*90.0*
7	上旬	18.8	19.5	0.6	*19.7*	45.6	17.4	-28.2	*34.8*	50.1	78.5	28.4	*13.0*
	中旬	20.0	17.8	-2.2	*18.5*	43.3	17.7	-25.6	*33.1*	46.2	152.0	105.8	*74.0*
	下旬	22.0	20.6	-1.4	*21.0*	59.7	25.3	-34.4	*42.6*	42.4	2.5	-39.9	*49.5*
平均・計		20.3	19.4	-0.9	*19.7*	148.6	60.4	-88.2	*110.5*	138.7	233.0	94.4	*136.5*
8	上旬	22.4	24.1	1.7	*24.6*	60.3	29.8	-30.5	*42.2*	37.2	35.0	-2.2	*33.0*
	中旬	21.9	25.7	3.8	*26.3*	52.1	65.8	13.7	*73.6*	46.1	3.0	-43.1	*3.0*
	下旬	21.5	22.0	0.5	*22.4*	54.7	57.8	3.1	*58.4*	60.5	47.5	-13.0	*69.5*
平均・計		21.9	23.8	2.0	*24.4*	167.1	153.4	-13.7	*174.2*	143.8	85.5	-58.3	*105.5*
9	上旬	20.4	24.2	3.8	*24.5*	47.1	66	18.9	*66.8*	43.8	22.5	-21.3	*29.0*
	中旬	18.7	19.3	0.6	*20.0*	47.6	30.6	-17	*34.4*	79.2	94.5	15.3	*83.0*
	下旬	16.4	16.1	-0.3	*17.0*	49.3	42.1	-7.2	*44.5*	41.1	74.0	32.9	*63.5*
平均・計		18.5	19.9	1.4	*20.5*	144	138.7	-5.3	*145.7*	164.2	191.0	26.9	*175.5*
10	上旬	14.6	14.6	0.1	*15.3*	50.1	23.7	-26.4	*25.3*	47.7	14.5	-33.2	*15.0*
	中旬	12.7	12.9	0.2	*13.6*	53.9	46.8	-7.1	*48*	29.9	19.5	-10.4	*32.0*
	下旬	10.8	10.9	0.1	*11.6*	57.3	49.5	-7.8	*51.7*	34.2	4.0	-30.2	*5.5*
平均・計		12.6	12.7	0.1	*13.5*	161.3	120	-41.3	*125*	111.7	38.0	-73.7	*52.5*
11	上旬	9.0	9.1	0.1	*9.8*	49.8	46.1	-3.7	*41*	23.3	3.5	-19.8	*3.5*
	中旬	6.1	9.3	3.2	*9.5*	41.5	44.4	2.9	*46.7*	19.9	5.0	-14.9	*4.0*
	下旬	4.4	4.7	0.3	*5.5*	42.1	39.5	-2.6	*37.2*	16.7	26.0	9.3	*25.0*
平均・計		6.4	7.7	1.3	*8.3*	133.4	130	-3.4	*124.9*	59.8	34.5	-25.3	*32.5*
12	上旬	2.4	2.7	0.3	*3.3*	40.6	35	-5.6	*36.5*	16.8	1.5	-15.3	*3.0*
	中旬	0.6	-2.3	-2.9	*-1.7*	40.6	44.6	4	*45.5*	11.8	4.5	-7.3	*4.0*
	下旬	-0.1	-0.4	-0.2	*0.2*	43.3	45.2	1.9	*53.3*	18.1	20.0	1.9	*33.5*
平均・計		0.9	0.0	-0.9	*0.6*	124.5	124.8	0.3	*135.3*	46.7	26.0	-20.7	*40.5*
年平均･計		9.8	10.7	0.9	*11.3*	1862.3	1524	-338.3	*1741.2*	1005.5	1111.5	106.0	*1124.5*

※八戸特別地域気象観測所　観測数値（斜字）は気象庁ホームページから引用

※平均気温及び降水量の平年値は平成２年から平成 31 年までの当センター観測数値による

日照時間の平年値は昭和 56 年から平成 22 年までの八戸特別気象観測所観測数値による

※四捨五入により端数処理

(1)　平均気温

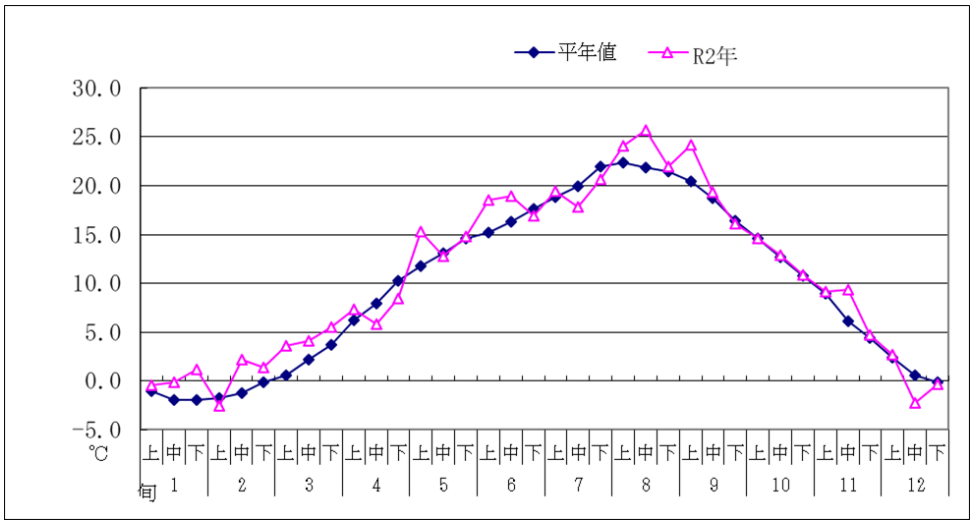


図１　平均気温

平年値との比較

・1℃を上回る月

1 月（+1.9℃）

2 月（+1.3℃）

3 月（+2.3℃）

5 月（+1.1℃）

6 月（+1.7℃）

8 月（+2.0℃）

9 月（+1.4℃）

11 月（+1.3℃）

・1℃を下回る月

4 月（-1.0℃）

(2)　日照時間

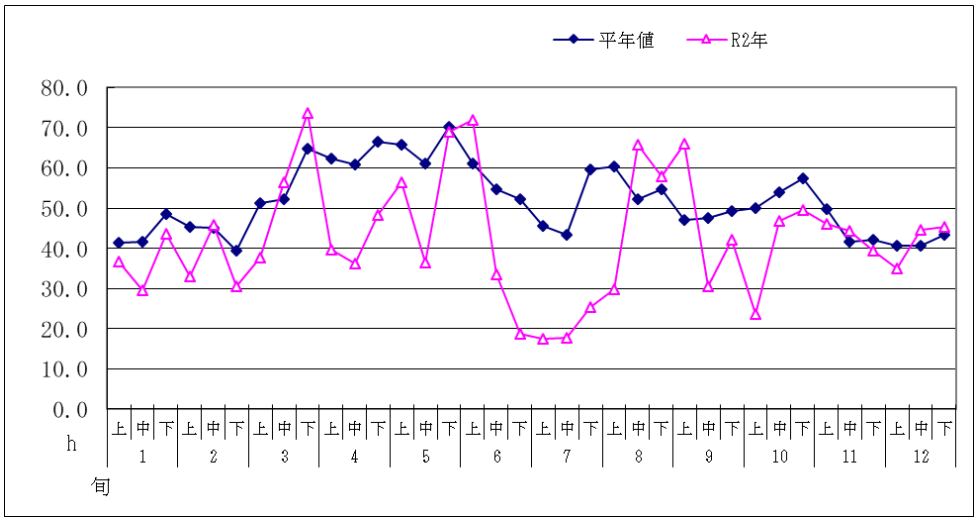


図２　日照時間

平年値との比較

・30 時間/月を下回る月

4 月(-65.5 時間)

5 月(-35.2 時間)

6 月(-43.7 時間)

7 月(-88.2 時間)

10 月(-41.3 時間)

(3)　降水量

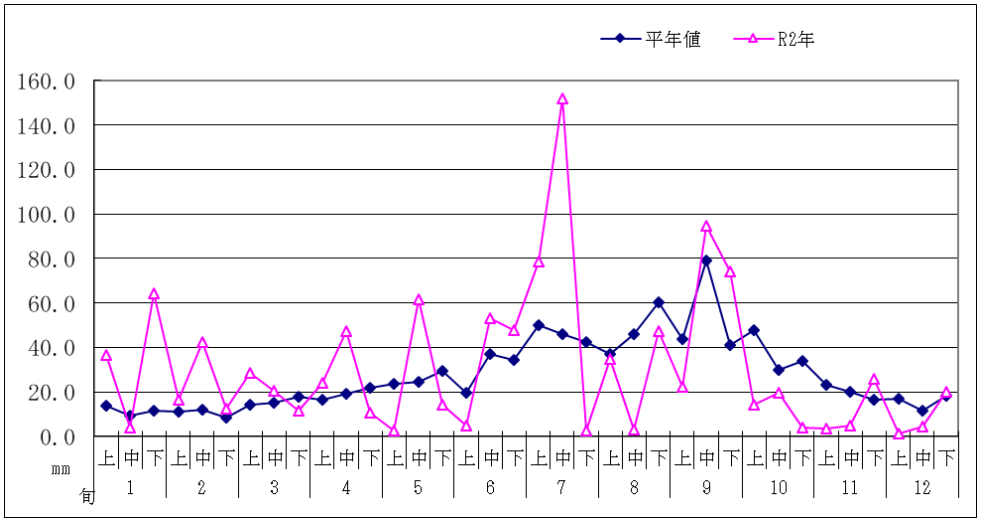


図３　降水量

平年値との比較

・30mm/月を上回る月

1 月(+70.2mm)

2 月(+39.4mm)

7 月(+94.4mm)

・30mm/月を下回る月

8 月(-58.3mm)

10 月(-73.7mm)

表２　令和２年 気象観測数値 旬表

農業経営振興センター観測

月	旬	平均気温 (℃)	最高気温 (℃)	最低気温 (℃)	日照時間 (h)	降水量 (mm)	平均湿度 (%)	平均地温（℃） 0cm	10cm	20cm
1	上旬	-0.4	4.6	-4.9	36.7	36.5	73.8	1.2	2.2	3.0
	中旬	-0.2	6.7	-5.7	29.6	4.0	79.9	0.8	1.5	2.2
	下旬	1.2	7.1	-4.6	43.5	64.5	74.2	0.8	1.5	2.0
平均・極値・計		0.2	7.1	-5.7	109.8	105.0	75.9	0.9	1.7	2.4
2	上旬	-2.6	5.8	-9.6	32.9	16.5	80.3	1.1	1.7	2.1
	中旬	2.2	10.7	-6.2	45.7	42.5	73.8	1.0	1.4	1.7
	下旬	1.4	9.7	-4.1	30.6	12.5	77.1	1.4	1.8	2.0
平均・極値・計		0.3	10.7	-9.6	109.2	71.5	77.1	1.1	1.6	2.0
3	上旬	3.6	13.1	-1.8	37.6	28.5	60.2	3.2	3.1	2.9
	中旬	4.1	18.1	-4.0	56.5	20.5	40.1	3.9	4.2	4.2
	下旬	5.5	18.4	-2.3	73.7	11.5	35.6	4.9	5.0	4.8
平均・極値・計		4.5	18.4	-4.0	167.8	60.5	45.0	4.0	4.1	4.0
4	上旬	7.4	19.2	0.3	39.7	24.0	67.6	6.9	6.8	6.5
	中旬	5.8	15.1	-0.5	36.1	47.5	77.2	6.4	6.7	6.6
	下旬	8.5	19.5	1.6	48.3	10.5	64.0	8.4	8.1	7.8
平均・極値・計		7.2	19.5	-0.5	124.1	82.0	69.7	7.2	7.2	7.0
5	上旬	15.3	30.6	4.6	56.4	2.5	65.5	13.3	12.1	11.0
	中旬	12.8	22.6	5.6	36.4	61.5	76.4	13.4	13.3	12.7
	下旬	14.8	27.0	6.3	68.9	14.5	75.9	14.2	13.8	13.0
平均・極値・計		14.3	30.6	4.6	161.7	78.5	72.7	13.6	13.1	12.3
6	上旬	18.6	31.7	9.9	71.9	5.0	72.6	17.9	17.6	16.5
	中旬	18.9	28.2	11.8	33.4	53.0	79.3	19.3	18.9	18.0
	下旬	16.9	27.3	10.9	18.8	48.0	91.5	18.9	19.0	18.4
平均・極値・計		18.1	31.7	9.9	124.1	106.0	81.1	18.7	18.5	17.7
7	上旬	19.5	27.1	15.1	17.4	78.5	91.1	20.0	19.9	19.2
	中旬	17.8	25.2	14.2	17.7	152.0	92.8	19.4	20.1	20.0
	下旬	20.6	29.1	15.8	25.3	2.5	91.4	21.6	21.9	21.4
平均・極値・計		19.4	29.1	14.2	60.4	233.0	91.7	20.4	20.7	20.3
8	上旬	24.1	32.5	18.4	29.8	35.0	84.0	23.3	23.2	22.5
	中旬	25.7	33.7	19.1	65.8	3.0	84.0	24.2	24.3	23.6
	下旬	22.0	34.1	15.9	57.8	47.5	93.7	23.3	24.1	23.7
平均・極値・計		23.8	34.1	15.9	153.4	85.5	87.4	23.6	23.8	23.3
9	上旬	24.2	35.2	17.1	66.0	22.5	88.3	23.3	23.3	22.9
	中旬	19.3	27.2	14.6	30.6	94.5	90.6	20.8	21.8	22.0
	下旬	16.1	23.9	9.0	42.1	74.0	85.4	18.1	19.5	19.9
平均・極値・計		19.9	35.2	9.0	138.7	191.0	88.1	20.7	21.5	21.6
10	上旬	14.6	22.1	7.7	23.7	14.5	83.7	16.2	17.4	18.1
	中旬	12.9	20.1	4.1	46.8	19.5	78.8	14.4	15.8	16.5
	下旬	10.9	18.9	3.5	49.5	4.0	75.4	11.5	13.4	14.4
平均・極値・計		12.7	22.1	3.5	120.0	38.0	79.2	13.9	15.5	16.3
11	上旬	9.1	19.3	-0.5	46.1	3.5	71.3	9.4	11.4	12.4
	中旬	9.3	23.2	-1.3	44.4	5.0	67.9	7.6	9.2	10.3
	下旬	4.7	11.9	-0.7	39.5	26.0	74.2	6.0	8.4	9.7
平均・極値・計		7.7	23.2	-1.3	130.0	34.5	71.2	7.7	9.7	10.8
12	上旬	2.7	9.7	-1.5	35.0	1.5	70.2	3.1	5.3	6.7
	中旬	-2.3	7.7	-8.5	44.6	4.5	81.9	1.7	3.8	5.2
	下旬	-0.4	7.3	-9.6	45.2	20.0	77.4	1.0	2.6	3.8
平均・極値・計		0.0	9.7	-9.6	124.8	26.0	76.5	1.9	3.9	5.2
年平均・極値・計		10.7	35.2	-9.6	1524.0	1111.5	76.3	11.2	11.8	11.9

※四捨五入により端数処理

施設野菜の部　No.1

項　目：品種特性調査

調査名：種子繁殖型いちご品種「よつぼし」の品種特性調査（継続：平成29年度～令和2年度）

１目的　新しく開発された種子繁殖型いちご品種「よつぼし」について、収量・品質等の品種特性を調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス4号（132㎡：約40坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培
2)　は種月日　令和元年5月10日（406穴セルトレイ）
3)　移植月日　令和元年6月27日（10.5cmポット）
※406穴セルトレイ苗を購入、納品後直ちにポットに移植
4)　夜冷処理期間　令和元年7月25日～8月28日
5)　夜冷処理日数　34日
6)　夜冷処理方法　短日処理　8時間日長（16時30分～翌8時30分遮光）
夜冷処理　13～15℃（16時30分～翌8時30分）
7)　育苗日数　111日
8)　定植年月日　令和元年8月29日
9)　栽植距離　うね幅110㎝、ベッド幅70cm、株間25㎝、2条植え
10)　定植株数　640株/棟
11)　施肥量　N-P-K=1.18-0.51-1.31kg/a
【基肥】有機アグレット816（8-1-6）：7.5kg/a
【追肥】大塚養液土耕6号（13.5-10-20）4.3kg/a
12)　使用資材　アヅミン（Mg:3%）：5kg/a、ハイフミン・ハイブリット：30kg/a、あったかマルチ
13)　収穫期間　令和元年11月1日～令和2年6月19日
14)　保温　内カーテン：令和元年11月5日～令和2年5月7日
15)　加温　温風暖房機（4℃設定）：令和元年11月5日～令和2年5月7日
16)　薬剤散布　51回（成分回数）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　2区（1区10株、1区制）
<1>夜冷短日処理無し
<2>夜冷短日処理有り
2)　供試品種　よつぼし（三重県・香川県・千葉県・農研機構）

(4)　調査項目　生育、収量、品質（糖度・酸度・硬度）

３結果の概要

(1)　昨年度の結果

「夜冷短日処理有り」と比較して、「夜冷短日処理無し」では、10a 換算秀品収量が3,301kgとなり、10a換算秀品収量で優っていた。

(2)　本年度の結果

1)　生育

収穫開始時の生育調査では、「夜冷短日処理無し」が葉長を除く項目で優っていた。

病害虫については、5月からハダニの発生が見られたが被害は小さかった。また、うどんこ病の発生もあったが、他品種と比較し、「よつぼし」では発生が少なかった。

2)　収量

「夜冷短日処理無し」では、1株収量は776.3g、10a換算収量は3,764kgであり、「夜冷短日処理有り」と比較して、優っていた。

月別収量で比較すると11月、12月、2月は「夜冷短日処理有り」で、それ以外の月は「夜冷短日処理無し」で多い結果となった。

3) 品質

「夜冷短日処理無し」で平均果重は 16.5g、秀品率は 89.0%、10a 換算秀品収量は 3,348kg であった。「夜冷短日処理有り」では、平均果重は 14.0g、秀品率は 83.6%、10a 換算秀品収量は 3,084kg となり、10a 換算秀品収量では「夜冷短日処理無し」が優っていた。

(3) 調査 4 箇年の結果

「よつぼし」は「さちのか」と比較して平均果重、秀品率、10a 換算秀品収量において優れる結果となった。

夜冷短日処理の有無による 10a 換算収量への大きな差は無いが、「夜冷短日処理無し」では初期の花芽分化にばらつきが生じるため、当地域で栽培する場合において、安定的に花芽分化させるための方法を検討する必要があると思われる。

(4) 次年度以降の計画

完了

表 1 生育調査（10 株当たり）

調査区名	草丈 (cm)	展開葉 (枚)	葉柄長 (cm)	葉長 (cm)	葉幅長 (cm)	芽数 (芽)	クラウン径(mm)
夜冷短日処理無し	26.2	7.8	15.9	10.8	9.6	1.5	17.4
夜冷短日処理有り	23.5	5.8	14.5	11.2	8.2	1.0	15.0

表 2 収量調査（10 株当たり）

品種名	3L (35g以上)		2L (25～35g未満)		L (15～25g未満)		M (11～15g未満)		S (7～11g未満)		小果・奇形果	
	果数	収量	果数	収量	果数	収量	果数	収量	果数	収量	果数	収量
夜冷短日処理無し	19	756	50	1,476	151	2,848	125	1,627	74	676	52	380
夜冷短日処理有り	8	299	36	1,044	141	2,662	135	1,725	135	1,212	89	663
さちのか(参考)	2	79	18	508	95	1,797	97	1,239	119	1,062	108	849

表2つづき

品種名	合計		平均果重	1株収量	秀品率 (%)	1棟(132㎡)換算収量(kg)	10a換算収量 (kg)	10a換算秀品収量(kg)
	果数	収量						
夜冷短日処理無し	471	7,763	16.5	776.3	89.0	496.8	3,764	3,348
夜冷短日処理有り	544	7,605	14.0	760.5	83.6	486.7	3,687	3,084
さちのか(参考)	439	5,534	12.6	553.4	75.4	354.2	2,683	2,023

表2つづき

品種名	等級割合(%：重量ベース)					
	3L	2L	L	M	S	小・奇
夜冷短日処理無し	9.7	19.0	36.7	21.0	8.7	4.9
夜冷短日処理有り	3.9	13.7	35.0	22.7	15.9	8.7
さちのか(参考)	1.4	9.2	32.5	22.4	19.2	15.3

※平均果重=合計収量/合計個数。1株収量=合計収量/10株。秀品率=(3L～S合計)/合計果数。
1棟換算収量=1株収量×定植株数(640株)。10a換算収量=1棟換算収量/132㎡×1000㎡。
10a換算秀品収量=10a換算収量×秀品率。
※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表 3　品質調査

測定日	よつぼし			さちのか（参考）		
	糖度(Brix%)	酸度(%)	硬度(kg)	糖度(Brix%)	酸度(%)	硬度(kg)
12 月 13 日	13.8	0.74	0.92	12.4	0.78	0.82
1 月 10 日	16.7	0.83	0.90	16.1	0.74	0.80
3 月 9 日	12.8	0.54	0.89	11.6	0.74	0.88
4 月 13 日	10.5	0.88	0.90	9.6	0.98	0.89
5 月 11 日	12.5	0.74	0.86	10.9	0.78	0.89
6 月 10 日	13.3	1.07	0.82	12.3	1.31	0.80

※各測定日に収穫した 5 果当たりの平均値。

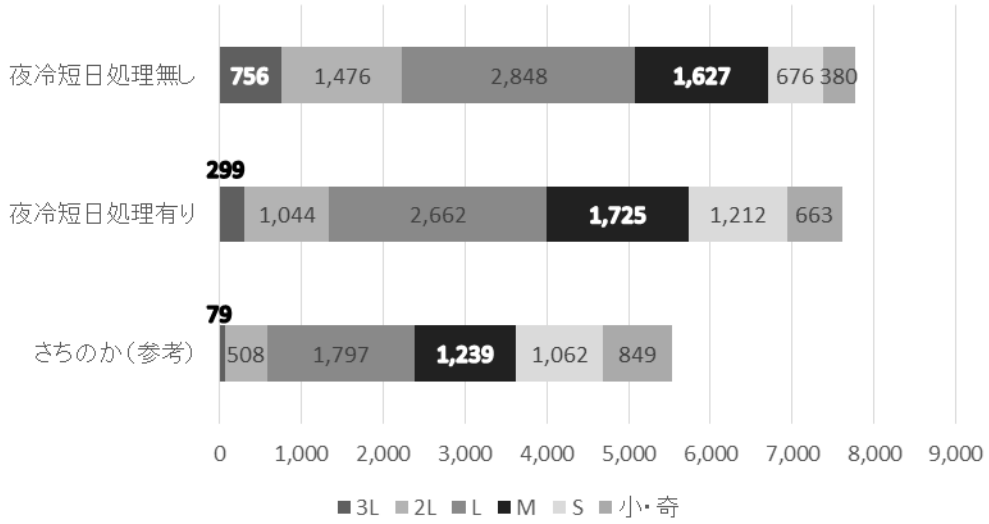


図 1　調査区別収量（g）（10 株当たり）

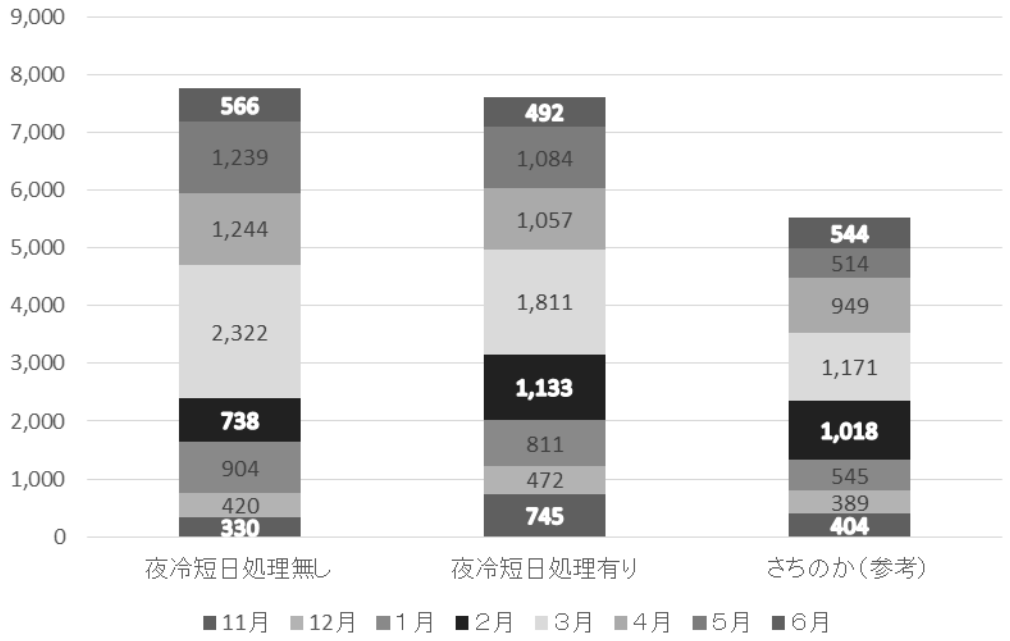


図 2　月別収量（g）（10 株当たり）

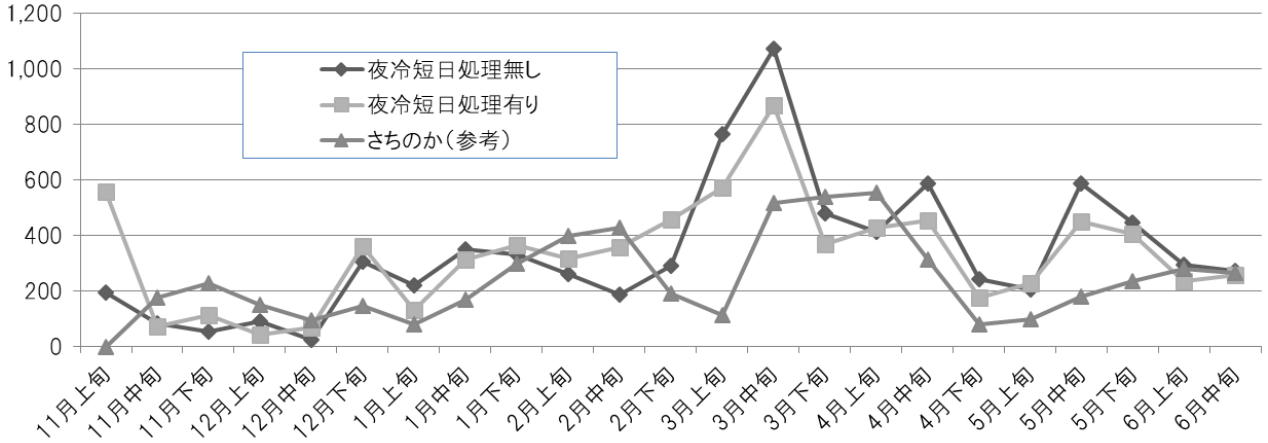


図 3　月旬別収量（g）（10 株当たり）

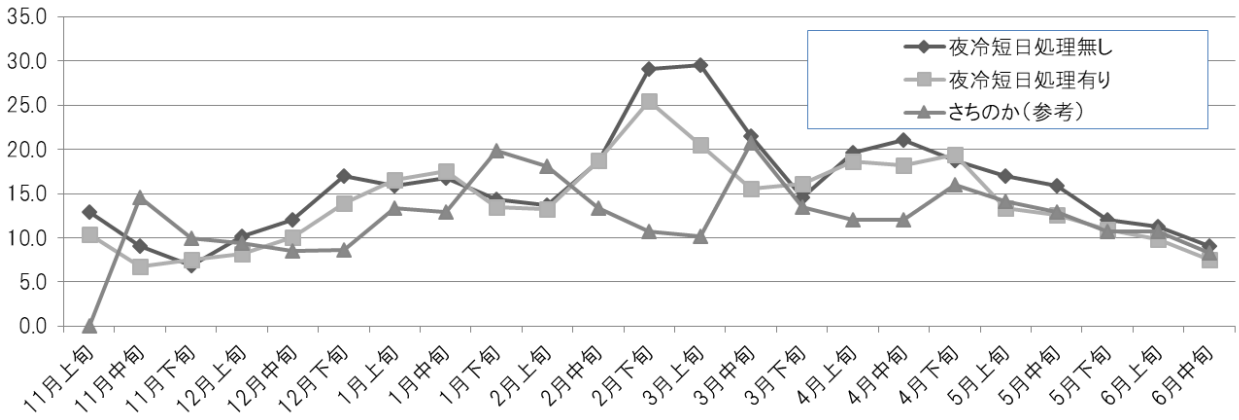


図 4　月旬別平均果重（g）（10 株当たり）

表 4　昨年度までの結果

・平成 30 年度

品種名	3L (35g以上)		2L (25～35g未満)		L (15～25g未満)		M (11～15g未満)		S (7～11g未満)		小果・奇形果	
	果数	収量	果数	収量	果数	収量	果数	収量	果数	収量	果数	収量
夜冷短日処理無し	9	334	31	883	132	2,553	88	1,134	51	498	37	399
夜冷短日処理有り	9	345	58	1,649	121	2,333	89	1,155	61	566	49	614
さちのか(参考)	6	226	29	837	115	2,179	78	1,000	77	719	53	608

表2つづき

品種名	合計		平均果重	1株収量	秀品率(%)	1棟(132㎡)換算収量(kg)	10a換算収量(kg)	10a換算秀品収量(kg)
	果数	収量						
夜冷短日処理無し	348	5,801	16.7	580.1	93.1	371.3	2,813	2,619
夜冷短日処理有り	387	6,662	17.2	666.2	90.8	426.4	3,230	2,932
さちのか(参考)	358	5,569	15.6	556.9	89.1	356.4	2,700	2,405

表2つづき

品種名	等級割合(%：重量ベース)					
	3L	2L	L	M	S	小･奇
夜冷短日処理無し	5.8	15.2	44.0	19.5	8.6	6.9
夜冷短日処理有り	5.2	24.8	35.0	17.3	8.5	9.2
さちのか(参考)	4.1	15.0	39.1	18.0	12.9	10.9

※算出方法は表 2 に準じる。

・平成 31 年度

品種名	3L (35g以上)		2L (25～35g未満)		L (15～25g未満)		M (11～15g未満)		S (7～11g未満)		小果・奇形果	
	果数	収量	果数	収量	果数	収量	果数	収量	果数	収量	果数	収量
夜冷短日処理無し	18	710	63	1,816	147	2,754	112	1,457	68	619	58	419
夜冷短日処理有り	9	352	36	1,044	147	2,767	137	1,752	137	1,233	89	663
さちのか(参考)	4	165	19	541	103	1,942	101	1,293	119	1,062	108	849

表2つづき

品種名	合計		平均果重	1株収量	秀品率(%)	1棟(132㎡)換算収量(kg)	10a換算収量(kg)	10a換算秀品収量(kg)
	果数	収量						
夜冷短日処理無し	466	7,775	16.7	777.5	87.6	497.6	3,770	3,301
夜冷短日処理有り	555	7,811	14.1	781.1	84.0	499.9	3,787	3,180
さちのか(参考)	454	5,852	12.9	585.2	76.2	374.5	2,837	2,162

表2つづき

品種名	等級割合(%：重量ベース)					
	3L	2L	L	M	S	小･奇
夜冷短日処理無し	9.1	23.4	35.4	18.7	8.0	5.4
夜冷短日処理有り	4.5	13.4	35.4	22.4	15.8	8.5
さちのか(参考)	2.8	9.2	33.2	22.1	18.1	14.5

※算出方法は表 2 に準じる。

施設野菜の部　№2

項　目：栽培技術調査

調査名：夏秋どりいちごの品種比較調査（継続：平成 31 年度～令和 2 年度）

１目的　当地域における夏秋どりいちご生産に適応する四季成り性品種について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調　査　場　所　　パイプハウス 12 号（99 ㎡：約 30 坪）

(2)　耕　種　概　要

1)　栽　培　方　法　　養液土耕栽培、無加温

2)　定 植 年 月 日　　令和 2 年 6 月 18 日

3)　栽　植　距　離　　ベッド幅 110 ㎝、うね幅 70㎝、株間 25 ㎝、2 条植え

4)　定　植　株　数　　512 株／棟

5)　施　　肥　　量　　N-P-K=1.53-0.64-1.68kg/a
【基肥】有機アグレット 816（8-1-6）：10kg/a
【追肥】大塚養液土耕 6 号（13.5-10-20）：5.4kg/a

6)　使　用　資　材　　アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、白黒ダブルマルチ
令和 2 年 7 月 20 日～令和 3 年 2 月 26 日

7)　収　穫　期　間　　内カーテン：　令和 2 年 9 月 23 日～収穫終了日

8)　保　　温　　41 回（成分回数）

9)　薬　剤　散　布　　※うね毎に 1 本、株上にラノーテープ剤を設置

(3)　調 査 区 の 構 成

1)　調　　査　　区　　3 区（1 区 10 株、1 区制）

2)　供　試　品　種　　<1>すずあかね
<2>よつぼし
<3>盛岡 37 号

(4)　調　査　項　目　　生育、収量、糖度

３結果の概要

(1)　本年度の結果

1)　生育

収穫開始時の生育調査では、「すずあかね」で葉長、クラウン径を除く項目で優った。

病害虫について、病害は特に発生しなかったが、アザミウマが生育期間を通して発生した。

2)　収量

１株収量及び 10a 換算収量は「盛岡 37 号」が優れた結果となった。月旬別収量を見ると、9 月までは「すずあかね」が、10 月以降は「よつぼし」が多い傾向であった。

3)　品質

平均果重は「盛岡 37 号」が優る結果となった。秀品率は「すずあかね」で優れていた。10a 換算秀品収量では「盛岡 37 号」が優っていた。

以上より、今年度の調査では「盛岡 37 号」が最も優れる結果となった。

(2)　次年度以降の計画

完了

表 1　生育調査（10 株平均）（収穫開始時）

調査区名	草丈 (cm)	展開葉数 (枚)	葉柄長 (cm)	葉長 (cm)	葉幅長 (cm)	クラウン径 (mm)
すずあかね	24.5	10.6	13.5	11.6	12.0	17.5
よつぼし	22.4	10.4	11.2	11.7	10.7	20.5
盛岡 37 号	18.5	8.0	9.5	9.1	8.5	15.5

表 2　収量調査（10 株当たり）

調査区名	15玉大 (25g以上)		15玉小 (21～25g未満)		20玉 (17～21g未満)		24玉 (14～17g未満)		30玉 (10～14g未満)		35玉 (8～10g未満)		42玉 (6～8g未満)	
	果数	果数(g)	果数	果数(g)	果数	果数(g)	果数	果数(g)	果数	果数(g)	果数	果数(g)	果数	果数(g)
すずあかね	3	85	12	273	40	739	42	651	109	1,290	85	761	83	584
よつぼし	22	670	18	406	24	423	36	550	116	1,348	62	550	73	516
盛岡37号	23	702	21	479	53	1,074	55	847	139	1,620	86	759	72	499

表2つづき

調査区名	小果・奇形果		合計		平均果重(g)	1株収量(g)	秀品率(%)	1棟換算収量(kg)	10a換算収量(kg)	10a換算秀品収量(kg)
	果数	収量(g)	果数	収量(g)						
すずあかね	97	599	471	4,982	10.6	498.2	88.0	255.1	2,577	2,267
よつぼし	95	708	446	5,171	11.6	517.1	86.3	264.8	2,674	2,308
盛岡37号	102	1,015	551	6,995	12.7	699.5	85.5	358.1	3,618	3,093

表2つづき

調査区名	等級割合(%：重量ベース)							
	15玉大	15玉小	20玉	24玉	30玉	35玉	42玉	小・奇
すずあかね	1.7	5.5	14.8	13.1	25.9	15.3	11.7	12.0
よつぼし	13.0	7.9	8.2	10.6	26.1	10.6	10.0	13.7
盛岡37号	10.0	6.8	15.4	12.1	23.2	10.9	7.1	14.5

※平均果重=合計収量/合計果数。1株収量=合計収量/10株。秀品率=(15玉大～42玉合計収量)/合計収量。
1棟換算収量=1株収量×定植株数(512株)。10a換算収量=1棟換算収量/99㎡×1000㎡。
10a換算秀品収量=10a換算収量×秀品率。
※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表 3　品質調査

測定日	すずあかね			よつぼし			盛岡37号		
	糖度 (Brix%)	酸度(%)	硬度(kg)	糖度 (Brix%)	酸度(%)	硬度(kg)	糖度 (Brix%)	酸度(%)	硬度(kg)
8月11日	9.0	1.07	0.95	10.9	1.36	0.99	9.9	0.99	0.90
9月11日	7.7	0.72	0.89	8.6	1.09	0.87	8.5	1.05	0.85
10月9日	7.3	0.90	0.91	9.7	1.17	0.85	9.7	1.22	0.85
11月9日	6.2	0.88	0.89	7.1	1.14	0.89	6.5	1.08	0.86
12月11日	6.6	0.94	0.92	8.5	1.06	0.87	8.8	1.01	0.80
1月12日	6.3	0.86	0.86	7.8	0.88	0.90	8.5	0.98	0.84
2月12日	8.8	0.67	0.99	9.1	0.70	0.91	9.0	0.80	0.88

※各測定日に収穫した 5 果当たりの平均値。

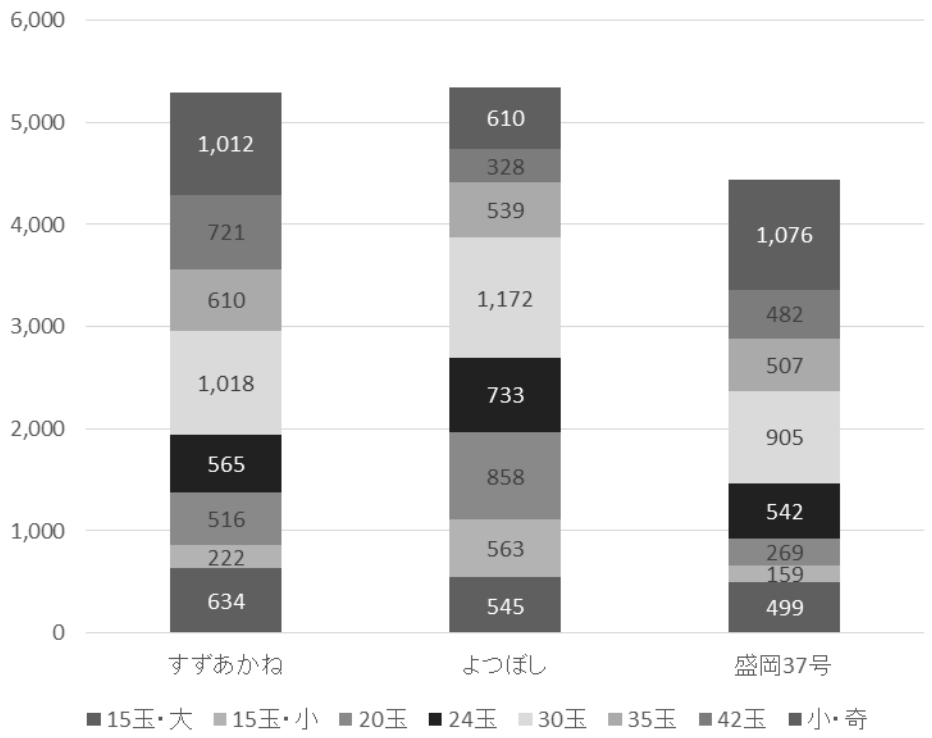


図 1　調査区別収量（g）（10 株当たり）

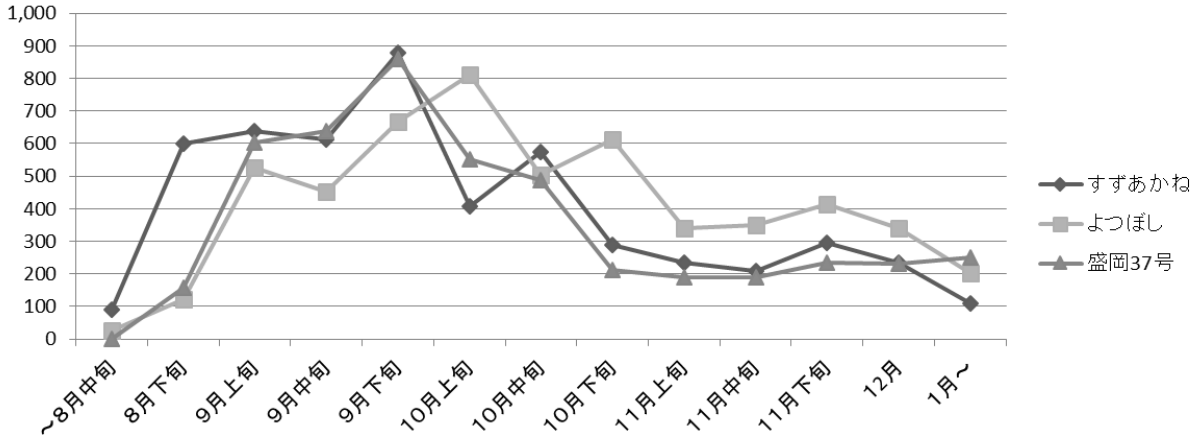


図 2　月旬別収量（g）（10 株当たり）

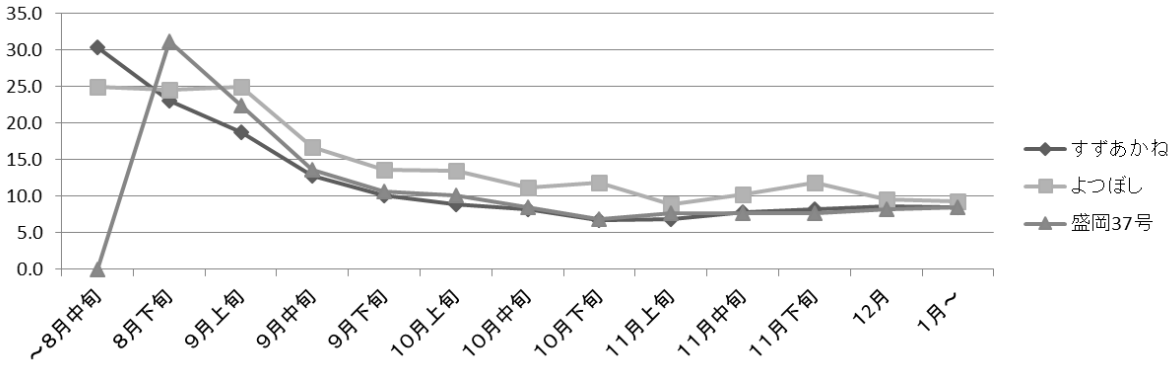


図 3　月旬別平均果重（g）（10 株当たり）

施設野菜の部　No.3

項目：品種比較調査

調査名：ほうれんそうの寒締め栽培における品種比較調査（新規：令和２年度～令和３年度）

１目的　当地域において冬期間に栽培される「寒締めほうれんそう」に適応する品種について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス 10 号（100 ㎡：約 30 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　土耕栽培、無加温

2)　は種月日　令和２年９月 29 日

3)　栽植距離　ベッド幅 110 ㎝、株間 15 ㎝、条間 15 ㎝、７条植え、２粒播き

4)　定植株数　2,800 株/棟

5)　施肥量　N-P-K=1.00-0.81-0.19kg/a
シリカ＆フミン（2.7-2.2-0.5）：37kg/a

6)　使用資材　白黒ダブルマルチ

7)　収穫月日　令和２年 12 月２日

8)　薬剤散布　３回（成分回数）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　３区（１区 20 株、１区制）

2)　供試品種　<1>雪美菜 02　（雪印種苗㈱）
<2>じっくり朝霧　（㈱渡辺採種場）
<3>朝霧　（㈱渡辺採種場）

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

３結果の概要

(1)　本年度の結果

1)　生育

各品種とも発芽は良好、生育も順調に進み、10 月 26 日からは寒締めのためにハウスの開放を始めた。

病害虫について、特に発生は見られなかった。

2)　収量

調整重、1a 換算収量、1a 換算出荷袋数は「朝霧」が優った。

3)　品質

糖度調査では「じっくり朝霧」が高かった。

(2)　次年度以降の計画

継続

表 1　収量調査（20 株調査）

品種名	葉数 (枚)	葉長 (cm)	株重 (g)	調整重 (g)	1a 換算 収量(kg)	1a 換算 出荷袋数
雪美菜 02	14.7	23.2	65.0	55.4	155.1	705.1
じっくり朝霧	15.1	22.3	66.2	58.3	163.2	742.0
朝霧	14.9	27.2	90.1	83.9	234.9	1067.8

※1 棟換算収量=調整重×2,800 株/棟。1a 換算収量=1 棟換算収量/100 ㎡×100 ㎡。

1a 換算出荷袋数=1a 換算収量/220g。

表 2　糖度調査（20 株調査）

品種名	糖度(Brix%)
雪美菜 02	9.4
じっくり朝霧	9.8
朝霧	9.1

施設野菜の部　No.4

項　目：品種比較調査

調査名：トマトの促成栽培における品種比較調査（継続：平成 31 年度～令和 3 年度）

１目的　トマトの促成栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　ガラス温室 5 号（165 ㎡：約 50 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培
2)　は種月日　令和元年 12 月 26 日（144 穴トレイ）
3)　移植月日　令和 2 年 1 月 17 日（12 ㎝ポット）
4)　定植月日　令和 2 年 2 月 27 日
5)　育苗日数　63 日
6)　栽植距離　ベッド幅 100 ㎝、株間 40 ㎝、2 条植え
7)　定植株数　320 株/棟
8)　施肥量　N-P-K=1.27-1.28-2.22kg/a
【肥料】大塚養液土耕 5 号（12-20-20、～収穫前）：4.2kg/a
大塚養液土耕 2 号（14-8-25、収穫開始～）：5.5kg/a
9)　使用資材　ハイフミンハイブリッド G（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（令和 2 年 6 月 9 日～収穫終了日）。
10)　収穫期間　令和 2 年 5 月 8 日～8 月 3 日
11)　保温　内カーテン：定植日～令和 2 年 5 月 18 日
12)　加温　温風暖房機（12℃設定）：定植日～令和 2 年 5 月 7 日
13)　薬剤散布　13 回（成分回数）
※うね毎に 1 本、株上にラノーテープ剤を設置。
14)　摘心　令和 2 年 5 月 20 日

(3)　調査区の構成

1)　調査区　4 区（1 区 5 株、1 区制）
2)　供試品種
〈1〉みそら 64　（みかど協和㈱）
〈2〉CF 桃太郎はるか　（タキイ種苗㈱）
〈3〉桃太郎ネクスト　（タキイ種苗㈱）
〈4〉麗月　（㈱サカタのタネ）

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

３結果の概要

(1)　本年度の結果

1)　生育

定植直後は順調に生育したものの、4 月の低温日照不足により生育が停滞した。また、5 月になると高温が続き、花落ちや葉やけの症状が見られた。

定植時の生育調査では、「CF 桃太郎はるか」で草丈が高くなり、「みそら 64」で最も低くなった。

収穫開始時の生育調査では、「桃太郎ネクスト」で草丈が最も高くなり、「みそら 64」で最も低くなった。最も節間が短い草姿となったのは「みそら 64」であった。

病害虫については、特段発生は見られなかった。

2)　収量

10a 換算収量は「麗月」で最も多くなった。月別収量で最も多かったのは、5 月は「みそら 64」、6 月は「麗月」、7 月は「麗月」であった。

3)　品質

平均 1 果重は「麗月」で最も大きくなり、「みそら 64」で最も小さくなった。上物率は「みそら 64」、で最も高くなり、「桃太郎ネクスト」で低くなった。10a 換算上物収量は「麗月」で高くなった。

糖度は、「みそら 64」で高い傾向が見られた。

(2)　次年度以降の計画
継続

表 1　生育調査（5 株平均）

品種名		草丈 (cm)	葉数 (枚)	第 1 果房の節位	節間長 (cm)	葉長 (cm)	茎径 (mm)
みそら 64	定植時	31.0	8.8	7.1	－	6.3	25.1
	収穫開始時	152.5	24.6	－	6.2	12.2	43.8
CF 桃太郎はるか	定植時	47.3	10.1	7.2	－	7.3	31.8
	収穫開始時	202.5	27.3	－	7.4	13.1	44.4
桃太郎ネクスト	定植時	44.9	9.9	6.8	－	6.9	29.8
	収穫開始時	210.9	29.4	－	7.2	11.6	48.7
麗月	定植時	37.9	9.9	7.3	－	6.7	29.0
	収穫開始時	199.2	27.4	－	7.3	11.2	47.6

表 2　収量調査（10 株当たり）

品種名	上物		下物		合計	
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)
みそら64	200	39,494	13	2,886	213	42,380
CF桃太郎はるか	205	45,939	24	5,780	229	51,719
桃太郎ネクスト	180	36,989	29	6,525	209	43,514
麗月	200	55,977	24	4,321	224	60,298

品種名	1株換算収量(g)	平均1果重 (g)	上物率 (%)	1 棟換算収量(kg)	10a換算収量(t)	10a換算上物収量(t)
みそら64	4,238	199.0	93.2	1,356	8.2	7.7
CF桃太郎はるか	5,172	225.8	88.8	1,655	10.0	8.9
桃太郎ネクスト	4,351	208.2	85.0	1,392	8.4	7.2
麗月	6,030	269.2	92.8	1,930	11.7	10.9

※上物：A+B 品、下物：C+D 品+外品の合計。
※1株換算収量=合計収量/10株。平均1果重=合計収量/合計果数。上物率=合計収量/上物収量。
　10a換算収量=1株換算収量×2000株/10a。10a換算上物収量=10a換算収量×上物率。
※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表 3　糖度調査（Brix%）

品種名	5 月 25 日	6 月 26 日
みそら 64	6.5	6.2
CF 桃太郎はるか	6.3	5.9
桃太郎ネクスト	6.4	5.8
麗月	5.8	5.9

※各測定日に収穫した 5 果当たりの平均値。

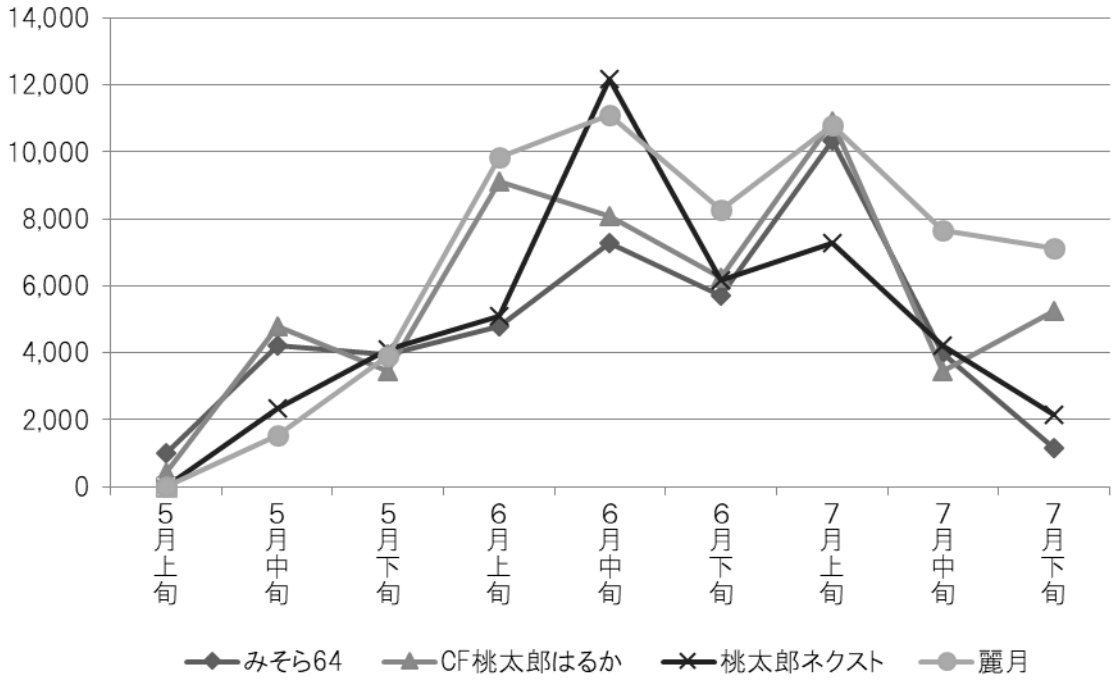


図１　月旬別収量（g）（5 株当たり）

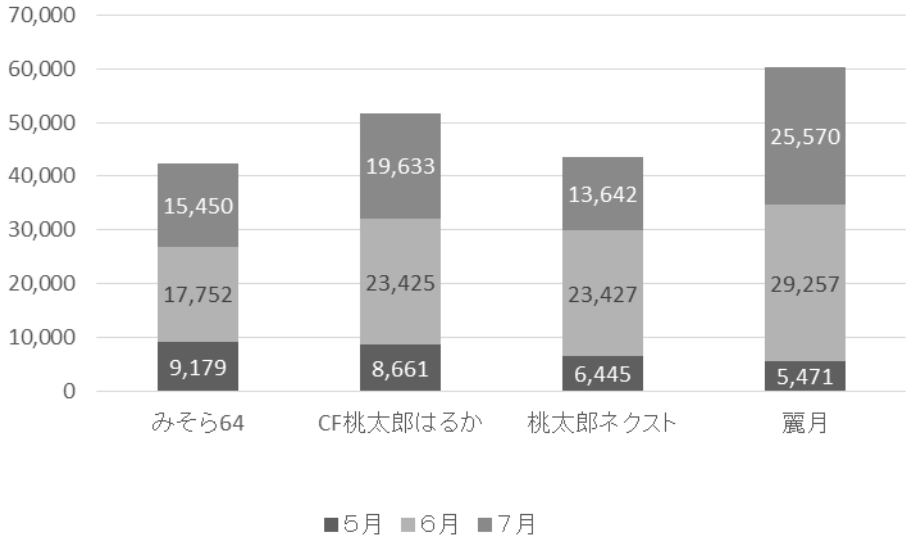


図２　月別収量（g）（5 株当たり）

施設野菜の部　No.5

項　目：品種比較調査

調査名：トマトの夏秋栽培における品種比較調査（新規：令和２年度～令和３年度）

１目的　トマトの夏秋栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　ガラス温室６号（165 ㎡：約 50 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培
2)　は種月日　令和２年２月 28 日（144 穴トレイ）
3)　移植月日　令和２年３月 13 日（12 ㎝ポット）
4)　定植月日　令和２年４月 14 日
5)　育苗日数　46 日
6)　栽植距離　ベッド幅 100 ㎝、株間 40 ㎝、２条植え
7)　定植株数　228 株/棟
8)　施肥量　N-P-K=2.36-1.56-7.60kg/a
【肥料】大塚養液土耕５号（12-20-20、～収穫前）：1.6kg/a
大塚養液土耕２号（14-8-25、収穫開始～）：15.5kg/a
けい酸加里プレミア 34（K:20%）：17.0kg/a
9)　使用資材　ハイフミンハイブリッドＧ（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（令和２年６月９日～9 月 15 日）。
10)　収穫期間　令和２年６月 19 日～11 月 24 日
11)　保温　内カーテン：定植日～令和２年５月 18 日、
9 月 15 日～収穫終了日
12)　薬剤散布　38 回（成分回数）
※うね毎に１本、株上にラノーテープ剤を設置。
13)　摘心　令和２年９月 15 日

(3)　調査区の構成

1)　調査区　５区（１区 10 株、１区制）
2)　供試品種
〈1〉みそら 64　(みかど協和㈱)
〈2〉ひなた　(みかど協和㈱)
〈3〉桃太郎ネクスト　(タキイ種苗㈱)
〈4〉りんか 409　(㈱サカタのタネ)
〈5〉麗月　(㈱サカタのタネ)

３結果の概要

(1)　本年度の結果

1)　生育

定植時の生育調査では、「桃太郎ネクスト」で草丈が高くなり、「ひなた」で最も低くなった。

収穫開始時の生育調査では、「桃太郎ネクスト」で草丈が最も高くなり、「みそら 64」で最も低くなった。最も節間が短い草姿となったのは「みそら 64」であった。

病害虫の発生は見られなかった。

2)　収量

10a 換算収量は「みそら 64」で最も多くなった。月別収量で最も多かったのは、6 月は「桃太郎ネクスト」、7 月は「ひなた」、8 月は「桃太郎ネクスト」、9 月は「りんか 409」、10 月以降は「麗月」であった。

3)　品質

平均１果重は「りんか 409」で最も大きくなり、「桃太郎ネクスト」で最も小さくなった。上物率は「みそら 64」で高くなり、「麗月」で低くなった。10a 換算上物収量は「みそら 64」で高くなり、10t を超える上物収量となった。

糖度は、6 月は「りんか 409」、7 月は「みそら 64」、8 月は「りんか 409」、9 月は「ひ

なた」、10 月以降は「桃太郎ネクスト」で高かった。

(2)　次年度以降の計画
継続

表 1　生育調査（10 株平均）

品種名		草丈 (cm)	葉数 (枚)	第 1 果房の節位	節間長 (cm)	葉長 (cm)	茎径 (mm)
みそら 64	定植時	40.3	9.0	6.5	－	31.1	7.7
	収穫開始時	164.2	27.0	－	6.1	47.4	14.2
ひなた	定植時	37.8	6.6	6.6	－	33.3	7.4
	収穫開始時	184.6	28.5	－	6.5	46.2	11.7
桃太郎ネクスト	定植時	45.2	9.4	6.0	－	34.2	7.0
	収穫開始時	223.6	31.0	－	7.2	53.0	12.8
りんか 409	定植時	38.5	9.2	6.5	－	31.2	7.7
	収穫開始時	184.4	29.8	－	6.2	46.4	14.3
麗月	定植時	38.0	8.2	5.0	－	31.3	6.7
	収穫開始時	218.0	30.0	－	7.3	50.9	12.5

表 2　収量調査（10 株当たり）

品種名	上物		下物		合計	
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)
みそら 64	152	27,256	51	5,801	203	33,057
ひなた	113	20,877	65	7,487	178	28,364
桃太郎ネクスト	132	21,284	55	7,855	187	29,139
りんか 409	113	21,614	68	9,243	181	30,857
麗月	114	20,208	81	11,535	195	31,743

表 2 つづき

品種名	1 株換算収量(g)	平均 1 果重(g)	上物率(%)	1 棟換算収量(kg)	10a 換算収量(t)	10a 換算上物収量(t)
みそら 64	6,611	162.8	82.5	2,116	12.8	10.6
ひなた	5,673	159.3	73.6	1,815	11.0	8.1
桃太郎ネクスト	5,828	155.8	73.0	1,865	11.3	8.3
りんか 409	6,171	170.5	70.0	1,975	12.0	8.4
麗月	6,349	162.8	63.7	2,032	12.3	7.8

※上物:A+B 品、下物:C+D+外品の合計。

※1 株換算収量=合計収量/10 株。平均 1 果重=合計収量/合計果数。上物率=上物収量/合計収量×100。

1 棟(165 ㎡)換算収量=1 株換算収量×定植株数(320 株)。10a 換算収量=1 棟換算収量/165 ㎡×1000 ㎡。

10a 換算上物収量=10a 換算収量×上物率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表 3　糖度調査（Brix%）

品種名	6 月 24 日	7 月 27 日	8 月 24 日	9 月 25 日	10 月 26 日
みそら 64	5.6	5.9	5.0	5.4	6.1
ひなた	5.7	5.6	4.7	5.5	6.0
桃太郎ネクスト	5.6	5.3	4.9	4.8	6.6
りんか 409	6.0	5.0	5.5	4.9	5.8
麗月	5.1	5.6	5.0	5.2	6.1

※各測定日に収穫した 5 果当たりの平均値。

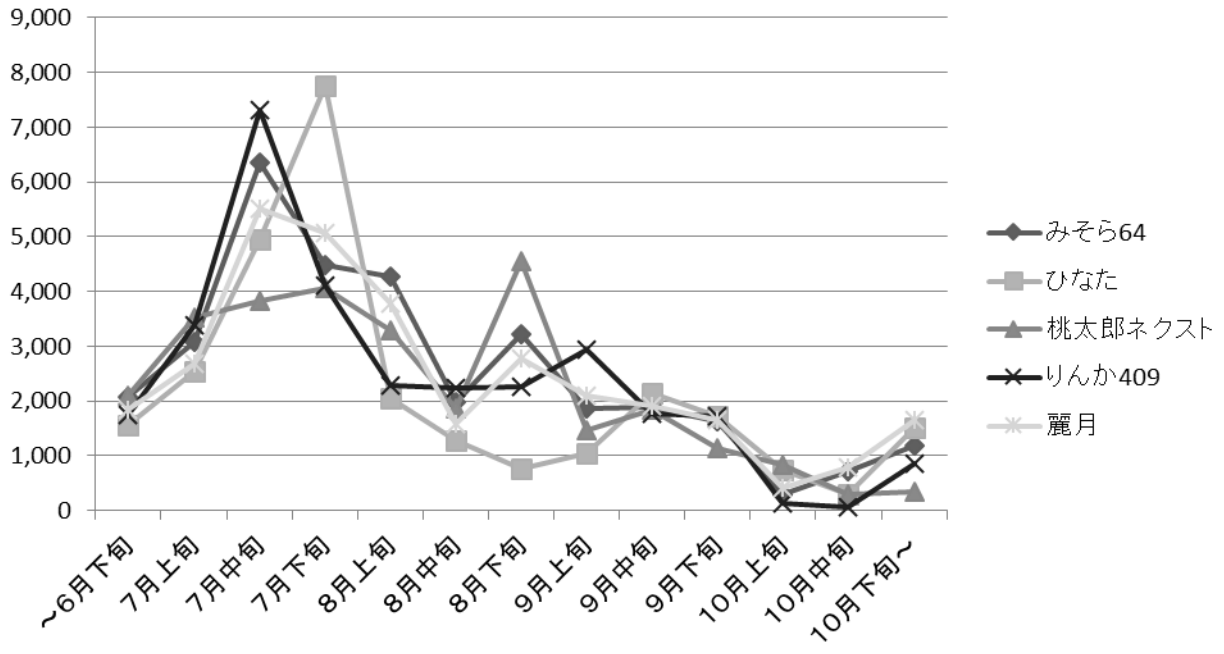


図１　月旬別収量（g）（5 株当たり）

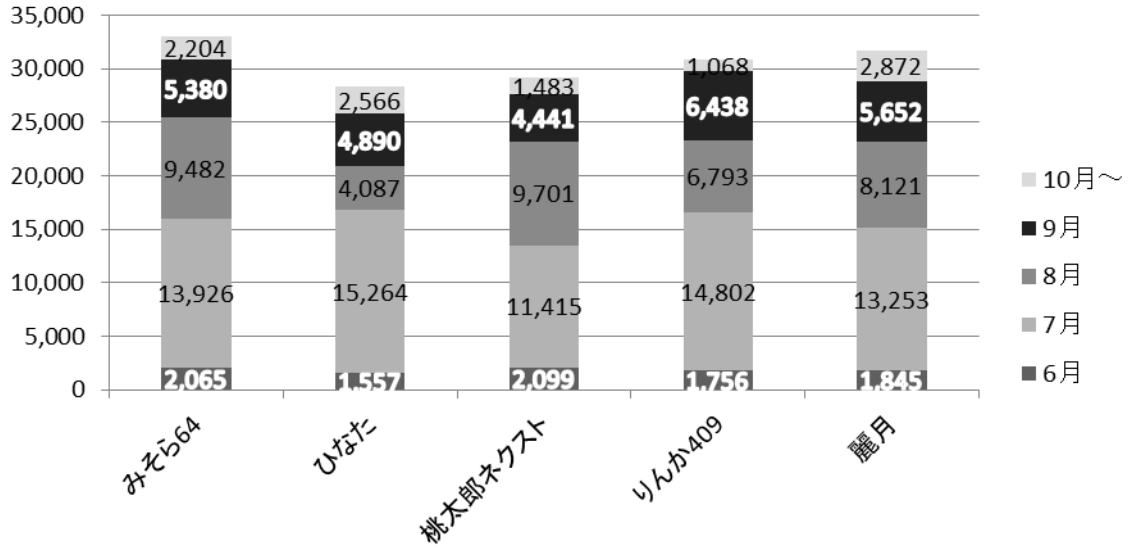


図２　月別収量（g）（5 株当たり）

施設野菜の部　No.6

項　目：品種比較調査

調査名：トマトの抑制栽培における品種比較調査（継続：平成31年度～令和3年度）

１目的　トマトの抑制栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　ガラス温室5号（165㎡：約50坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培

2)　は種月日　令和2年5月29日（72穴トレイ）

3)　定植月日　令和2年6月18日
（前作の栽培中にその株間に定植）

4)　育苗日数　20日

5)　栽植距離　ベッド幅100㎝、株間40㎝、2条植え

6)　定植株数　320株/棟

7)　施肥量　N-P-K=0.24-0.33-0.40kg/a
【肥料】大塚養液土耕5号（12-20-20、～収穫前）：1.5kg/a
大塚養液土耕2号（14-8-25、収穫開始～）：0.4kg/a

8)　使用資材　あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（令和2年6月9日～9月15日）。

9)　収穫期間　令和2年8月24日～12月4日

10)　保温　内カーテン：令和2年9月29日～収穫終了日

11)　加温　温風暖房機（8℃設定）：令和2年11月16日～収穫終了日

12)　薬剤散布　30回（成分回数）
※うね毎に1本、株上にラノーテープ剤を設置。

13)　摘心　令和2年9月18日（6～7段）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　5区（1区10株、1区制）

2)　供試品種
〈1〉みそら64　（みかど協和㈱）
〈2〉ひなた　（みかど協和㈱）
〈3〉桃太郎ネクスト　（タキイ種苗㈱）
〈4〉りんか409　（㈱サカタのタネ）
〈5〉麗月　（㈱サカタのタネ）

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

３結果の概要

(1)　本年度の結果

1)　生育

収穫開始時の生育調査では、「桃太郎ネクスト」で草丈が最も高くなった。最も節間が短い草姿となったのは「ひなた」であった。茎径は「みそら64」で太かった。

摘心時の開花段数は、「みそら64」、「ひなた」で7段、その他の品種で6段であった。

病害虫については、ネコブセンチュウの発生を確認しており、地上部の生育に影響していたと思われる。

2)　収量

10a換算収量は「りんか409」で最も多くなった。月別収量で最も多かったのは、9月では「麗月」、10月では「みそら64」、11月以降では「りんか409」であった。

3)　品質

平均1果重は「りんか409」で大きくなった。上物率は「みそら64」、「ひなた」、「桃太郎ネクスト」で80%台、「りんか409」、「麗月」で70%台であった。10a換算上物収量は「みそら64」で多くなった。

糖度は、9月は「ひなた」、それ以外の月は「桃太郎ネクスト」が高かった。

(2)　次年度以降の計画
継続

表 1　生育調査（収穫開始時、10 株平均）

品種名	草丈 (cm)	葉数 (枚)	節間長 (cm)	葉長 (枚)	茎径 (mm)
みそら 64	195.1	25.0	7.8	48.6	12.1
ひなた	164.0	25.6	6.4	45.2	11.6
桃太郎ネクスト	195.7	22.2	8.8	49.7	10.4
りんか 409	153.1	21.6	7.1	44.3	10.9
麗月	163.7	19.7	8.3	45.1	9.4

表 2　収量調査（10 株当たり）

品種名	上物		下物		合計	
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)
みそら 64	114	20,850	23	3,057	137	23,907
ひなた	91	17,414	18	2,050	109	19,464
桃太郎ネクスト	99	16,425	20	3,733	119	20,158
りんか 409	104	19,799	28	6,550	132	26,348
麗月	101	18,624	22	5,083	123	23,707

表 2 つづき

品種名	1 株換算収量(g)	平均 1 果重(g)	上物率 (%)	1 棟換算収量(kg)	10a 換算収量(t)	10a 換算上物収量(t)
みそら 64	2,391	174.6	87.2	765	4.6	4.0
ひなた	1,946	179.4	89.5	623	3.8	3.4
桃太郎ネクスト	2,016	169.7	81.5	645	3.9	3.2
りんか 409	2,635	199.6	75.1	843	5.1	3.8
麗月	2,371	192.1	78.6	759	4.6	3.6

※上物:A+B 品、下物:C+D+外品の合計。

※1 株換算収量=合計収量/10 株。平均 1 果重=合計収量/合計果数。上物率=上物収量/合計収量×100。

1 棟(165 ㎡)換算収量=1 株換算収量×定植株数(320 株)。10a 換算収量=1 棟換算収量/165 ㎡×1000 ㎡。

10a 換算上物収量=10a 換算収量×上物率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表３　糖度調査（Brix%）

品種名	9 月 25 日	10 月 26 日	11 月 24 日
みそら 64	5.7	5.8	6.1
ひなた	5.9	6.0	6.2
桃太郎ネクスト	5.0	6.1	6.6
りんか 409	5.0	5.6	5.8
麗月	5.6	6.0	6.1

※各測定日に収穫した５果当たりの平均値。

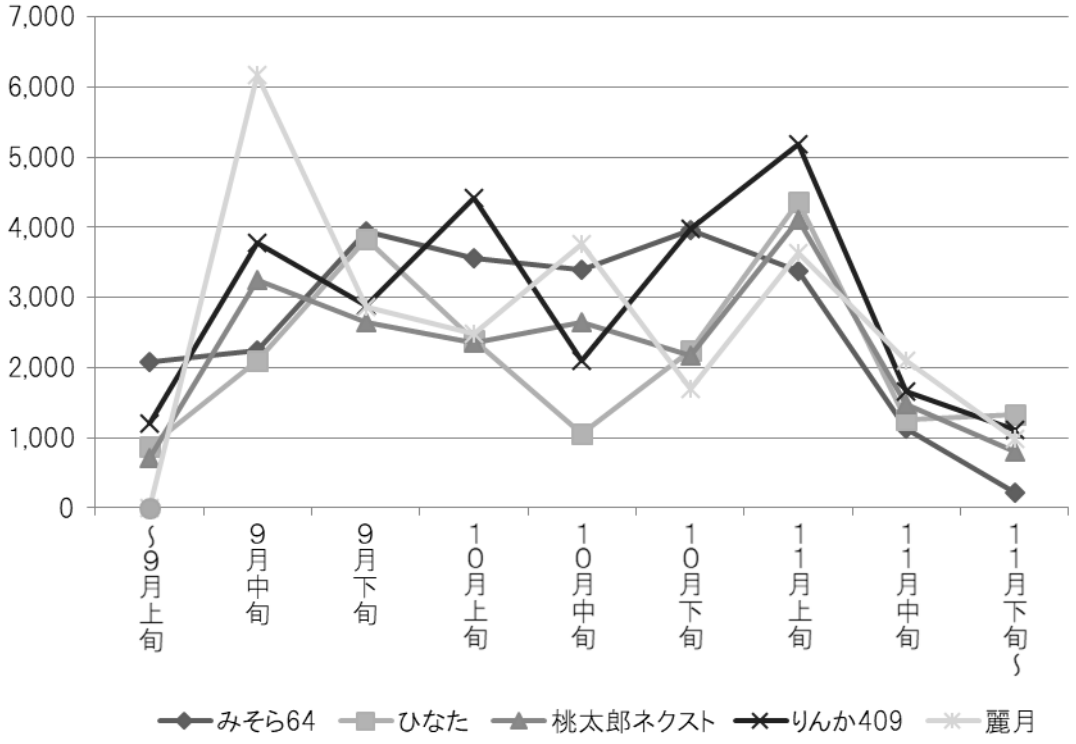


図１　月旬別収量（g）（10 株当たり）

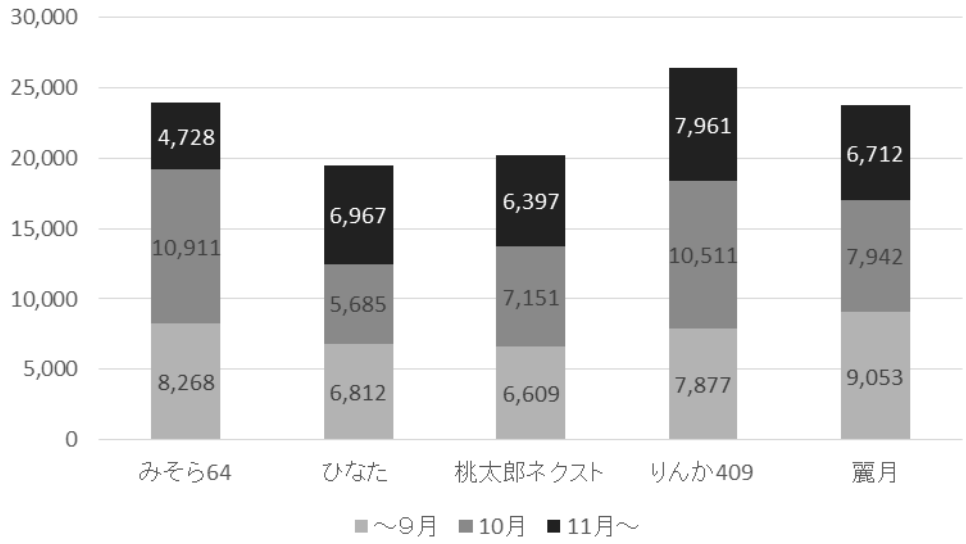


図 2　月別収量（g）（10 株当たり）

施設野菜の部　No.7

項　目：品種比較調査

調査名：ミニトマトの促成栽培における品種比較調査（継続：平成31年度～令和3年度）

１目的　ミニトマトの促成栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス1号（132㎡：約40坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培
2)　は種月日　令和元年12月26日（144穴トレイ）
3)　移植月日　令和2年1月17日（12㎝ポット）
4)　定植月日　令和2年2月26日
5)　育苗日数　62日
6)　栽植距離　ベッド幅100㎝、株間40㎝、2条植え
7)　定植株数　228株/棟
8)　施肥量　N-P-K=1.29-1.21-4.50kg/a
【肥料】大塚養液土耕5号（12-20-20、～収穫前）：3.6kg/a
大塚養液土耕2号（14-8-25、収穫開始～）：6.1kg/a
硫酸加里（K：50）：4.5kg/a
9)　使用資材　ハイフミンハイブリッドG（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（令和2年6月9日～収穫終了日）。
10)　収穫期間　令和2年5月8日～7月31日
11)　保温　内カーテン：定植日～令和2年5月18日
12)　加温　温風暖房機（12℃設定）：定植日～令和2年5月7日
13)　薬剤散布　13回（成分回数）
※うね毎に1本、株上にラノーテープ剤を設置。
14)　摘心　令和2年5月20日

(3)　調査区の構成

1)　調査区　5区（1区5株、1区制）
2)　供試品種
〈1〉キャロル10　(㈱サカタのタネ)
〈2〉キャロルスター　(㈱サカタのタネ)
〈3〉サンチェリーピュア　(トキタ種苗㈱)
〈4〉サンチェリーピュアプラス　(トキタ種苗㈱)
〈5〉サマー千果　(タキイ種苗㈱)

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

３結果の概要

(1)　本年度の結果

1)　生育

定植直後は順調に生育したものの、4月の低温日照不足により生育が停滞した。また、5月になると高温が続き、花落ちや葉やけの症状が見られた。

定植時の生育調査では、「キャロルスター」で草丈が高くなり、「サマー千果」で最も低くなった。

収穫開始時の生育調査では、「サンチェリーピュアプラス」で草丈が最も高くなり、「サマー千果」で最も低くなった。最も節間が短い草姿となったのは「サマー千果」であった。

病害虫については、特段発生は見られなかった。

2)　収量

10a換算収量は「キャロルスター」で最も多くなった。月別収量で最も多かったのは、5月は「サンチェリーピュア」、6月は「キャロルスター」、7月は「サマー千果」であった。

3) 品質

平均 1 果重は「サマー千果」で最も大きくなり、「キャロル 10」で最も小さくなった。上物率は「サンチェリーピュア」、「サンチェリーピュアプラス」で高くなり、「キャロルスター」で低くなった。10a 換算上物収量は「キャロルスター」で高くなった。

糖度は、「キャロル 10」、「キャロルスター」で高い傾向が見られた。

(2) 次年度以降の計画

継続

表 1　生育調査（5 株平均）

品種名		草丈 (cm)	葉数 (枚)	第 1 果房の節位	節間長 (cm)	葉長 (cm)	茎径 (mm)
キャロル 10	定植時	44.2	11.6	8.2	−	26.8	6.0
	収穫開始時	173.6	28.2	−	6.2	43.6	13.3
キャロルスター	定植時	49.2	11.8	6.6	−	27.0	5.3
	収穫開始時	176.0	28.6	−	6.2	44.2	12.6
サンチェリーピュア	定植時	44.8	13.0	8.4	−	24.0	6.6
	収穫開始時	157.4	28.2	−	5.6	31.0	13.1
サンチェリーピュアプラス	定植時	44.4	12.4	9.0	−	24.6	6.6
	収穫開始時	186.2	29.6	−	6.3	43.6	12.2
サマー千果	定植時	43.2	11.6	7.4	−	29.0	7.2
	収穫開始時	138.6	28.2	−	4.9	38.0	13.6

表２　収量調査（5株当たり）

品種名	2L(21g以上)		L(15～21g未満)		M(11～15g未満)		S(7～11未満)		2S(5～7g)	
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)
ｷｬﾛﾙ10	0	0	54	877	312	3,902	738	6,416	452	2,706
ｷｬﾛﾙｽﾀｰ	4	86	200	3,325	572	7,322	443	4,128	59	350
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	6	128	210	3,493	453	5,746	399	3,705	52	323
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱﾌﾟﾗｽ	1	24	203	3,321	514	6,500	424	3,997	39	235
サマー千果	28	609	314	5,328	369	4,807	113	1,118	16	103

表2つづき

品種名	上物小計		下物		合計（上+下）		1株換算収量(g)	平均1果重(g)	上物率(%)	LM率(%)
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)				
ｷｬﾛﾙ10	1,556	13,902	231	1,455	1,787	15,357	3,071	8.6	90.5	31.1
ｷｬﾛﾙｽﾀｰ	1,278	15,210	223	2,456	1,501	17,666	3,533	11.8	86.1	60.3
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	1,120	13,395	106	1,217	1,226	14,612	2,922	11.9	91.7	63.2
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱﾌﾟﾗｽ	1,181	14,077	116	1,346	1,297	15,423	3,085	11.9	91.3	63.7
サマー千果	840	11,964	118	1,586	958	13,550	2,710	14.1	88.3	74.8

表2つづき

品種名	1棟換算収量(kg)	10a換算収量(t)	10a換算上物収量(t)
ｷｬﾛﾙ10	700	5.3	4.8
ｷｬﾛﾙｽﾀｰ	806	6.1	5.3
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	666	5.0	4.6
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱﾌﾟﾗｽ	703	5.3	4.9
サマー千果	618	4.7	4.1

※上物：A品、下物：B品+外品。
※1株換算収量=合計収量/5株。平均1果重=合計収量/合計果数。
　上物率=上物収量/合計収量。LM率=(L品収量+M品収量)/合計収量。
　1棟換算収量=1株換算収量×228株(定植株数)。10a換算収量=1棟換算収量/132㎡×1000㎡。
　10a換算上物収量=10a換算収量×上物率。
※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表３　糖度調査（Brix%）

	5月25日	6月26日
キャロル10	8.7	6.9
キャロルスター	8.1	7.1
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	7.8	6.7
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱﾌﾟﾗｽ	7.6	6.8
サマー千果	7.5	6.7

※各測定日に収穫した５果当たりの平均値。

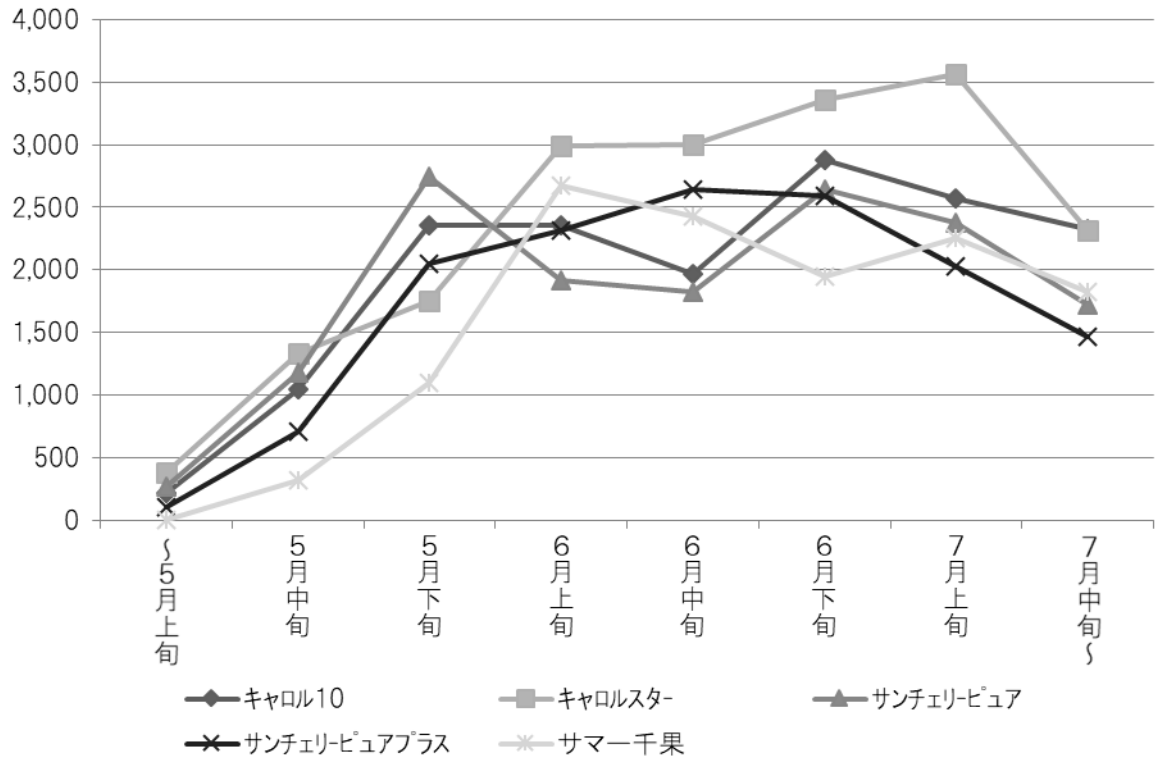


図１　月旬別収量（g）（5 株当たり）

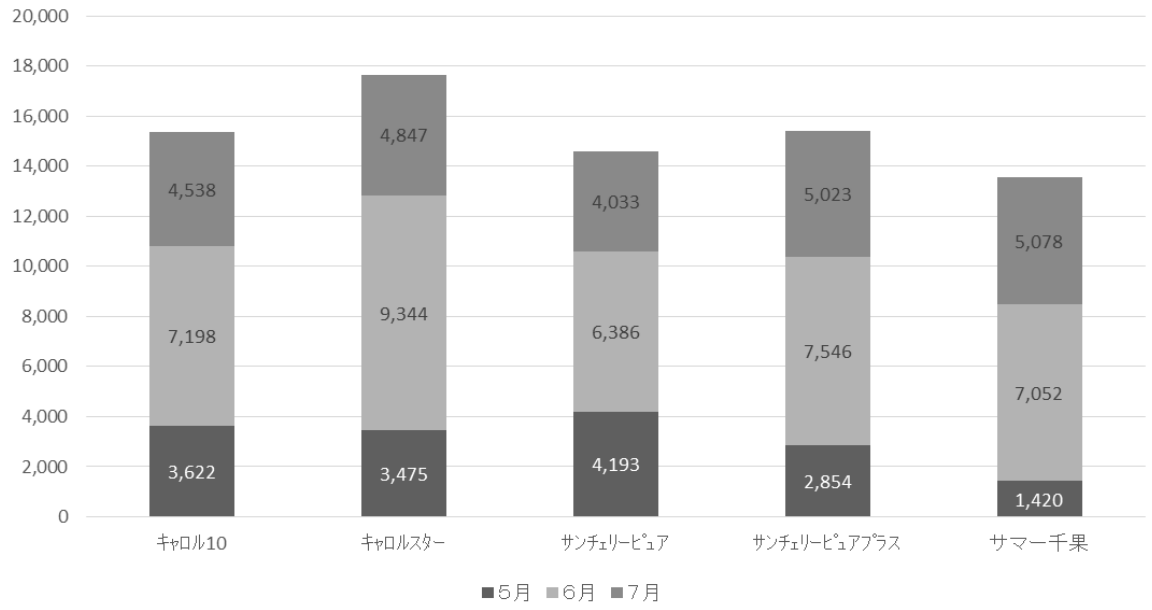


図２　月別収量（g）（5 株当たり）

施設野菜の部　No.8

項　目：品種比較調査

調査名：ミニトマトの夏秋栽培における品種比較調査（継続：平成31年度～令和3年度）

１目的　ミニトマトの夏秋栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス2号（132㎡：約40坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培
2)　は種月日　令和2年2月28日（144穴トレイ）
3)　移植月日　令和2年3月13日（12㎝ポット）
4)　定植月日　令和2年4月14日
5)　育苗日数　46日
6)　栽植距離　ベッド幅100㎝、株間40㎝、2条植え
7)　定植株数　228株/棟
8)　施肥量　N-P-K=2.36-1.56-7.60kg/a
【肥料】大塚養液土耕5号（12-20-20、～収穫前）：1.6kg/a
大塚養液土耕2号（14-8-25、収穫開始～）：15.5kg/a
けい酸加里プレミア34（K:20%）：17.0kg/a
9)　使用資材　ハイフミンハイブリッドG（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（令和2年6月9日～9月15日）。
10)　収穫期間　令和2年6月8日～11月24日
11)　保温　内カーテン：定植日～令和2年5月18日、
9月15日～収穫終了日
12)　薬剤散布　38回（成分回数）
※うね毎に1本、株上にラノーテープ剤を設置。
13)　摘心　令和2年9月15日

(3)　調査区の構成

1)　調査区　8区（1区5株、1区制）
2)　供試品種
〈1〉キャロル10　(㈱サカタのタネ)
〈2〉キャロルスター　(㈱サカタのタネ)
〈3〉サンチェリーピュア　(トキタ種苗㈱)
〈4〉サンチェリーピュアプラス　(トキタ種苗㈱)
〈5〉サマー千果　(タキイ種苗㈱)
〈6〉アイラ　(㈱武蔵野種苗園)
〈7〉キャロルムーン　(㈱サカタのタネ)
〈8〉MKS-T833　(みかど協和㈱)

３結果の概要

(1)　本年度の結果

1)　生育

定植時の生育調査では、「サンチェリーピュア」、「キャロル10」で草丈が高くなり、「サマー千果」で最も低くなった。

収穫開始時の生育調査では、「サンチェリーピュア」で草丈が最も高くなり、「MKS-T833」で最も低くなった。最も節間が短い草姿となったのは「MKS-T833」であった。

病害虫の発生は見られなかった。

2)　収量

10a換算収量は「サマー千果」で最も多くなった。月別収量で最も多かったのは、6月は「MKS-T833」、7月は「アイラ」、8月は「サンチェリーピュアプラス」、9月は「サマー千果」、10月以降は「MKS-T833」であった。

3) 品質

平均1果重は「サマー千果」で最も大きくなり、「アイラ」で最も小さくなった。上物率は「サンチェリーピュア」で高くなり、「キャロル10」で低くなった。10a換算上物収量は「サマー千果」で高くなり、8tを超える上物収量となった。

糖度は、6月は「サマー千果」、9月は「アイラ」、それ以外の月は「キャロルスター」で高かった。

(2) 次年度以降の計画

継続

表1 生育調査（5株平均）

品種名		草丈 (cm)	葉数 (枚)	第1果房の節位	節間長 (cm)	葉長 (cm)	茎径 (mm)
キャロル10	定植時	58.8	9.0	7.2	−	28.4	7.6
	収穫開始時	199.4	24.0	−	8.3	32.8	10.1
キャロルスター	定植時	50.8	7.4	5.4	−	29.4	7.3
	収穫開始時	166.6	22.4	−	7.4	36.2	9.9
サンチェリーピュア	定植時	60.2	7.0	5.0	−	29.0	8.2
	収穫開始時	203.2	25.8	−	7.9	36.2	10.3
サンチェリーピュアプラス	定植時	52.2	8.4	7.2	−	31.0	8.6
	収穫開始時	170.4	22.6	−	7.5	40.0	10.6
サマー千果	定植時	44.2	8.2	7.0	−	28.6	8.3
	収穫開始時	176.0	21.4	−	8.2	35.2	9.1
アイラ	定植時	52.6	8.8	7.0	−	29.2	8.2
	収穫開始時	167.2	23.4	−	7.1	40.4	10.5
キャロルムーン	定植時	47.2	8.8	7.4	−	31.6	8.2
	収穫開始時	153.2	20.4	−	7.5	44.2	9.2
MKS-T833	定植時	45.0	7.0	6.0	−	25.6	8.2
	収穫開始時	145.4	22.4	−	6.5	47.0	11.5

表２　収量調査（5株当たり）

品種名+B3:L43	2L(21g以上)		L(15～21g未満)		M(11～15g未満)		S(7～11未満)		2S(5～7g)	
	果数	収量(ｇ)	果数	収量(ｇ)	果数	収量(ｇ)	果数	収量(ｇ)	果数	収量(ｇ)
キャロル10	103	2,458	273	4,761	471	6,050	293	2,689	63	381
キャロルスター	95	2,141	536	9,444	601	7,855	263	2,459	47	298
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	47	1,031	432	7,312	630	7,607	519	4,844	81	492
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱﾌﾟﾗｽ	90	2,112	503	8,720	418	5,484	140	1,347	13	84
サマー千果	194	4,560	689	12,360	398	5,301	105	983	23	140
アイラ	6	146	202	3,462	457	5,797	977	8,561	247	1,488
キャロルムーン	57	1,262	340	5,899	429	5,484	443	4,195	127	786
MKS-T833	45	1,015	487	8,576	557	7,164	310	2,871	50	315

表2つづき

品種名	上物小計		下物		合計（上+下）		1株換算収量(g)	平均1果重(g)	上物率(%)	LM率(%)
	果数	収量(ｇ)	果数	収量(ｇ)	果数	収量(g)				
キャロル10	1,203	16,339	292	6,170	1,495	22,509	4,502	15.1	72.6	48.0
キャロルスター	1,542	22,197	128	2,994	1,670	25,191	5,038	15.1	88.1	68.7
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	1,709	21,286	125	1,351	1,834	22,637	4,527	12.3	94.0	65.9
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱﾌﾟﾗｽ	1,164	17,747	205	5,772	1,369	23,519	4,704	17.2	75.5	60.4
サマー千果	1,409	23,344	151	4,301	1,560	27,645	5,529	17.7	84.4	63.9
アイラ	1,889	19,454	278	5,017	2,167	24,471	4,894	11.3	79.5	37.8
キャロルムーン	1,396	17,626	242	5,005	1,638	22,631	4,526	13.8	77.9	50.3
MKS-T833	1,449	19,941	166	4,001	1,615	23,942	4,788	14.8	83.3	65.7

表2つづき

品種名	1棟換算収量(kg)	10a換算収量(t)	10a換算上物収量(t)
キャロル10	1,026	7.8	5.6
キャロルスター	1,149	8.7	7.7
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	1,032	7.8	7.4
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱﾌﾟﾗｽ	1,072	8.1	6.1
サマー千果	1,261	9.6	8.1
アイラ	1,116	8.5	6.7
キャロルムーン	1,032	7.8	6.1
MKS-T833	1,092	8.3	6.9

※上物：A品、下物：B品+外品。
※1株換算収量=合計収量/5株。平均1果重=合計収量/合計果数。
上物率=上物収量/合計収量。LM率=(L品収量+M品収量)/合計収量。
1棟換算収量=1株換算収量×228株(定植株数)。10a換算収量=1棟換算収量/132㎡×1000㎡。
10a換算上物収量=10a換算収量×上物率。
※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表３　糖度調査（Brix%）

品種名	6月24日	7月27日	8月24日	9月25日	10月26日
キャロル10	8.0	6.8	8.0	6.9	6.8
キャロルスター	7.7	7.8	9.1	6.7	7.8
サンチェリーピュア	7.0	7.5	7.5	6.0	6.1
サンチェリーピュアプラス	7.0	6.7	7.3	6.6	6.2
サマー千果	8.5	7.0	7.5	6.4	7.3
アイラ	7.7	7.7	6.9	7.3	6.1
キャロルムーン	8.0	7.0	8.4	6.3	7.0
MKS-T833	7.3	6.8	7.0	6.3	7.4

※各測定日に収穫した５果当たりの平均値。

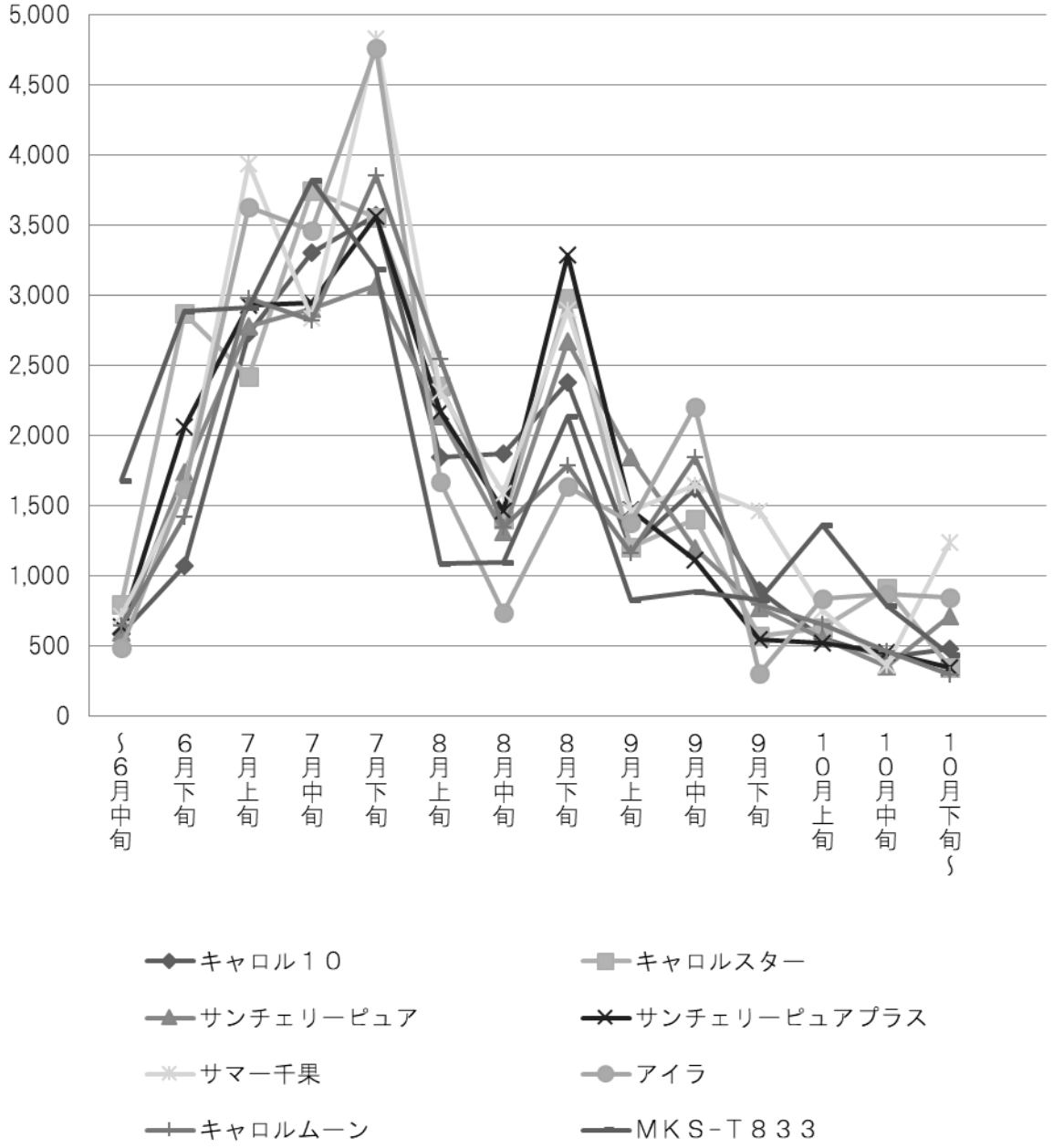


図１　月旬別収量（g）（5 株当たり）

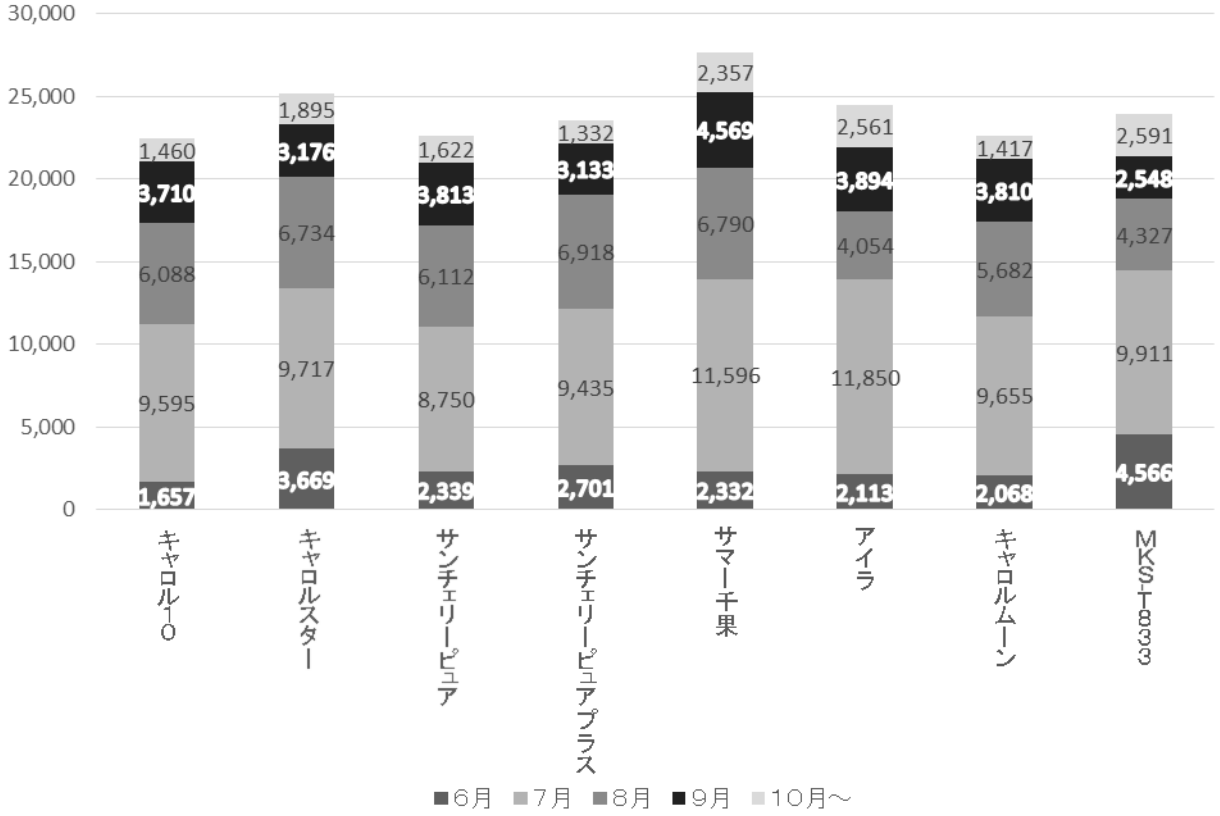


図２　月別収量（g）（5 株当たり）

施設野菜の部　No.9

項　目：品種比較調査

調査名：ミニトマトの抑制栽培における品種比較調査（継続：平成 31 年度～令和 3 年度）

１目的　ミニトマトの抑制栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス 1 号（132 ㎡：約 40 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培

2)　は種月日　令和 2 年 5 月 29 日（72 穴トレイ）

3)　定植月日　令和 2 年 6 月 16 日
（前作の栽培中にその株間に定植）

4)　育苗日数　18 日

5)　栽植距離　ベッド幅 100 ㎝、株間 40 ㎝、2 条植え

6)　定植株数　228 株/棟

7)　施肥量　N-P-K=0.30-0.38-0.52kg/a
【肥料】大塚養液土耕 5 号（12-20-20、～収穫前）：1.6 kg/a
大塚養液土耕 2 号（14-8-25、～収穫開始）：0.8 kg/a

8)　使用資材　あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（令和 2 年 6 月 9 日～9 月 15 日）。

9)　収穫期間　令和 2 年 8 月 17 日～12 月 4 日

10)　保温　内カーテン：令和 2 年 9 月 29 日～収穫終了日

11)　加温　温風暖房機（8℃設定）：令和 2 年 11 月 16 日～収穫終了日

12)　薬剤散布　30 回（成分回数）
※うね毎に 1 本、株上にラノーテープ剤を設置。

13)　摘心　令和 2 年 9 月 18 日（6～7 段）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　8 区（1 区 5 株、1 区制）

2)　供試品種

〈1〉キャロル 10	(㈱サカタのタネ)
〈2〉キャロルスター	(㈱サカタのタネ)
〈3〉サンチェリーピュア	(トキタ種苗㈱)
〈4〉サンチェリーピュアプラス	(トキタ種苗㈱)
〈5〉サマー千果	(タキイ種苗㈱)
〈6〉アイラ	(㈱武蔵野種苗園)
〈7〉キャロルムーン	(㈱サカタのタネ)
〈8〉MKS-T833	(みかど協和㈱)

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

３結果の概要

(1)　本年度の結果

1)　生育

収穫開始時の生育調査では、「サンチェリーピュア」で最も草丈が高くなり、「サンチェリーピュアプラス」で最も低くなった。「サンチェリーピュアプラス」、「サマー千果」、「アイラ」、「MKS－T833」で節間が短い草姿となった。茎径は「キャロル 10」で最も太くなった。

病害虫については、ネコブセンチュウの発生を確認しており、地上部の生育に影響していたと思われる。

2)　収量

10a 換算収量は「サマー千果」で最も多くなった。月別収量で最も多かったのは、9 月では「キャロル 10」、10 月では「サマー千果」、11 月以降では「キャロルスター」であった。

3) 品質

平均 1 果重は「サマー千果」で最も大きくなり、「キャロル 10」で最も小さくなった。上物率で最も高かったのは「サマー千果」であった。10a 換算上物収量は「サマー千果」で最も多くなった。

糖度は、9 月は「キャロルスター」、10 月は「キャロルスター」、「サマー千果」、11 月以降は「サマー千果」が高かった。

(2) 次年度以降の計画

継続

表 1　生育調査（収穫開始時、5 株平均）

品種名	草丈 (cm)	葉数 (枚)	節間長 (cm)	葉長 (cm)	茎径 (mm)
キャロル 10	197.4	23.2	8.5	41.2	10.9
キャロルスター	187.2	23.0	8.1	35.2	9.5
サンチェリーピュア	200.4	23.4	8.6	30.6	8.7
サンチェリーピュアプラス	160.6	22.0	7.3	41.6	10.0
サマー千果	176.8	24.2	7.3	43.8	10.2
アイラ	176.2	24.0	7.3	36.2	8.5
キャロルムーン	195.2	25.2	7.7	43.2	10.0
MKS-T833	179.0	25.0	7.2	42.2	10.2

表２　収量調査（5株当たり）

品種名	2L(21g以上)		L(15～21g未満)		M(11～15g未満)		S(7～11未満)		2S(5～7g)	
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)
キャロル10	0	0	71	1,172	212	2,675	422	3,685	205	1,217
キャロルスター	49	1,120	223	3,952	200	2,596	100	906	16	98
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	0	0	55	893	293	3,477	265	2,214	73	460
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱﾌﾟﾗｽ	0	0	54	905	233	2,872	151	1,403	30	178
サマー千果	95	2,185	307	5,450	148	1,958	65	583	19	122
アイラ	0	0	83	1,369	269	3,438	169	1,598	34	205
キャロルムーン	47	1,073	214	3,787	192	2,487	95	868	15	94
MKS-T833	0	0	86	1,426	280	3,581	176	1,665	35	214

表2つづき

品種名	上物小計		下物		合計（上+下）		1株換算収量(g)	平均1果重(g)	上物率(%)	LM率(%)
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)				
キャロル10	910	8,749	38	943	948	9,692	1,938	10.2	90.3	39.7
キャロルスター	588	8,672	65	1,304	653	9,976	1,995	15.3	86.9	65.6
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	686	7,044	73	857	759	7,901	1,580	10.4	89.2	55.3
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱﾌﾟﾗｽ	468	5,358	30	446	498	5,804	1,161	11.7	92.3	65.1
サマー千果	634	10,298	46	771	680	11,069	2,214	16.3	93.0	66.9
アイラ	555	6,610	68	904	623	7,514	1,503	12.1	88.0	64.0
キャロルムーン	563	8,309	75	1,251	638	9,560	1,912	15.0	86.9	65.6
MKS-T833	577	6,886	85	941	662	7,827	1,565	11.8	88.0	64.0

表2つづき

品種名	1棟換算収量(kg)	10a換算収量(t)	10a換算上物収量(t)
キャロル10	442	3.3	3.0
キャロルスター	455	3.4	3.0
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	360	2.7	2.4
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱﾌﾟﾗｽ	265	2.0	1.9
サマー千果	505	3.8	3.6
アイラ	343	2.6	2.4
キャロルムーン	436	3.3	2.9
MKS-T833	357	2.7	2.4

※上物：A品、下物：B品+外品。
※1株換算収量=合計収量/5株。平均1果重=合計収量/合計果数。
　上物率=上物収量/合計収量。LM率=(L品収量+M品収量)/合計収量。
　1棟換算収量=1株換算収量×228株(定植株数)。10a換算収量=1棟換算収量/132㎡×1000㎡。
　10a換算上物収量=10a換算収量×上物率。
※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表３　糖度調査（Brix%）

品種名	9月25日	10月26日	11月24日
キャロル10	7.0	6.7	6.6
キャロルスター	9.0	7.2	6.7
サンチェリーピュア	6.1	5.9	5.8
サンチェリーピュアプラス	6.0	6.2	5.8
サマー千果	6.6	7.2	7.1
アイラ	6.2	6.1	5.9
キャロルムーン	6.5	6.9	6.9
MKS-T833	7.3	6.5	6.3

※各測定日に収穫した5果当たりの平均値。

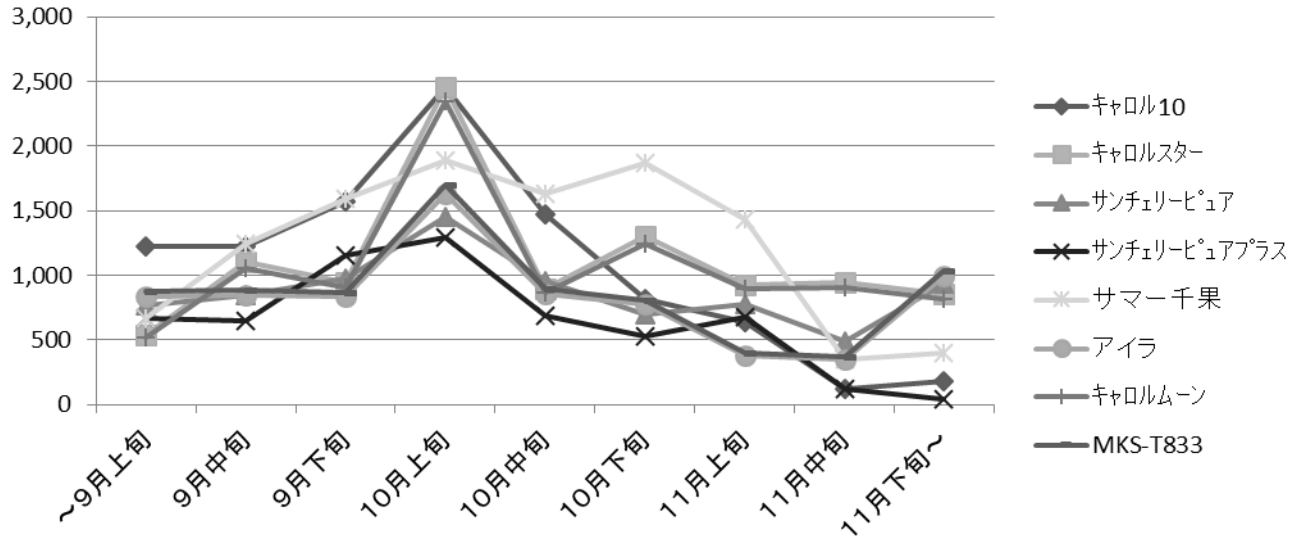


図１　月旬別収量（g）（5 株当たり）

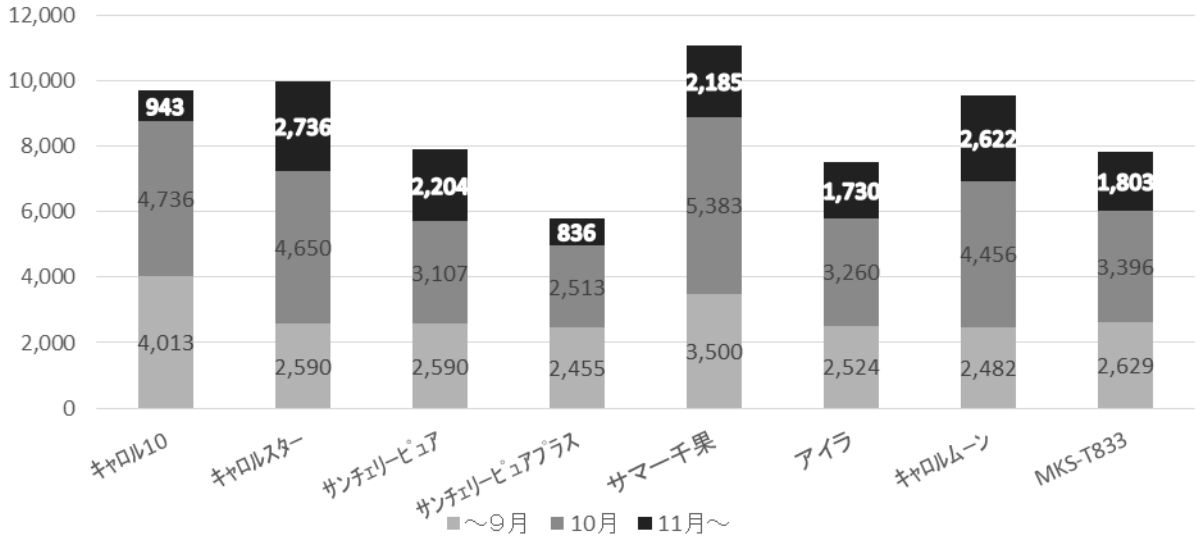


図２　月別収量（g）（5 株当たり）

2-3 調査成績（露地野菜）

露地野菜の部　№1

項目：品種比較調査
調査名：ねぎの品種比較調査（新規：令和２年度～令和４年度）

１目的　当地域におけるねぎの作型別適応品種について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　露地ほ場

(2)　耕種概要

1)　育苗方法　チェーンポット CP-303（264 穴）２粒播き

2)　は種及び定植月日

	〈は　種〉	〈定　植〉
7 月収穫	：令和２年１月６日	令和２年３月 26 日
9 月収穫	：令和２年４月１日	令和２年５月 11 日
10 月収穫	：令和２年５月 12 日	令和２年６月 12 日

3)　栽植距離　うね幅 100 ㎝、株間５㎝（２粒播き）

4)　定植株数　40,000 本/10a

5)　施肥量　N-P-K=18.0-18.0-18.0 kg/10a
【基肥】ハイパーCDU555(中期)(15-15-15)：40 kg/10a
【追肥】ハイパーCDU555(中期)(15-15-15)：40 kg/10a×２回

6)　収穫月日
７月収穫　：令和２年７月 22 日
９月収穫　：令和２年９月 24 日
10 月収穫　：令和２年 10 月 27 日

7)　薬剤散布
７月収穫　：32 回（成分回数）
９月収穫　：44 回（成分回数）
10 月収穫　：32 回（成分回数）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　23 区（１区 40 本（1.0m）、１区制）

2)　供試品種

７月収穫	９月収穫	10 月収穫	メーカー名
夏扇パワー	夏扇パワー	夏扇パワー	㈱サカタのタネ
UE-113			横浜植木㈱
夏秋白扇５号	夏秋白扇５号	夏秋白扇５号	吉田種苗㈱
みちのく 701 はやぶさ７	みちのく 701 №エイト かがやき 801	みちのく 701 №エイト かがやき 801	㈱パセリー菜
	夏の宝山 秋の宝山	夏の宝山 秋の宝山	みかど協和㈱
	森の奏で	森の奏で	トキタ種苗㈱
	名月一文字	名月一文字	タキイ種苗㈱

(4)　調査項目　生育、収量、品質

３結果の概要

(1)　本年度の結果

1)　生育

（７月収穫：3/26 定植～7/22 収獲）

６月下旬から７月前半にかけては降雨や日照不足の影響により生育が停滞気味であったが、その後は回復傾向となった。

病害についてはべと病及びさび病が発生した。

（9 月収穫：5/11 定植～9/24 収獲）
6 月下旬から 7 月前半にかけては降雨や日照不足の影響により生育が停滞気味であったが、その後は回復傾向となった。
病害についてはべと病及び葉枯病が発生し、虫害ではアザミウマ類が散見された。

（10 月収穫：6/12 定植～10/27 収獲）
8 月は高温傾向となったものの、9 月中旬以降は降雨や日照不足が続き、伸長が遅れ気味となった。
病害については葉枯病が発生し、虫害ではネギアザミウマによる被害が見られた。

2） 収量
（7 月収穫：3/26 定植～7/22 収獲）
調整重は「夏扇パワー」、「夏秋白扇 5 号」の順に大きく、また、10a 換算販売箱数は「夏秋白扇 5 号」、「夏扇パワー」の順に多い結果となった。

（9 月収穫：5/11 定植～9/24 収獲）
調整重は「夏の宝山」、「名月一文字」の順に大きく、また、10a 換算販売箱数は「名月一文字」、「夏秋白扇 5 号」、「夏の宝山」の順に多い結果となった。

（10 月収穫：6/12 定植～10/27 収獲）
調整重は「みちのく 701」、「夏扇パワー」の順に大きく、また、10a 換算販売箱数は「みちのく 701」、「夏扇パワー」の順に多い結果となった。

3） 品質
（7 月収穫：3/26 定植～7/22 収獲）
Ａ品率は「はやぶさ 7」、「夏扇パワー」の順に高く、主な落等要因は裂皮であった。
また、「はやぶさ 7」は分枝点長が短めで比較的首部の締まりが良い傾向が見られた。

（9 月収穫：5/11 定植～9/24 収獲）
Ａ品率は「名月一文字」、「秋の宝山」の順に高く、主な落等要因は裂皮や曲がりであった。

（10 月収穫：6/12 定植～10/27 収獲）
Ａ品率は「№エイト」、「名月一文字」の順に高く、主な落等要因は裂皮や曲がりであった。また、「№エイト」、「夏の宝山」、「秋の宝山」、「森の奏で」、「名月一文字」は葉水が少なく、「秋の宝山」、「名月一文字」は比較的首部の締まりが良い傾向が見られた。

以上より、今年度の調査で、10a 換算販売箱数の点から作型別に有望と考えられる品種は次のとおりであった。
7 月収穫 ・・・「夏秋白扇 5 号」
9 月収穫 ・・・「名月一文字」
10 月収穫 ・・・「みちのく 701」

(2) 次年度以降の計画
継続

表１　収量調査

収穫日	品種名	全長 (cm)	調整重 (g)	分枝点長 (cm)	軟白長 (cm)	軟白径 (mm)	2L,L品率(%)	A品率(%)	10a換算収量 (kg/10a)	うち外品	10a換算販売箱数	調査本数
7/22	夏扇パワー	100.4	159.1	41.2	27.9	19.6	90.9	82.9	5,569	0	1,061	35
	UE-113	99.0	127.9	39.9	27.9	19.2	78.4	60.7	4,347	77	813	34
	夏秋白扇5号	99.3	158.9	40.2	27.3	19.6	85.9	59.0	5,720	0	1,090	36
	みちのく701	97.8	154.1	40.4	28.8	19.1	87.4	81.7	5,238	90	981	34
	はやぶさ7	91.0	136.7	36.2	27.1	19.8	88.4	92.0	5,057	0	963	37
9/24	夏扇パワー	100.0	159.0	44.6	33.0	20.0	77.9	75.5	5,884	133	1,095	37
	夏秋白扇5号	98.5	159.0	46.7	34.3	20.5	84.3	60.7	5,883	0	1,121	37
	みちのく701	99.3	156.0	46.6	33.7	20.1	90.6	68.6	5,460	0	1,040	35
	№エイト	92.0	150.1	40.1	32.4	22.1	93.9	78.4	5,253	0	1,001	35
	かがやき801	92.9	158.8	39.6	30.9	20.7	92.4	57.7	5,240	0	998	33
	夏の宝山	88.3	163.5	41.3	32.4	21.4	93.0	76.6	5,885	0	1,121	36
	秋の宝山	92.4	147.6	42.5	35.8	20.8	92.3	83.4	5,610	0	1,069	38
	森の奏で	90.7	155.1	43.5	41.4	20.2	90.1	75.0	5,894	318	1,062	38
	名月一文字	90.1	161.7	42.8	33.6	21.0	87.8	90.6	5,983	0	1,140	37
10/27	夏扇パワー	100.0	170.3	40.5	31.8	21.3	92.3	82.1	5,449	177	1,004	32
	夏秋白扇5号	99.4	165.0	42.0	31.2	21.9	89.7	89.1	5,115	0	974	31
	みちのく701	100.5	173.8	41.6	31.6	20.8	89.4	83.4	5,561	227	1,016	32
	№エイト	92.8	151.5	38.8	31.7	22.1	98.6	92.9	5,304	75	996	35
	かがやき801	98.1	113.4	40.7	31.1	19.9	87.2	78.6	4,197	90	782	37
	夏の宝山	91.2	135.4	40.3	32.7	20.5	92.5	87.2	4,605	96	859	34
	秋の宝山	94.9	153.4	39.2	31.7	21.5	95.4	87.0	4,908	125	911	32
	森の奏で	91.7	147.6	38.0	30.9	21.4	92.7	85.6	4,723	78	885	32
	名月一文字	89.3	147.9	36.6	30.8	21.9	96.2	92.8	4,881	186	894	33

※10a 換算収量＝調整後 1 本重×調査本数×1000。10a 換算販売箱数は表 3 参照。

表 2　等級規格別割合

収穫日	品種名	A				B			外品
		2L	L	M	S	2L	L	M	
7/22	夏扇パワー	2.6	75.3	5.0	0.0	0.0	12.9	4.2	0.0
	UE-113	0.0	43.9	16.8	0.0	11.0	23.5	3.0	1.8
	夏秋白扇5号	7.0	45.1	6.9	0.0	3.6	30.2	7.2	0.0
	みちのく701	39.1	37.0	4.1	1.5	0.0	11.3	5.3	1.7
	はやぶさ7	9.2	76.1	6.7	0.0	0.0	3.1	4.9	0.0
9/24	夏扇パワー	35.4	28.2	11.9	0.0	7.4	6.9	7.9	2.3
	夏秋白扇5号	26.6	28.2	5.9	0.0	13.0	16.5	9.8	0.0
	みちのく701	16.5	43.8	6.1	2.2	14.5	15.8	1.1	0.0
	№エイト	45.6	26.7	6.1	0.0	14.3	7.3	0.0	0.0
	かがやき801	21.0	36.7	0.0	0.0	12.0	22.7	7.6	0.0
	夏の宝山	32.6	37.0	7.0	0.0	9.1	14.3	0.0	0.0
	秋の宝山	25.7	51.8	5.9	0.0	9.4	5.4	1.8	0.0
	森の奏で	43.0	27.5	4.5	0.0	9.1	10.5	0.0	5.4
	名月一文字	50.7	29.9	10.0	0.0	0.0	7.2	2.2	0.0
10/27	夏扇パワー	55.1	24.9	2.1	0.0	3.6	8.7	2.4	3.2
	夏秋白扇5号	64.8	22.2	2.1	0.0	0.0	2.7	8.2	0.0
	みちのく701	71.6	11.8	0.0	0.0	3.7	2.3	6.5	4.1
	№エイト	71.9	21.0	0.0	0.0	0.0	5.7	0.0	1.4
	かがやき801	26.8	43.9	6.3	1.6	0.0	16.5	2.8	2.1
	夏の宝山	49.9	35.5	1.8	0.0	7.1	0.0	3.6	2.1
	秋の宝山	62.1	22.9	2.0	0.0	0.0	10.5	0.0	2.5
	森の奏で	60.4	21.0	2.1	2.1	3.8	7.5	1.4	1.7
	名月一文字	69.0	23.8	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0	3.8

※重量ベースで積算。割合の合計が 100 とならないのは四捨五入のため。

表 3　10a 換算出荷箱数

収穫日	品種名	A				B			10a換算販売箱数
		2L	L	M	S	2L	L	M	
7/22	夏扇パワー	27	799	53	0	0	137	45	1,061
	UE-113	0	363	139	0	92	194	25	813
	夏秋白扇5号	76	492	75	0	39	329	79	1,090
	みちのく701	390	369	41	15	0	113	53	981
	はやぶさ7	89	733	64	0	0	30	47	963
9/24	夏扇パワー	397	316	133	0	83	78	88	1,095
	夏秋白扇5号	298	316	67	0	146	184	110	1,121
	みちのく701	172	455	64	23	150	164	12	1,040
	№エイト	457	267	61	0	143	73	0	1,001
	かがやき801	210	366	0	0	120	226	76	998
	夏の宝山	365	415	78	0	102	161	0	1,121
	秋の宝山	275	553	63	0	101	58	19	1,069
	森の奏で	483	308	50	0	103	118	0	1,062
	名月一文字	578	341	114	0	0	82	25	1,140
10/27	夏扇パワー	572	258	22	0	37	90	25	1,004
	夏秋白扇5号	631	216	20	0	0	27	80	974
	みちのく701	758	125	0	0	39	25	69	1,016
	№エイト	727	212	0	0	0	57	0	996
	かがやき801	214	351	50	13	0	132	22	782
	夏の宝山	438	312	15	0	63	0	31	859
	秋の宝山	581	213	19	0	0	98	0	911
	森の奏で	543	189	19	19	35	68	12	885
	名月一文字	641	222	0	0	0	31	0	894

※出荷箱数＝10a 換算収量×等級規格別割合/5.25(kg/箱)。各項目の合計と 10a 換算販売箱数が一致しないのは四捨五入のため。

露地野菜の部　№2

項目：品種比較調査

調査名：ねぎのリン酸減肥技術品種比較調査（新規：令和２年度～令和３年度）

１目的　定植前の苗にリン酸カリ溶液（リン酸濃度 1.15%）を施用することで、本圃へのリン酸施用量を削減できる技術について、当地域における適応品種を調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　露地ほ場

(2)　耕種概要

1)　育苗方法　チェーンポット CP-303（264 穴）２粒播き

2)　は種及び定植月日　〈は　種〉令和２年１月６日　〈定　植〉令和２年３月 26 日

3)　栽植距離　うね幅 100 ㎝、株間５㎝（２粒播き）

4)　定植株数　40,000 本/10a

5)　施肥量　N-P-K＝18.0-18.0-18.0 kg/10a
【基肥】ハイパーCDU555(中期)(15-15-15)：40 kg/10a
【追肥】ハイパーCDU555(中期)(15-15-15)：40 kg/10a×２回
※基肥及び追肥は全調査区共通。

6)　使用資材

調査区	リン酸カリ溶液	パワーリン (P:30%)	過リン酸石灰 (17%粉)
慣行区	－	120kg/10a	２回
浸漬区	定植前浸漬	60kg/10a	０回
潅注区	定植前潅注	60kg/10a	０回

※リン酸カリ溶液はリン酸濃度 1.15%に調整し、浸漬区は定植当日に溶液への浸漬、潅注区は定植１週間前及び定植当日にトレイ毎に 1L の潅注を実施。
パワーリンは植付前に全面施用。
過リン酸石灰は植付時及び１回目追肥時に植え溝施用。

7)　収穫月日　令和２年７月 10 日、７月 22 日

8)　薬剤散布　32 回(成分回数)

(3)　調査区の構成

1)　調査区　９区（１区 40 本（1.0m）、１区制）

2)　供試品種　<1>夏扇パワー　(㈱サカタのタネ)
<2>夏秋白扇５号　（吉田種苗㈱）
<3>みちのく 701　(㈱パセリー菜)

(4)　調査項目　生育、収量、品質

３結果の概要

(1)　本年度の結果

1)　生育

６月下旬から７月前半にかけては降雨及び日照不足の影響により生育が停滞気味であったが、その後は回復傾向となった。

病害については、べと病及びさび病が発生した。

草丈及び茎径では､6 月及び７月においてリン酸カリ溶液施用区が慣行区を上回り、中でも草丈は潅注区が浸漬区を上回る傾向が見られた。葉数では慣行区とリン酸カリ溶液施用区との間に明確な差は見られなかった。

2)　収量

品種比較では、10a 換算販売箱数において慣行区では 7/10、7/22 収穫ともに「夏秋白扇５号」、リン酸カリ溶液施用区では 7/10 収穫では「みちのく 701」潅注区、7/22 収穫では「夏秋白扇５号」潅注区、「みちのく 701」潅注区が上回った。

リン酸の施用方法の比較では、調整重においてリン酸カリ溶液施用区が慣行区を上回る傾向を示し、浸漬区及び潅注区との比較では明確な差が見られなかった。また、10a 換算販売箱数において 7/10 収穫ではリン酸カリ溶液施用区が慣行区に比べ同等

もしくは上回り、7/22 収穫ではいずれの品種もリン酸カリ溶液施用区が慣行区を上回った。また、浸漬区と潅注区との比較では、いずれの品種も潅注区が浸漬区を上回った。

3)　A 品率は、7/10 収穫ではリン酸カリ溶液施用区が慣行区を上回ったが、浸漬区と潅注区との間で明確な差が見られなかった。また、7/22 収穫では調査区の間で明確な差が見られなかった。

以上より、今年度の調査では、品種比較において 10a 換算販売箱数から「夏秋白扇 5 号」、「みちのく 701」が優れていた。
また、リン酸カリ溶液施用の効果については、7/22 収穫の 10a 換算販売箱数においていずれの品種もリン酸カリ溶液施用区が慣行区を上回り、リン酸の減肥効果があることが示唆された。施用方法の違いについては、潅注区が浸漬区を上回り、作業効率からも潅注区が有望であると思われた。

(3)　次年度以降の計画
継続

表１　生育調査

夏扇パワー

調査区名	使用資材			5月1日			6月1日			7月2日		
	リン酸カリ溶液	パワーリン	過リン酸石灰	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)
慣行区		120kg/10a	2回	30.4	5.6	2.8	48.1	10.2	4.0	86.5	17.7	4.6
浸漬区	定植前浸漬	60kg/10a	0回	30.0	5.6	2.8	55.4	10.8	3.9	87.3	18.0	4.6
潅注区	定植前潅注	60kg/10a	0回	31.6	5.8	2.8	57.3	11.7	4.2	88.9	18.0	4.8

夏秋白扇5号

調査区名	使用資材			5月1日			6月1日			7月2日		
	リン酸カリ溶液	パワーリン	過リン酸石灰	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)
慣行区		120kg/10a	2回	28.1	5.0	2.6	47.6	9.5	3.7	82.4	16.7	4.5
浸漬区	定植前浸漬	60kg/10a	0回	29.7	5.6	2.7	53.1	11.5	4.1	87.5	17.6	4.6
潅注区	定植前潅注	60kg/10a	0回	31.0	5.4	2.5	55.2	11.7	4.3	87.8	18.1	4.8

みちのく701

調査区名	使用資材			5月1日			6月1日			7月2日		
	リン酸カリ溶液	パワーリン	過リン酸石灰	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)
慣行区		120kg/10a	2回	28.8	5.0	2.6	44.4	9.1	3.7	84.3	18.3	4.3
浸漬区	定植前浸漬	60kg/10a	0回	31.1	6.0	2.9	51.3	11.0	4.1	86.3	18.5	4.7
潅注区	定植前潅注	60kg/10a	0回	32.3	5.9	3.5	57.0	11.4	4.2	87.7	18.5	4.6

表 2　収量調査

収穫日	調査区名		全長 (cm)	調整重 (g)	分枝点長 (cm)	軟白長 (cm)	軟白径 (mm)	2L, L品率(%)	A品率(%)	10a換算収量	うち外品	10a換算販売箱数	調査本数
7/10	夏扇	慣行区	89.5	120.6	32.9	26.5	18.5	76.6	61.0	3,376	109	622	28
	パワー	浸漬区	88.7	124.3	32.1	25.2	18.8	84.5	78.7	4,724	147	872	38
		潅注区	87.7	140.4	32.2	25.2	18.8	82.8	84.0	4,773	114	887	34
	夏秋	慣行区	88.3	117.4	32.3	25.5	17.6	58,2	66.7	4,109	178	749	35
	白扇	浸漬区	88.5	123.6	32.6	26.0	18.5	81.2	81.5	4,203	324	739	34
	5号	潅注区	88.7	130.0	32.1	25.2	19.0	85.7	73.2	4,291	65	805	33
	みち	慣行区	84.8	113.0	30.3	25.4	20.1	89.4	58.4	3,728	44	702	33
	のく	浸漬区	86.9	138.2	31.0	25.2	20.1	89.8	76.7	4,421	78	827	32
	701	潅注区	89.2	141.2	32.8	25.5	18.3	71.5	64.6	4,941	0	941	35
7/22	夏扇	慣行区	100.4	159.1	41.2	27.9	19.6	90.9	82.9	5,569	0	1,061	35
	パワー	浸漬区	100.0	172.6	42.5	27.5	20.5	93.1	78.1	5,870	0	1,118	34
		潅注区	99.2	173.6	40.6	27.9	20.9	98.0	89.3	6,075	0	1,157	35
	夏秋	慣行区	99.3	158.9	40.2	27.3	19.6	85.9	59.0	5,720	0	1,090	36
	白扇	浸漬区	97.8	176.5	39.3	27.0	20.5	70.1	62.6	6,000	229	1,099	34
	5号	潅注区	100.5	173.6	41.0	28.3	20.8	95.7	82.0	6,249	0	1,190	36
	みち	慣行区	97.8	154.1	40.4	28.8	19.1	87.4	81.7	5,238	90	981	34
	のく	浸漬区	95.0	171.3	40.5	26.9	20.6	100.0	78.5	5,652	0	1,077	33
	701	潅注区	99.6	180.0	41.8	27.9	20.8	97.3	82.7	6,299	53	1,190	35

※10a 換算収量＝調整後 1 本重×調査本数×1000。10a 換算販売箱数は表 3 参照。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表 3　等級規格別割合

収穫日	調査区名		A				B			外品
			2L	L	M	S	2L	L	M	
7/10	夏扇	慣行区	35.0	16.8	9.2	0.0	0.0	24.8	11.0	3.2
	パワー	浸漬区	14.4	57.7	6.7	0.0	0.0	12.4	5.7	3.1
		潅注区	33.6	43.3	6.1	1.0	0.0	5.9	7.7	2.4
	夏秋	慣行区	8.4	36.1	20.7	1.5	3.7	10.0	15.3	4.3
	白扇	浸漬区	27.0	46.8	7.7	0.0	7.4	0.0	3.4	7.7
	5号	潅注区	7.6	58.6	4.5	2.5	3.1	16.4	5.8	1.5
	みち	慣行区	31.9	22.9	3.6	0.0	7.6	27.0	5.8	1.2
	のく	浸漬区	34.3	37.9	4.5	0.0	8.4	9.2	3.9	1.8
	701	潅注区	0.0	49.7	12.0	2.9	3.8	18.0	13.6	0.0
7/22	夏扇	慣行区	2.6	75.3	5.0	0.0	0.0	12.9	0.0	0.0
	パワー	浸漬区	18.8	59.3	0.0	0.0	3.7	11.3	6.9	0.0
		潅注区	19.0	68.3	2.0	0.0	5.7	5.0	0.0	0.0
	夏秋	慣行区	7.0	45.1	6.9	0.0	3.6	30.2	7.2	0.0
	白扇	浸漬区	21.1	56.3	4.1	0.0	2.5	9.2	3.0	3.8
	5号	潅注区	28.1	49.6	4.3	0.0	3.3	14.7	0.0	0.0
	みち	慣行区	39.1	37.0	4.1	1.5	0.0	11.3	5.3	1.7
	のく	浸漬区	13.3	65.2	0.0	0.0	6.9	14.6	0.0	0.0
	701	潅注区	22.2	60.5	0.0	0.0	3.8	10.8	1.9	0.8

※重量ベースで積算。割合の合計が 100 とならないのは四捨五入のため。

表 4　10a 換算出荷箱数

収穫日	調査区名		A				B			10a換算販売箱数
			2L	L	M	S	2L	L	M	
7/10	夏扇	慣行区	225	108	59	0	0	160	70	622
	パワー	浸漬区	130	519	60	0	0	112	51	872
		潅注区	305	393	56	9	0	54	70	887
	夏秋	慣行区	66	282	162	12	29	78	120	749
	白扇	浸漬区	216	375	62	0	59	0	27	739
	5号	潅注区	62	479	37	20	26	134	47	805
	みち	慣行区	226	163	26	0	54	192	41	702
	のく	浸漬区	289	319	38	0	71	77	33	827
	701	潅注区	0	468	113	27	35	170	128	941
7/22	夏扇	慣行区	27	799	53	0	0	137	45	1,061
	パワー	浸漬区	209	663	0	0	42	127	77	1,118
		潅注区	220	790	23	0	66	58	0	1,157
	夏秋	慣行区	76	492	75	0	39	329	79	1,090
	白扇	浸漬区	241	643	47	0	29	105	34	1,099
	5号	潅注区	335	590	51	0	40	174	0	1,190
	みち	慣行区	390	369	41	15	0	113	53	981
	のく	浸漬区	143	702	0	0	74	158	0	1,077
	701	潅注区	266	726	0	0	46	129	23	1,190

※出荷箱数＝10a 換算収量×等級規格別割合/5.25(kg/箱)。各項目の合計と 10a 換算販売箱数が一致しないのは四捨五入のため。

露地野菜の部　№3

項目：品種比較調査
調査名：ピーマンの品種比較調査（新規：令和２年度～令和４年度）

１目的　当地域におけるピーマンの露地栽培に適応する品種について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調　査　場　所　　露地ほ場

(2)　耕　種　概　要

1)　栽　培　方　法　　マルチ栽培（あったかマルチ）

2)　は種及び定植月日

〈は　種〉	〈定　植〉
①4 月定植：令和２年２月 13 日	令和２年４月 21 日 （定植直後アイホッカ１枚トンネル被覆）
②5 月定植：令和２年３月 13 日	令和２年５月 13 日 （定植直後パスライト１枚トンネル被覆）

3)　育 苗 ポ ッ ト　　15 ㎝ポット

4)　育　苗　日　数　　４月定植：68 日　　５月定植：61 日

5)　栽　植　距　離　　うね幅 150 ㎝、株間 50 ㎝

6)　定　植　株　数　　1,300 株/10a

7)　施　　肥　　量　　N-P-K＝44.4-33.6-39.4 kg/10a
【基肥】豊作太郎(12-12-10)：250 kg/10a
【追肥】くみあい燐硝安加里 S646(16-4-16)：30 kg/10a×３回

8)　収　穫　期　間　　令和２年６月 12 日～10 月 27 日

9)　薬　剤　散　布　　26 回（成分回数）

(3)　調 査 区 の 構 成

1)　調　　査　　区　　２区（１区５株、１区制）

2)　供　試　品　種　　<1>ピクシー　　（横浜植木㈱）
<2>P-2020　　（㈱パセリー菜）

(4)　調　査　項　目　　生育、収量、品質

３結果の概要

(1)　本年度の結果

1)　生育

両作型とも定植時の低温や降雨により生育が停滞気味となったが、５月下旬以降は高温傾向となり、収穫開始は４月定植で６月 12 日、５月定植で６月 29 日となった。その後は７月に低温少照となり、８月は高温傾向となったものの、９月中旬以降は少照となった。また、生育期間を通して大雨が断続的に続き、果実の肥大遅れや花数が少なくなる傾向が見られた。

病害虫は、灰色かび病、アザミウマ類の被害が散見された。

2)　収量

10a 換算収量は、両作型とも「P-2020」が上回った。

月別収量は、４月定植では両品種とも８月に最も多かった。また、５月定植では「ピクシー」が８月、「P-2020」が９月に最も多かった。なお、生育後半において「P-2020」は果実の肥大が「ピクシー」に比べやや遅い傾向が見られた。

3)　品質

A 品率は、４月定植では「P-2020」が高く、５月定植では同等となった。10a 換算 A 品収量は、両作型とも「P-2020」が多かった。主な落等要因としては、生育前半の低温時に奇形が多くなる傾向が見られた。

以上より、今年度の調査では 10a 換算収量及び 10a 換算 A 品収量の点から両作型とも「P-2020」で優れた結果となった。

(2)　次年度以降の計画
継続

表１　収量調査

作型	品種名	Ａ品収量(g)	Ａ品果数	Ｂ品収量(g)	Ｂ品果数	総収量(g)	総果数	Ａ品率(%)	平均1果重(g)	10a換算収量(t)	10a換算Ａ品収量(t)
4月定植	ピクシー	5,990	169	2,317	65	8,307	234	72.1	35.5	10.8	7.8
	P-2020	6,564	178	2,093	61	8,657	239	75.8	36.2	11.3	8.6
5月定植	ピクシー	5,607	158	1,425	38	7,032	196	79.7	35.9	9.1	7.3
	P-2020	6,225	171	1,498	42	7,723	213	80.6	36.3	10.0	8.1

※調査区は連続５株調査した１株当たりの平均。

※総収量=Ａ品収量+Ｂ品収量。総果数=Ａ品果数+Ｂ品果数。Ａ品率=Ａ品収量/総収量。

10a 換算収量=総収量×1300 株/10a。10a 換算Ａ品収量=10a 換算収量×Ａ品率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

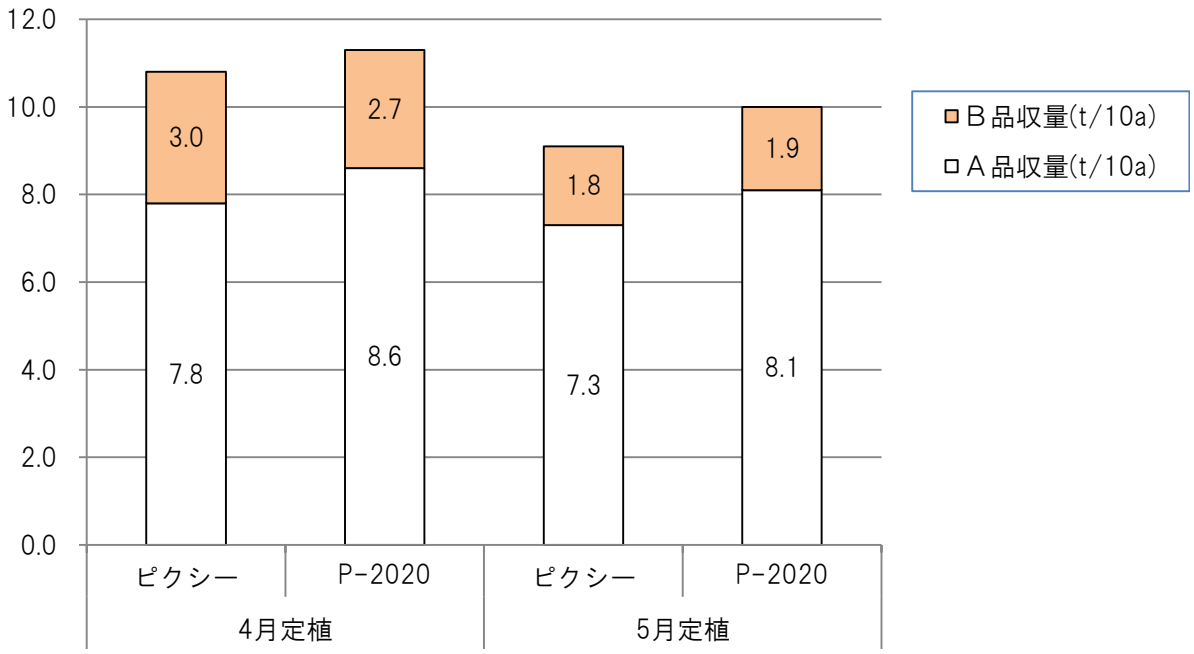


図１　品種別収量（t/10a）

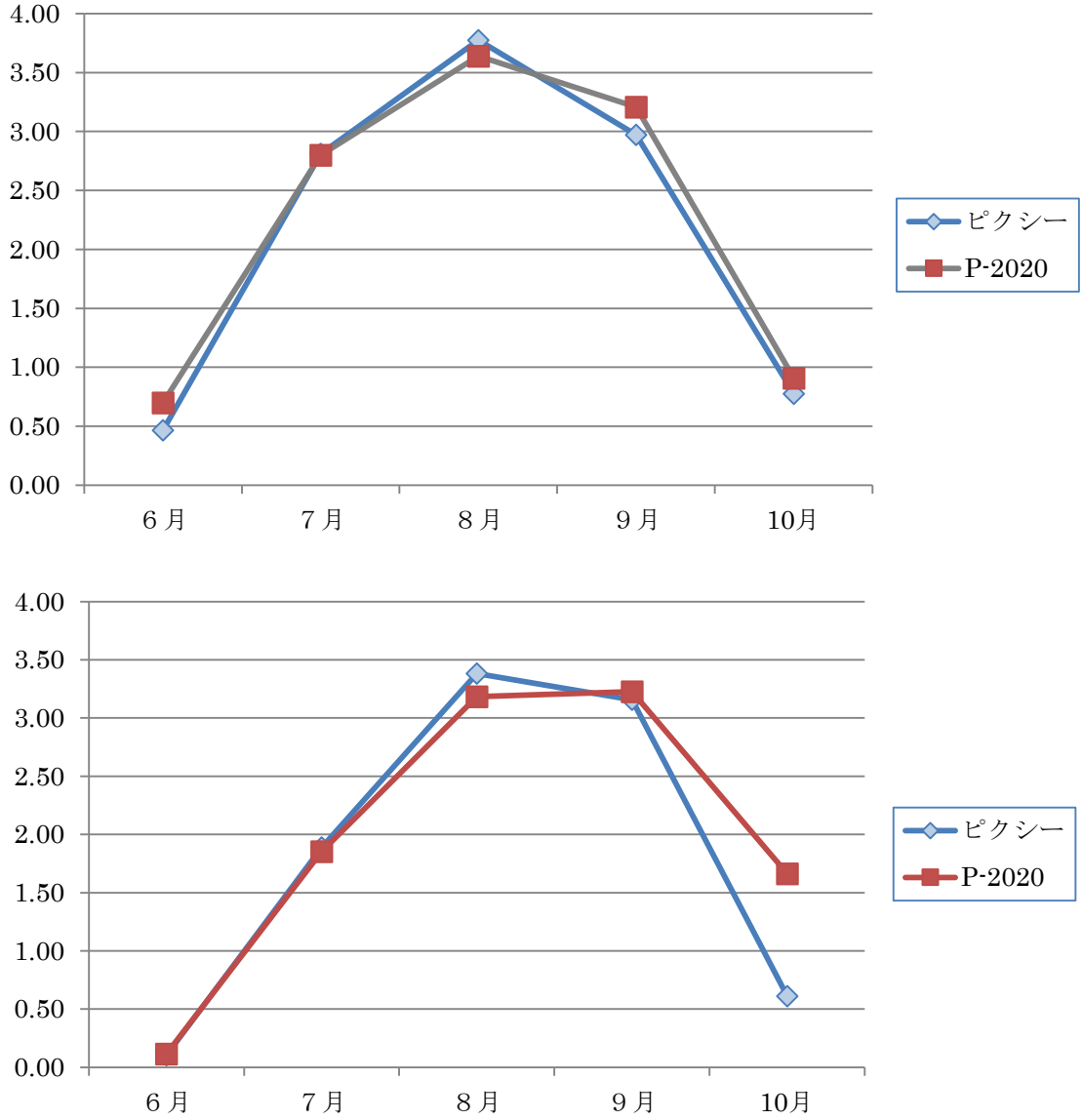


図 2　月別収量（t/10a）（上段：4 月定植、下段：5 月定植）

露地野菜の部　№4

調査名：ピーマン品種「ピクシー」の施肥体系別収量調査（継続：令和元年度～令和２年度）

１目的　当地域におけるピーマン品種「ピクシー」の露地栽培において、施肥体系の違いが収量・品質に及ぼす影響について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　露地ほ場

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　マルチ栽培（あったかマルチ）

2)　は種及び定植月日　〈は　種〉令和２年３月13日　〈定　植〉令和２年５月13日（定植直後パスライト１枚トンネル被覆）

3)　育苗ポット　15㎝ポット

4)　育苗日数　61日

5)　栽植距離　うね幅150㎝、株間50㎝

6)　定植株数　1,300株/10a

7)　施肥量

〈基肥〉(kg/10a) 豊作太郎 (12-12-10)	〈追肥〉(kg/10a) くみあい燐硝安加里S646(16-4-16)	成分量合計(kg/10a)		
①　250	30.0×3回	44.4	33.6	39.4
②　250	22.5×4回	44.4	33.6	39.4
③　250	30.0×3回	44.4	33.6	39.4
④　250	22.5×4回	44.4	33.6	39.4

【追肥時期】

①定植後70日から計３回
（令和２年７月22日、８月17日、９月11日）

②定植後70日から計４回
（令和２年７月22日、８月12日、９月２日、９月21日）

③定植後60日から計３回
（令和２年７月13日、８月６日、９月２日）

④定植後60日から計４回
（令和２年７月13日、８月３日、８月24日、９月11日）

8)　収穫期間　令和２年６月29日～10月27日

9)　薬剤散布　26回（成分回数）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　４区（１区５株、１区制）

2)　供試品種　<1>ピクシー　（横浜植木㈱）

(4)　調査項目　生育、収量、品質

３結果の概要

(1)　昨年度の結果

追肥施用を定植後70日から３回及び４回に分けて実施し、10a換算収量及びA品率において４回施用の調査区が多い結果となった。

(2)　本年度の結果

1)　生育

定植時の低温や降雨により生育が停滞気味となったが、５月下旬以降は高温傾向となり、収穫開始は６月29日となった。その後は７月に低温少照となり、８月は高温傾向となったものの、９月中旬以降は少照となった。また、生育期間を通して大雨が断続的に続き、果実の肥大遅れや花数が少なくなる傾向が見られた。

病害虫は、灰色かび病、アザミウマ類の被害が散見された。

2)　収量

10a換算収量は、調査区④が最も多い結果となった。

月別収量は、調査区①～③では８月が最も多く、調査区④は９月が最も多かった。

追肥開始時期による収量比較は、各月とも定植後60日後開始の調査区が70日後開

始に比べ多く、70 日後開始では生育前半の低温少照や大雨が生育停滞へより強く影響したと考えられた。

追肥回数による収量比較は、定植後 60 日開始では調査区④の方が 8 月以降多く、定植後 70 日開始では調査区①の方が多い傾向となった。追肥総量が同じ条件下では追肥回数が多い調査区で肥料切れが起きにくいと考えられるものの、追肥の開始が遅く生育が停滞した場合は、1 回あたりの追肥量が多い方が生育はより回復しやすいと考えられた。

3) 品質

Ａ品率及び 10a 換算Ａ品収量は調査区④が最も多かった。主な落等要因としては、生育前半の低温時に奇形が多くなる傾向が見られた。

以上より、今年度の調査では 10a 換算収量及び 10a 換算Ａ品収量の点から調査区④で優れた結果となった。

(3) 調査 2 箇年の結果

追肥開始時期による収量比較は、定植後 60 日後開始の調査区が 70 日後開始に比べ多く、70 日後開始は生育停滞の影響がより強いと考えられた。

追肥総量が同じ条件下での追肥回数による収量比較は、昨年度及び定植後 60 日開始では追肥回数が多い調査区で肥料切れが起きにくい傾向が見られたが、天候不順や追肥開始の遅れにより生育が停滞した場合は、1 回あたりの追肥量が多い方が生育はより回復しやすいと考えられた。

以上より、2 箇年の調査では 10a 換算収量及び 10a 換算Ａ品収量の点から、追肥は定植後 60 日開始計 4 回で優れた結果となった。

(4) 次年度以降の計画

完了

表１　収量調査

品種	調査区名	Ａ品収量(g)	Ａ品果数	Ｂ品収量(g)	Ｂ品果数	総収量(g)	総果数	Ａ品率(%)	平均1果重(g)	10a換算収量(t)	10a換算Ａ品収量(t)
ﾋﾟｸｼｰ	①70日3回	5,607	158	1,425	38	7,032	196	79.7	35.9	9.1	7.3
	②70日4回	5,004	139	1,466	38	6,470	177	77.3	36.6	8.4	6.5
	③60日3回	6,269	170	1,489	41	7,758	211	80.8	36.8	10.1	8.2
	④60日4回	7,075	199	1,471	41	8,546	240	82.8	35.6	11.1	9.2

※調査区は連続 5 株調査した 1 株当たりの平均。

※総収量=Ａ品収量+Ｂ品収量。総果数=Ａ品果数+Ｂ品果数。Ａ品率=Ａ品収量/総収量。

10a 換算収量=総収量×1300 株/10a。10a 換算Ａ品収量=10a 換算収量×Ａ品率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

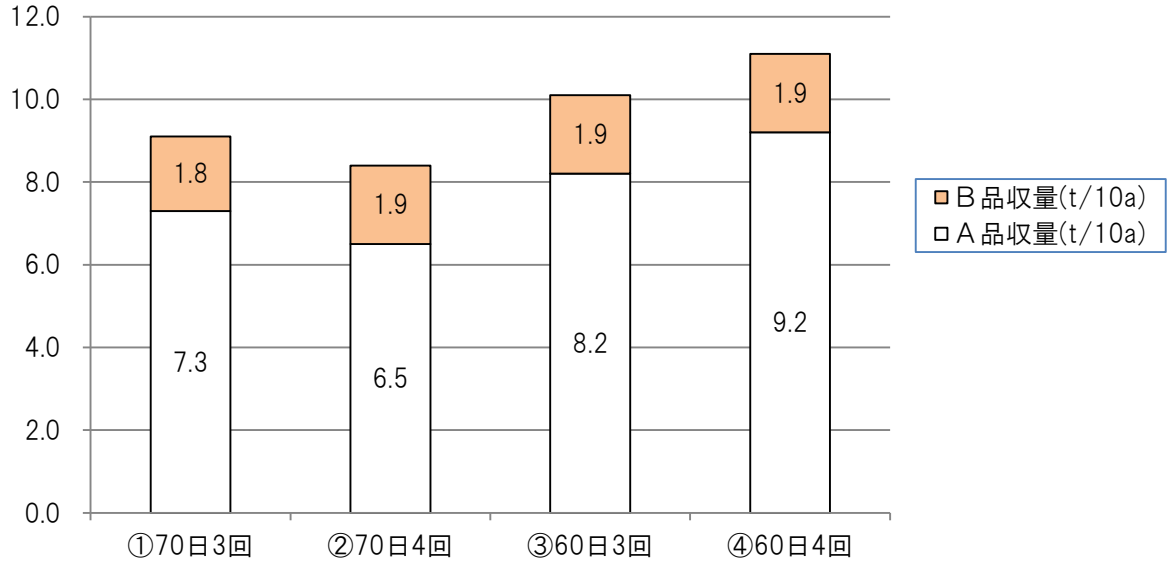


図１　品種別収量（t/10a）

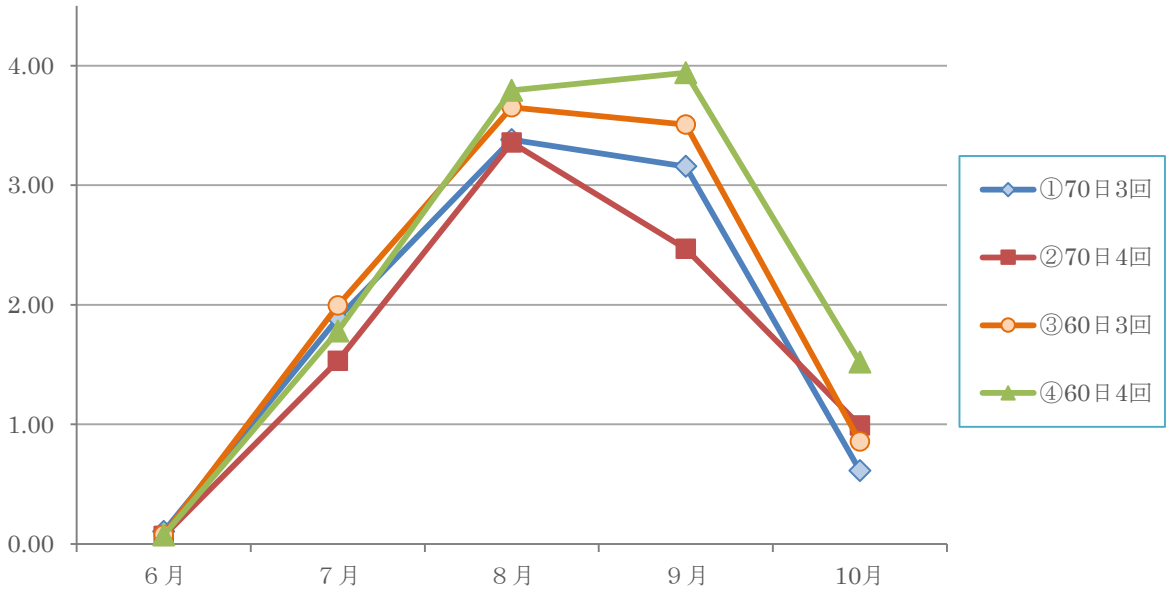


図２　月別収量（t/10a）

〇平成 31 年の調査結果

表２　収量調査

調査区名	A品収量(g)	A品果数	B品収量(g)	B品果数	総収量(g)	総果数	A品率(%)	平均1果重(g)	10a換算収量(t)	10a換算A品収量(t)
①70日3回	6,840	189	3,173	88	10,013	277	68.3	36.1	13.0	8.9
②70日4回	7,275	198	3,139	88	10,414	286	69.9	36.4	13.5	9.5

露地野菜の部　№5

項目：栽培技術調査

調査名：ピーマン整枝方法別収量比較調査（新規：令和２年度～令和４年度）

１目的　当地域におけるピーマン品種「ピクシー」の露地栽培において、整枝方法の違いが収量・品質に及ぼす影響について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　露地ほ場

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　マルチ栽培（あったかマルチ）

2)　は種及び定植月日　〈は　種〉　令和２年３月 13 日　〈定　植〉　令和２年５月 13 日（定植直後パスライト１枚トンネル被覆）

3)　育苗日数　61 日

4)　整枝方法　①第２分枝を主枝４本に整枝、以降側枝を適宜整枝(慣行)
②第２分枝を主枝４本に整枝、以降側枝を適宜整枝、９月上旬に摘心

5)　栽植距離　うね幅 150 ㎝、株間 50 ㎝

6)　定植株数　1,300 株/10a

7)　施肥量　N-P-K＝44.4-33.6-39.4 kg/10a
【基肥】豊作太郎(12-12-10)：250 kg/10a
【追肥】くみあい燐硝安加里 S646(16-4-16)：30 kg/10a×３回

8)　収穫月日　令和２年６月 29 日～令和２年 10 月 27 日

9)　薬剤散布　26 回（成分回数）

10)　摘心　令和２年９月４日

(3)　調査区の構成

1)　調査区　２区（１区５株、１区制）

2)　供試品種　<1>ピクシー　（横浜植木㈱）

(4)　調査項目　生育、収量、品質

３結果の概要

(1)　本年度の結果

1)　生育

定植時の低温や降雨により生育が停滞気味となったが、５月下旬以降は高温傾向となり、６月 29 日となった。その後は７月に低温少照となり、８月は高温傾向となったものの、９月中旬以降は少照となった。また、生育期間を通して大雨が断続的に続き、果実の肥大遅れや花数が少なくなる傾向が見られた。

病害虫は、灰色かび病、アザミウマ類の被害が散見された。

2)　収量

調査区における 10a 換算収量は、調査区②が上回った。

月別収量は、調査区②が８月にやや上回ったが、９月以降にその差が大きくなった。

3)　品質

Ａ品率は、調査区間で同等となった。

以上の結果より、今年度の調査では 10a 換算収量及び 10a 換算Ａ品収量の点から、調査区②が優れていた。

(2)　次年度以降の計画

継続

表１　収量調査

品種	調査区名	Ａ品収量(g)	Ａ品果数	Ｂ品収量(g)	Ｂ品果数	総収量(g)	総果数	Ａ品率(%)	平均1果重(g)	10a換算収量(t)	10a換算Ａ品収量(t)
ﾋﾟｸｼｰ	①慣行	5,607	158	1,425	38	7,032	196	79.7	35.9	9.1	7.3
	②摘心	6,290	171	1,568	43	7,858	214	80.0	36.7	10.2	8.2

※調査区は連続５株調査した１株当たりの平均。

※総収量=Ａ品収量+Ｂ品収量。総果数=Ａ品果数+Ｂ品果数。Ａ品率=Ａ品収量/総収量。

10a 換算収量=総収量×1300 株/10a。10a 換算Ａ品収量=10a 換算収量×Ａ品率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

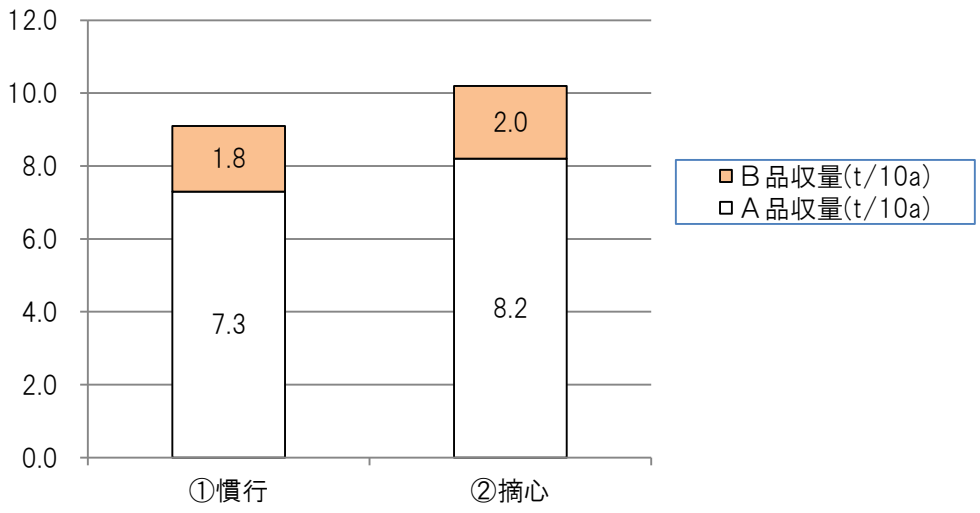


図１　品種別収量（t/10a）

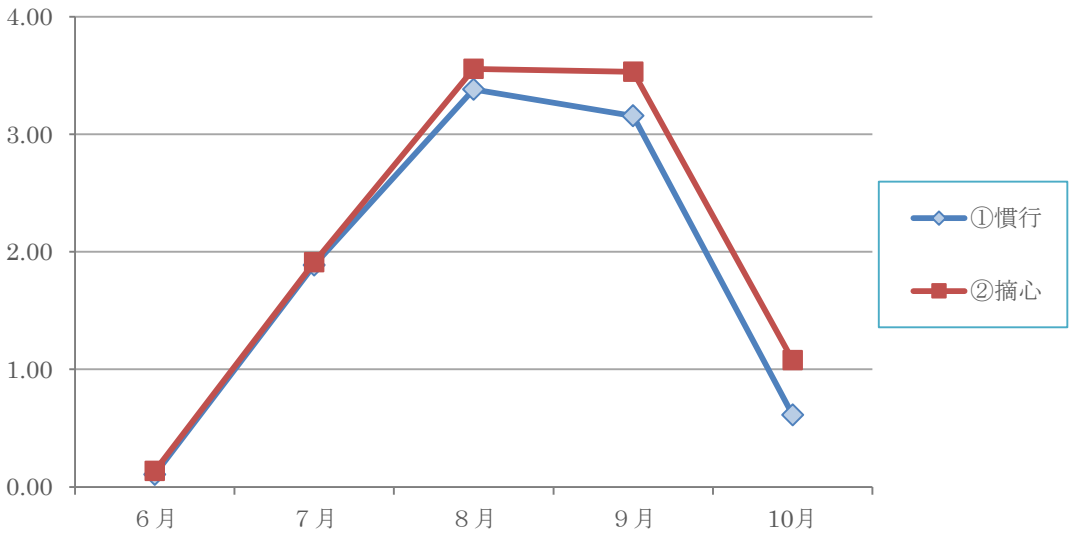


図２　月別収量（t/10a）

露地野菜の部　No.6

項目：栽培技術調査
調査名：にんにくの種子植付時期比較調査（継続：令和元年度～令和２年度）

１目的　植付時期の違いが、収量・品質に及ぼす影響について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　露地ほ場（新規ほ場）

(2)　耕種概要
1)　栽培方法　マルチ栽培（コーテーコンビ・グリーン）
2)　植付年月日　①令和元年９月 17 日
②令和元年９月 27 日
③令和元年 10 月７日
3)　栽植距離及び植付片数　うね幅 150 ㎝、株間 15 ㎝、条間 25 ㎝、４条植え
17,778 片/10a
4)　施肥量　N-P-K＝29.4-45.6-20.9kg/10a
【基肥】BB にんにく一発（15-18-10）：170kg/10a
豚ふん堆肥（ナチュラルパワー）（2.6-6.0-2.6）：150 kg/10a、
パワーリン（P:30）：20kg/10a、
マググリーン（Mg:25）：30kg/10a
5)　収穫月日　令和２年６月 22 日（白玉王）、６月 25 日（畑園系）
6)　薬剤散布　24 回（成分回数）

(3)　調査区の構成
1)　調査区　６区（１区 50 株、１区制）
2)　供試品種　<1>白玉王①
<2>白玉王②
<3>白玉王③
<4>畑園系①
<5>畑園系②
<6>畑園系③
（種子重量 12.1～16.0g）

(4)　調査項目　生育、収量、品質

３結果の概要

(1)　昨年度の結果
10a 換算収量は、白玉王、畑園系とも９月中旬植付の調査区が最も多く、植付時期が早い方が 10a 換算収量は多くなる結果となった。
10a 換算Ａ品収量は、品種により最も多い調査区が異なり、判然としなかった。

(2)　本年度の結果
1)　生育
萌芽状況は、12 月時点では①において全ての株が萌芽し、②、③において９割以上で萌芽した。４月 10 日時点では全ての株が萌芽した。
りん片分化期は４月 19 日であった。
冬期は高温傾向となり生育は順調であったが、越冬後の葉傷みが例年に比べ多く見られた。その後、５月後半に低温少照、４月下旬から６月上旬までの少雨により、肥大が緩慢となった。
病害については、春腐病及びさび病が散見された。

2)　収量
10a 換算収量は、白玉王、畑園系とも①が最も多かった。また、白玉王、畑園系とも②、③の 10a 換算収量は同等となった。

3)　品質
Ａ品率は、白玉王、畑園系とも③が最も高く、植付時期が遅くなるにつれて高くなる傾向が見られた。
主な落等要因は、コブ、一部突出、窓開き、着色等であった。また、植付時期が早い調査区で窓開きや春腐病によるとみられる着色が多い傾向が見られた。

10a 換算Ａ品収量は、白玉王、畑園系とも③が最も多く、植付時期が遅くなるにつれて高くなる傾向が見られた。
2Ｌ、Ｌ品率は、白玉王、畑園系とも①が最も多かった。また、白玉王は③が次いで多く、畑園系は②、③で同等となった。

(3) 調査 2 箇年の結果
10a 換算収量が白玉王、畑園系とも 9 月中旬植付の調査区が最も多く、植付時期が早い方が 10a 換算収量は多くなる結果となった。
また、Ａ品率及び 10a 換算Ａ品収量は、1 年目の調査では判然としなかったものの、2 年目の調査では植付時期が遅くなるにつれて高くなる結果となった。窓開き、着色、裂皮といった落等要因は、消雪時期やその後の天候状況に伴う生育により左右されるため、A 品率の向上には、消雪後の生育状況に応じた栽培管理及び適期収穫を心がけることが重要と考えられた。

(4) 次年度以降の計画
完了

表 1　萌芽状況調査（100 株調査）

調査区名		植付日	萌芽株数		
			11 月 11 日	12 月 10 日	4 月 10 日
白玉王	①	9/17	83	100	100
	②	9/27	68	98	100
	③	10/7	37	94	100
畑園系	①	9/17	78	100	100
	②	9/27	65	98	100
	③	10/7	39	96	100

表 2　収量調査

調査区名		植付日	球重（g）	球径（mm）	Ａ品率(%)	2L, Ｌ品率 (%)	10a 換算収量(kg)	10a 換算Ａ品収量(kg)
白玉王	①	9/17	71.2	61.8	66.7	75.8	1,266	844
	②	9/27	65.9	59.4	77.5	48.6	1,172	908
	③	10/7	66.4	59.8	80.2	61.4	1,181	947
畑園系	①	9/17	66.1	58.8	76.0	54.0	1,175	893
	②	9/27	60.4	57.4	84.4	37.4	1,074	906
	③	10/7	61.0	57.1	89.5	37.7	1,085	971

※調査は、乾燥終了後に実施。

※10a 換算収量=球重×植付片数。10a 換算Ａ品収量=10a 換算収量×Ａ品率。計算式と数字が一致しないのは四捨五入のため。

表３　規格別収量及び品質割合

調査区名		規格別収量(kg/10a)					品質割合（%）			
		2L	L	M	S	規格外	A	B	C	等級外
白玉王	①	70	890	292	14	0	66.7	29.0	4.3	0.0
	②	0	569	575	28	0	77.5	18.9	3.6	0.0
	③	0	725	414	42	0	80.2	18.4	1.4	0.0
畑園系	①	0	635	498	42	0	76.0	15.9	8.1	0.0
	②	0	402	630	42	0	84.4	15.6	0.0	0.0
	③	0	409	652	24	0	89.5	10.5	0.0	0.0

※各規格の収量と合計が一致しない、品質割合の合計が 100 とならないのは四捨五入のため。

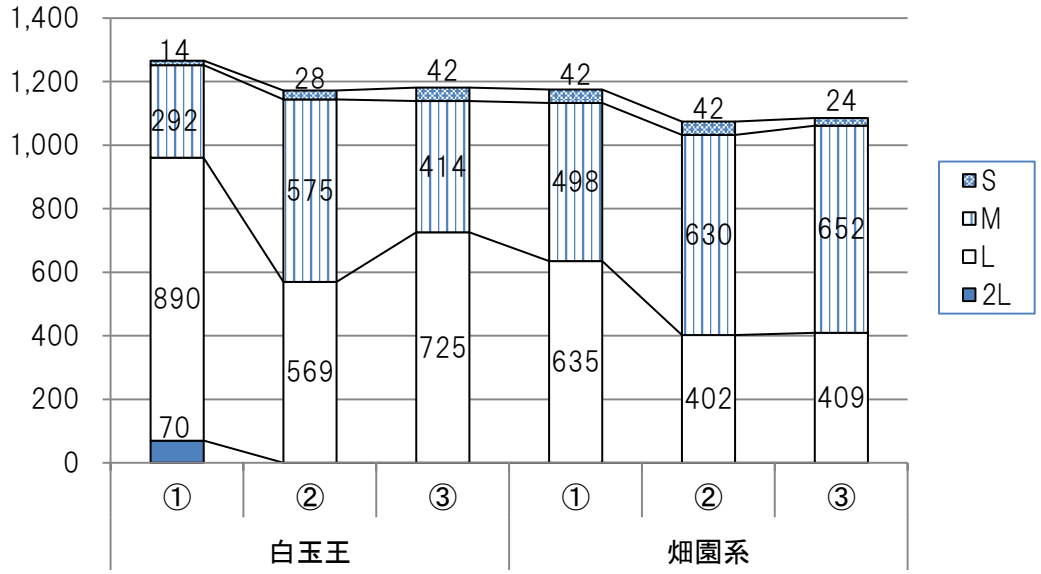


図１　規格別収量（kg/10a）

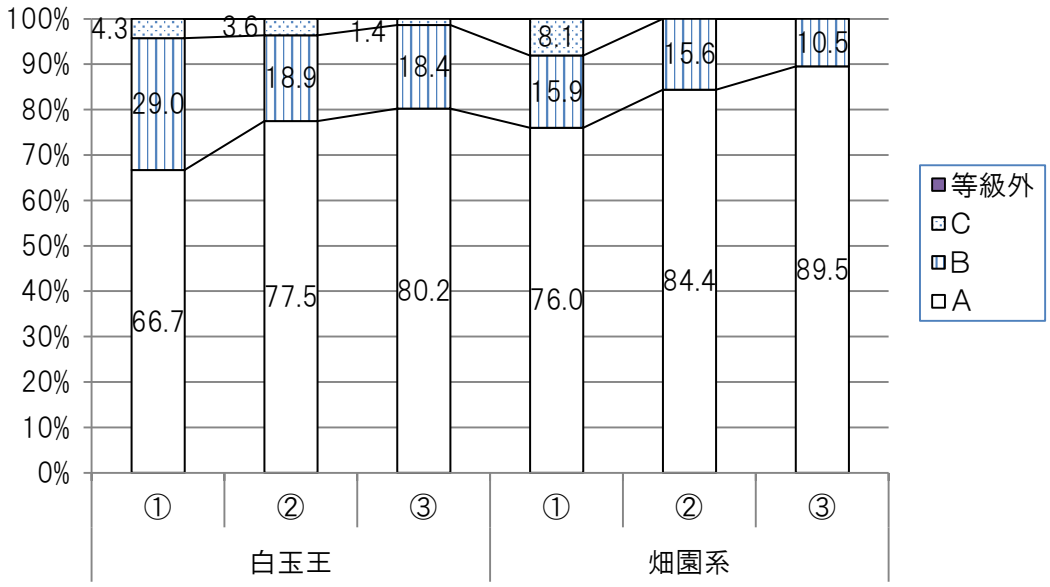


図２　等級割合

表 4　平成 31 年度調査結果

○　収量調査

調査区名		植付日	球重（g）	球径（mm）	A品率(%)	2L, L品率　(%)	10a 換算収量(kg)	10a 換算A品収量(kg)
白玉王	①	9/14	94.3	68.8	63.6	100.0	1,676	1,104
	②	9/25	93.2	68.4	57.3	94.8	1,656	949
	③	10/5	88.1	67.4	54.4	94.8	1,566	852
畑園系	①	9/14	101.3	70.9	32.7	99.1	1,801	589
	②	9/25	92.9	68.5	62.8	97.5	1,652	1,037
	③	10/5	86.5	66.7	64.1	92.7	1,538	986

※調査は、乾燥終了後に実施。

※10a 換算収量=球重×植付片数。10a 換算A品収量=10a 換算収量×A品率。計算式と数字が一致しないのは四捨五入のため。

○　規格別収量及び品質割合

調査区名		規格別収量(kg/10a)					品質割合（%）			
		2L	L	M	S	規格外	A	B	C	等級外
白玉王	①	688	988	0	0	0	63.6	32.4	4.0	0.0
	②	813	757	87	0	0	57.3	25.8	15.0	1.8
	③	604	881	81	0	0	54.4	40.9	4.7	0.0
畑園系	①	1,298	486	17	0	0	32.7	28.5	38.8	0.0
	②	718	893	41	0	0	62.8	28.4	8.8	0.0
	③	361	1,065	112	0	0	64.1	30.2	5.8	0.0

※各規格の収量と合計が一致しない、品質割合の合計が 100 とならないのは四捨五入のため。

花きの部　No.1

項　目：品種比較調査

調査名：トルコギキョウの品種比較調査(7～8 月出荷)（新規：令和 2 年度～令和 3 年度）

１目的　収益性を見込める花き品目として有望なトルコギキョウについて、7～8 月出荷栽培における品種比較調査を行い、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス 10 号（99 ㎡：約 30 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　土耕栽培
2)　は種年月日　令和 2 年 2 月 28 日
3)　定植年月日　令和 2 年 4 月 17 日
4)　栽植距離　ベッド幅 60 cm、株間 10 cm、条間 10cm、4 条植え(中 2 条抜き)
5)　定植株数　2,720 本/棟
6)　施肥量　（基肥）N-P-K-Mg=1.56-0.13-2.15-0.26 kg/a
（追肥）N-P-K=0.45-0.24-0.51 kg/a
（基肥）アルガ 215（12-1-5-2）：13.0 kg/a
硫酸加里（K:50）：3.0 kg/a
（追肥）OK-F-1（15-8-17）：3.0 kg/a
7)　使用資材　白黒ダブルマルチ、10cm×6 目フラワーネット
8)　収穫時期　令和 2 年 7 月 24 日～8 月 17 日
9)　薬剤散布　23 回（成分回数）
10)　保温　内カーテン（令和 2 年 4 月 17 日～5 月 11 日）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　13 区（1 区 10 株、1 区制）
2)　供試品種

No.	品種名	早晩性	花径	色	会社名
<1>	ﾏｷｱﾎﾜｲﾄ	中生	中大	白	㈱サカタのタネ
<2>	ﾎﾞﾔｰｼﾞｭﾏｽｶｯﾄ	中生	大	緑	㈱サカタのタネ
<3>	ｼﾞｭﾘｱｽﾌﾞﾙｰ	中生	大	濃紫	カネコ種苗㈱
<4>	ﾙｶｺﾞｰﾙﾄﾞ	中生	中大	黄	カネコ種苗㈱
<5>	ﾓｱﾅﾗｲﾄﾋﾟﾝｸ	中生	中大	薄桃	㈱ミヨシ
<6>	ﾁｭｰﾙﾋﾟﾝｸ	中生	中大	桃	㈱ミヨシ
<7>	ｾﾚﾌﾞｸｲｰﾝ	中生	大	薄桃	住化農業資材㈱
<8>	ｾﾚﾌﾞｶﾚﾝ	中生	大	薄桃	住化農業資材㈱
<9>	ｱﾓｰﾚﾎﾜｲﾄ 18	中生	大	白	タキイ種苗㈱
<10>	ｿﾛﾌﾞﾙｰﾋﾟｺﾃｨ PF	中晩生	小	白紫	㈱サカタのタネ
<11>	ｸﾞﾗﾝﾊﾋﾟﾈｽ	中晩生	大	白	㈱ミヨシ
<12>	ﾏﾝﾊｯﾀﾝ	中晩生	中小	濃紫	タキイ種苗㈱
<13>	ﾐﾝｸﾙｰｼﾞｭ	中晩生	中小	白桃	タキイ種苗㈱

(4)　調査項目　開花、切花

３結果の概要

(1)　生育

生育期序盤は株張りが良く順調であったが、中盤以降、草丈の伸長が進まず、短小開花してしまう品種が見られた。要因としては、連作障害の影響と考えられる。

病害虫については、開花期以降にアザミウマが散見された。

(2)　開花

採花時期は、7 月 24 日から 8 月 17 日となり、一部品種においては盆と重なってしまったものの、盛期は全品種において盆前となった。早晩性の違いによる大きな差は見られなかった。

開花は、「ボヤージュマスカット」、「ルカゴールド」、「モアナライトピンク」、「チュールピンク」が同時で最も早く、最も遅かったのは、「グランハピネス」となった。

全品種における採花の盛期は、8 月 4 日から 8 月 12 日となった。

(3)　切花品質

切花長では、「マキアホワイト」で最も長く 80.4 cmであった。

茎径では、「アモーレホワイト 18」で最も太く 7.0mm となった。

開花数と花蕾数の合計は、全ての品種で 6 個以上となった。

「マキアホワイト」、「ルカゴールド」、「アモーレホワイト 18」については、他品種に比べ茎が硬く、首曲がり等も少なかった。

「ソロブルーピコティ PF」については、一重のため花全体としてのボリュームは劣るものの圃場でのロスが少なく、また、無花粉の品種であるため花持ちが良いことや汚れにくいこと等から、今後新たな需要の拡大が期待される品種であると考えられる。

(4)　次年度以降の計画

継続

表 1　採花期

品種名	早晩性	花径	採花期（開始～終了）	採花期（盛期）
<1> ﾏｷｱﾎﾜｲﾄ	中生	中大	7/27 ～ 8/12	8/ 7
<2> ﾎﾞﾔｰｼﾞｭﾏｽｶｯﾄ	中生	大	7/24 ～ 8/ 7	8/ 5
<3> ｼﾞｭﾘｱｽﾌﾞﾙｰ	中生	大	7/27 ～ 8/12	8/ 7
<4> ﾙｶｺﾞｰﾙﾄﾞ	中生	中大	7/24 ～ 8/ 7	8/ 5
<5> ﾓｱﾅﾗｲﾄﾋﾟﾝｸ	中生	中大	7/24 ～ 8/ 7	8/ 4
<6> ﾁｭｰﾙﾋﾟﾝｸ	中生	中大	7/24 ～ 8/ 7	8/ 4
<7> ｾﾚﾌﾞｸｲｰﾝ	中生	大	8/ 3 ～ 8/12	8/ 7
<8> ｾﾚﾌﾞｶﾚﾝ	中生	大	8/ 3 ～ 8/14	8/11
<9> ｱﾓｰﾚﾎﾜｲﾄ18	中生	大	8/ 7 ～ 8/14	8/11
<10>ｿﾛﾌﾞﾙｰﾋﾟｺﾃｨPF	中晩生	小	8/11 ～ 8/17	8/12
<11>ｸﾞﾗﾝﾊﾋﾟﾈｽ	中晩生	大	8/12 ～ 8/17	8/12
<12>ﾏﾝﾊｯﾀﾝ	中晩生	中小	8/10 ～ 8/14	8/12
<13>ﾐﾝｸﾙｰｼﾞｭ	中晩生	中小	7/31 ～ 8/ 7	8/ 5

表 2　切花調査

品種名	切花長 (cm)	切花重 (g)	調整重 (g)	節数 (節)	茎長 (cm)	茎径 (mm)	着蕾側枝数 (本)	開花数 (個)	花蕾数 (個)
<1> ﾏｷｱﾎﾜｲﾄ	80.4	67.3	49.7	8.3	44.1	6.6	4.4	3.7	9.0
<2> ﾎﾞﾔｰｼﾞｭﾏｽｶｯﾄ	69.8	58.1	42.2	7.6	37.3	6.4	3.7	3.0	8.0
<3> ｼﾞｭﾘｱｽﾌﾞﾙｰ	66.2	51.6	37.2	6.3	39.8	5.4	3.0	2.2	6.5
<4> ﾙｶｺﾞｰﾙﾄﾞ	77.5	65.9	51.4	8.2	43.1	6.8	4.7	3.8	7.7
<5> ﾓｱﾅﾗｲﾄﾋﾟﾝｸ	67.4	58.7	45.8	6.5	35.2	6.4	3.8	3.3	7.0
<6> ﾁｭｰﾙﾋﾟﾝｸ	62.0	51.6	39.1	6.3	35.3	6.2	3.2	3.2	5.9
<7> ｾﾚﾌﾞｸｲｰﾝ	72.8	64.2	45.9	8.2	46.4	6.5	4.5	3.5	7.0
<8> ｾﾚﾌﾞｶﾚﾝ	69.6	59.2	43.1	7.9	41.6	6.3	3.6	3.3	6.1
<9> ｱﾓｰﾚﾎﾜｲﾄ18	75.7	72.6	55.9	8.4	51.3	7.0	4.1	4.5	9.2
<10>ｿﾛﾌﾞﾙｰﾋﾟｺﾃｨPF	72.1	48.6	37.1	6.4	40.9	5.3	3.3	2.2	7.1
<11>ｸﾞﾗﾝﾊﾋﾟﾈｽ	66.2	55.0	41.6	6.5	37.4	6.3	3.7	3.6	6.0
<12>ﾏﾝﾊｯﾀﾝ	60.4	46.2	34.6	6.0	35.6	4.8	3.4	2.5	6.5
<13>ﾐﾝｸﾙｰｼﾞｭ	62.5	48.6	37.6	7.4	41.9	5.5	3.9	2.5	7.3

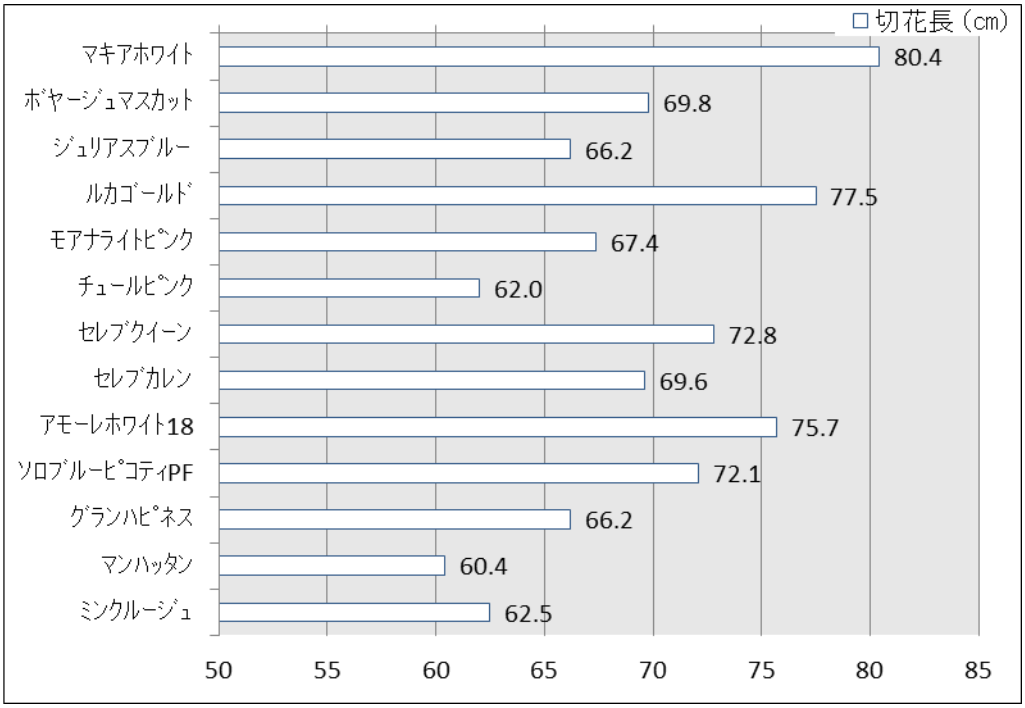


図１　切花長の比較

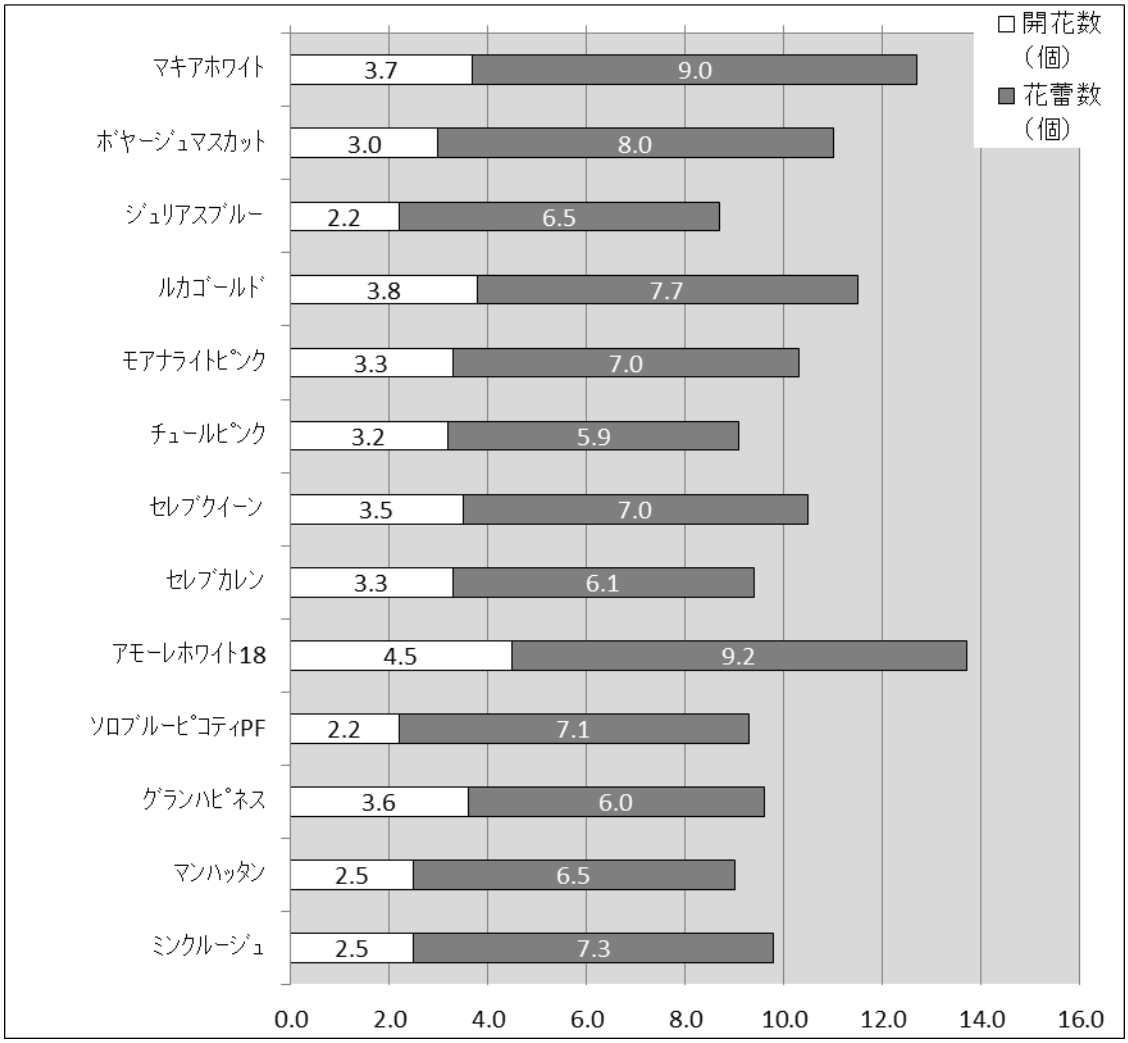


図２　開花数＋花蕾数の比較

〈1〉 ﾏｷｱﾎﾜｲﾄ

〈2〉 ﾎﾞﾔｰｼﾞｭﾏｽｶｯﾄ

〈3〉 ｼﾞｭﾘｱｽﾌﾞﾙｰ

〈4〉 ﾙｶｺﾞｰﾙﾄﾞ

〈5〉 ﾓｱﾅﾗｲﾄﾋﾟﾝｸ

〈6〉 ﾁｭｰﾙﾋﾟﾝｸ

〈7〉 ｾﾚﾌﾞｸｲｰﾝ

〈8〉 ｾﾚﾌﾞｶﾚﾝ

〈9〉 ｱﾓｰﾚﾎﾜｲﾄ 18

〈10〉 ｿﾛﾌﾞﾙｰﾋﾟｺﾃｨ PF

〈11〉 ｸﾞﾗﾝﾊﾋﾟﾈｽ

〈12〉 ﾏﾝﾊｯﾀﾝ

〈13〉 ﾐﾝｸﾙｰｼﾞｭ

花きの部　No.2

項　目：品種比較調査

調査名：トルコギキョウの品種比較調査(9月出荷)（新規：令和2年度～令和3年度）

１目的　収益性を見込める花き品目として有望なトルコギキョウについて、9月出荷栽培における品種比較調査を行い、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　ガラス温室8号（165㎡：約50坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　土耕栽培
2)　は種年月日　令和2年3月26日
3)　育苗方法　セルトレイに播種、吸水後、5℃の暗黒下にて35日冷蔵処理、その後通常育苗
4)　定植年月日　令和2年6月10日
5)　栽植距離　ベッド幅60㎝、株間10㎝、条間10cm、4条植え(中2条抜き)
6)　定植株数　4,160本/棟
7)　施肥量　（基肥）N-P-K-Mg=1.50-3.33-0.63-0.89 kg/a
（基肥）アルガ215（12-1-5-2）：12.5 kg/a
ケイ酸加里（K:20、Mg:4）：16.0 kg/a
8)　使用資材　白黒ダブルマルチ、10cm×6目フラワーネット、メガクール
9)　遮光・遮熱期間　令和2年7月20日～9月25日
10)　収穫時期　令和2年9月3日～9月25日
11)　薬剤散布　13回（成分回数）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　12区（1区10株、1区制）
2)　供試品種

No.	品種名	早晩性	花径	色	会社名
<1>	ﾏｷｱﾎﾜｲﾄ	中生	中大	白	㈱サカタのタネ
<2>	ﾙｶｺﾞｰﾙﾄﾞ	中生	中大	黄	カネコ種苗㈱
<3>	ｾﾚﾌﾞﾘｯﾁﾎﾜｲﾄ	中生	大	白	住化農業資材㈱
<4>	ﾓｱﾅﾗｲﾄﾋﾟﾝｸ	中生	中大	薄桃	㈱ミヨシ
<5>	ｸﾞﾗﾝﾊﾋﾟﾈｽ	中晩生	大	白	㈱ミヨシ
<6>	ﾊﾋﾟﾈｽﾎﾜｲﾄ	中晩生	中大	白	㈱ミヨシ
<7>	ﾊﾟﾃｨｵﾌﾞﾙｰﾋﾟｺﾃｨ	中晩生	中	白紫	住化農業資材㈱
<8>	ﾏﾝﾊｯﾀﾝ	中晩生	中	紫	タキイ種苗㈱
<9>	ﾐﾝｸﾙｰｼﾞｭ	中晩生	中	白桃	タキイ種苗㈱
<10>	ｾﾐﾌｧｲﾅﾙﾛｰｽﾞ	中晩生	大	桃	タキイ種苗㈱
<11>	PF ﾀﾞﾌﾞﾙﾀｲﾌﾟｽﾉｰ	晩生	中	白	㈱サカタのタネ
<12>	ﾗﾙｺﾞﾏﾘﾝ	晩生	中大	白紫	㈱ミヨシ

(4)　調査項目　開花、切花

３結果の概要

(1)　生育

株張りが良く順調であり、生育前半は多めに潅水し、生育後半は乾燥気味の管理を行ったことで、茎は硬く仕上がり、草丈も十分確保できた。

病害虫の発生は見られなかった。

(2)　開花

採花時期は、9月3日から9月25日であり、一部の品種においては、終期が9月下旬にずれ込んだ。要因としては7月以降の低日照が考えられる。ただし、盛期については、いずれの品種においても彼岸入り前となった。

開花は、「ルカゴールド」、「セレブリッチホワイト」が同時で最も早く9月3日、最も遅かったのは、「PFダブルタイプスノー」で9月14日となった。

全品種における採花の盛期は、9月10日から9月17日となった。

(3)　切花品質

切花長では、「ラルゴマリン」で最も長く 101.8 cmであった。

茎径では、「マキアホワイト」で最も太く 6.7mm となった。

開花数と花蕾数の合計は、全ての品種で 6 個以上となった。

「パティオブルーピコティ」、「セミファイナルローズ」、「ラルゴマリン」は草丈が伸びやすくボリュームは確保しやすいものの、上位節間の徒長に留意し、潅水を控えめにする必要がある。

また、「ラルゴマリン」は、高温や低日照等の影響により色流れが発生しやすい傾向にあった。

「PF ダブルタイプスノー」については無花粉であるため、白色系品種の課題の一つであった花粉による花弁の汚れを防ぐことができる品種であると考えられる。

(4)　次年度以降の計画

継続

表 1　採花期

品種名	早晩性	花径	採花期（開始～終了）	採花期（盛期）
<1> ﾏｷｱﾎﾜｲﾄ	中生	中大	9/ 4 ～ 9/17	9/11
<2> ﾙｶｺﾞｰﾙﾄﾞ	中生	中大	9/ 3 ～ 9/16	9/10
<3> ｾﾚﾌﾞﾘｯﾁﾎﾜｲﾄ	中生	大	9/ 3 ～ 9/18	9/10
<4> ﾓｱﾅﾗｲﾄﾋﾟﾝｸ	中生	中大	9/10 ～ 9/18	9/11
<5> ｸﾞﾗﾝﾊﾋﾟﾈｽ	中晩生	大	9/11 ～ 9/18	9/14
<6> ﾊﾋﾟﾈｽﾎﾜｲﾄ	中晩生	中大	9/ 4 ～ 9/18	9/10
<7> ﾊﾟﾃｨｵﾌﾞﾙｰﾋﾟｺﾃｨ	中晩生	中	9/11 ～ 9/22	9/16
<8> ﾏﾝﾊｯﾀﾝ	中晩生	中	9/ 7 ～ 9/18	9/11
<9> ﾐﾝｸﾙｰｼﾞｭ	中晩生	中	9/ 4 ～ 9/17	9/11
<10>ｾﾐﾌｧｲﾅﾙﾛｰｽﾞ	中晩生	大	9/ 7 ～ 9/23	9/16
<11>PFﾀﾞﾌﾞﾙﾀｲﾌﾟｽﾉｰ	晩生	中	9/14 ～ 9/24	9/17
<12>ﾗﾙｺﾞﾏﾘﾝ	晩生	中大	9/10 ～ 9/25	9/17

表 2　切花調査

品種名	切花長 (cm)	切花重 (g)	調整重 (g)	節数 (節)	茎長 (cm)	茎径 (mm)	着蕾側枝数 (本)	開花数 (個)	花蕾数 (個)
<1> ﾏｷｱﾎﾜｲﾄ	85.1	79.0	59.7	7.8	48.4	6.7	3.6	4.4	4.5
<2> ﾙｶｺﾞｰﾙﾄﾞ	88.4	73.4	57.7	7.1	54.7	6.3	4.8	4.4	6.8
<3> ｾﾚﾌﾞﾘｯﾁﾎﾜｲﾄ	83.8	63.3	45.1	5.8	39.9	5.8	4.2	3.1	5.4
<4> ﾓｱﾅﾗｲﾄﾋﾟﾝｸ	80.1	58.4	43.5	6.9	39.8	6.4	3.7	3.4	3.9
<5> ｸﾞﾗﾝﾊﾋﾟﾈｽ	81.2	55.3	41.6	5.2	40.0	6.5	5.0	4.1	3.6
<6> ﾊﾋﾟﾈｽﾎﾜｲﾄ	80.3	50.7	39.9	5.2	43.2	5.8	5.9	3.7	3.7
<7> ﾊﾟﾃｨｵﾌﾞﾙｰﾋﾟｺﾃｨ	99.0	75.9	61.2	7.7	50.3	6.3	5.9	4.6	5.5
<8> ﾏﾝﾊｯﾀﾝ	86.0	59.6	47.9	7.8	46.9	5.3	3.6	3.1	3.5
<9> ﾐﾝｸﾙｰｼﾞｭ	74.3	49.6	42.0	7.4	42.1	5.2	4.1	3.1	3.0
<10>ｾﾐﾌｧｲﾅﾙﾛｰｽﾞ	95.1	72.8	60.6	7.2	51.1	6.3	3.7	3.6	5.2
<11>PFﾀﾞﾌﾞﾙﾀｲﾌﾟｽﾉｰ	84.8	57.2	46.3	6.6	42.5	5.2	3.4	3.0	6.4
<12>ﾗﾙｺﾞﾏﾘﾝ	101.8	80.4	67.4	7.8	54.0	6.6	4.7	3.7	4.4

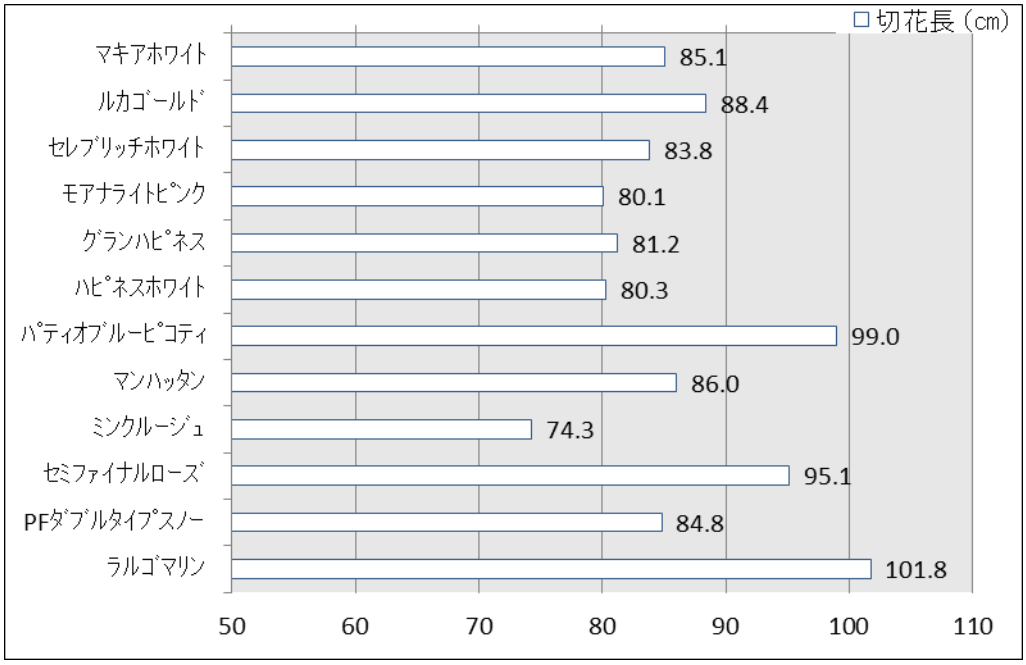


図１　切花長の比較

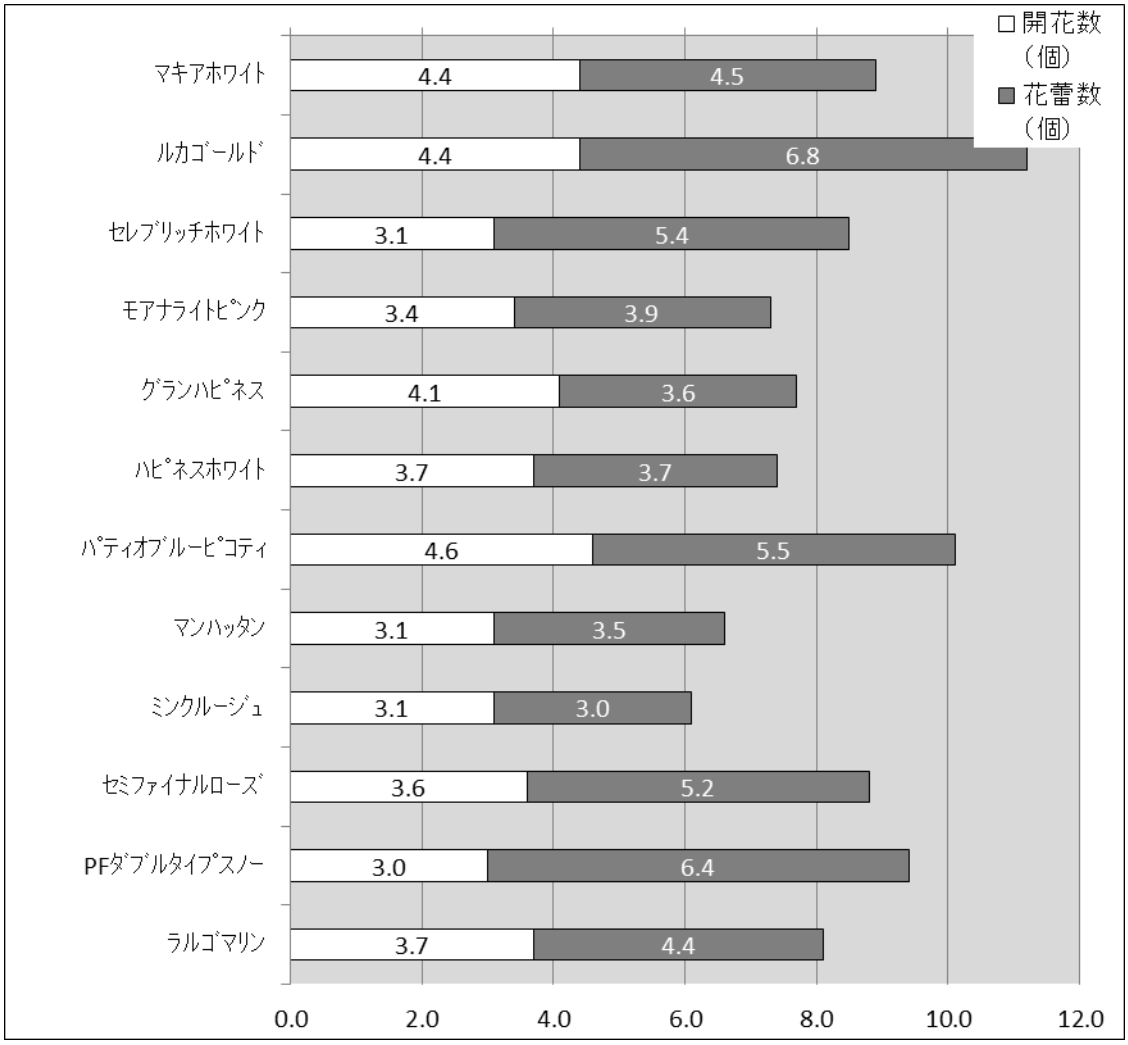


図２　開花数＋花蕾数の比較

〈1〉 ﾏｷｱﾎﾜｲﾄ

〈2〉 ﾙｶｺﾞｰﾙﾄﾞ

〈3〉 ｾﾚﾌﾞﾘｯﾁﾎﾜｲﾄ

〈4〉 ﾓｱﾅﾗｲﾄﾋﾟﾝｸ

〈5〉 ｸﾞﾗﾝﾊﾋﾟﾈｽ

〈6〉 ﾊﾋﾟﾈｽﾎﾜｲﾄ

〈7〉 ﾊﾟﾃｨｵﾌﾞﾙｰﾋﾟｺﾃｨ

〈8〉 ﾏﾝﾊｯﾀﾝ

〈9〉 ﾐﾝｸﾙｰｼﾞｭ

〈10〉 ｾﾐﾌｧｲﾅﾙﾛｰｽﾞ

〈11〉 PF ﾀﾞﾌﾞﾙﾀｲﾌﾟｽﾉｰ

〈12〉 ﾗﾙｺﾞﾏﾘﾝ

花きの部　No.3

項　目：栽培技術調査

調査名：カンパニュラの赤色 LED 電照栽培技術調査（新規：令和 2 年度～令和 4 年度）

１目的　カンパニュラの赤色 LED 電照処理により開花促進が可能とされていることから、当地域における実用性について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス 9 号（99 ㎡：約 30 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　土耕栽培

2)　は種年月日　令和元年 9 月 27 日

3)　定植年月日　令和元年 11 月 8 日

4)　仕立て法　令和元年 12 月 20 日に摘心

5)　栽植距離　ベッド幅 60 ㎝、株間 20 ㎝、条間 40cm、2 条植え(中 1 条抜き)

6)　定植株数　620 株/棟

7)　施肥量　N-P-K-Mg=0.96-0.08-2.40-0.16 kg/a
（基肥）アルガ 215（12-1-5-2）：8.0 kg/a
硫酸加里（K:50）：4.0 kg/a

8)　使用資材　バイオ 21、黒マルチ、赤色 LED ライト（620nm～630nm）
20cm×3 目フラワーネット

9)　電照期間　調査区①　無電照
調査区②　令和元年 11 月 8 日～収穫期まで
22：00～2：00（暗期中断）

10)　収穫時期　令和 2 年 4 月 24 日～6 月 2 日

11)　保温　内カーテン（令和元年 11 月 8 日～令和 2 年 4 月 30 日）
パスライトトンネル（令和元年 12 月 9 日～令和 2 年 3 月 10 日）

12)　薬剤散布　13 回（成分回数）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　8　区（1 区 5 株、1 区制）

2)　供試品種

No.	品種名	花色	会社名
<1>	チャイムホワイト	白	㈱サカタのタネ
<2>	チャンピオンスカイブルー	青紫	㈱サカタのタネ
<3>	チャンピオンピンク	桃	㈱サカタのタネ
<4>	チャンピオンホワイト	白	㈱サカタのタネ

(4)　調査項目　開花、切花

３結果の概要

(1)　生育

全品種において、病害虫の発生は見られず、順調な生育であった。

生育期後半は灌水を控えめにし、冬場の換気も積極的に行ったため首曲がり等の症状は見られなかったものの、赤色 LED 電照区において、一部充分な草丈が確保できない品種があった。

また、栽培期間中の生育調査において、いずれの時点でも赤色 LED 電照区の生育が早いことが確認された。

(2)　開花

開花時期は、全調査区の中で赤色 LED 電照区のチャイムホワイトで最も早く、採花期は 4 月 24 日～4 月 30 日となった。

また、いずれの品種においても、無電照区より赤色 LED 電照区の採花期が早く、最大で 20 日程度の差が見られた。

(3)　切花品質

切花長では、全調査区で 80cm を超えた。また、全ての品種で無電照区が長い結果となった。

切花重では、全品種で無電照区が重かった。

花穂長では、全品種で無電照区が長かった。

茎径では、全品種で無電照区が太かった。
花蕾数では、全品種で無電照区が多かった。
花径では、調査区別での差はほとんど見られなかった。

(4) 考察

開花時期については、赤色 LED 電照区が総じて早い結果となった。

ただし、切花品質においては無電照区が優れており、チャイムホワイト等の比較的コンパクトな草姿の品種では、充分な草丈が確保できない場合が考えられるため、品種選定に留意する必要がある。

また、今回の調査では定植と同時に赤色 LED 電照を行ってきたが、電照開始時期や電照時間、定植時期等について、開花促進効果と切花品質の両面でバランスの良い結果となるよう検討していきたい。

(5) 次年度以降の計画

継続

表 1　採花期

品種名	電照	採花期 (開始～終了)	採花期 (盛期)
チャイムホワイト	無電照	5/13～5/25	5/22
	赤色LED	4/24～4/30	4/27
チャンピオンスカイブルー	無電照	5/18～5/27	5/25
	赤色LED	4/28～5/ 4	5/ 1
チャンピオンピンク	無電照	5/22～6/ 2	5/28
	赤色LED	5/ 1～5/ 9	5/ 9
チャンピオンホワイト	無電照	5/18～5/27	5/22
	赤色LED	5/ 1～5/ 9	5/ 4

表 2　切花調査

品種名	電照	切花長 (cm)	切花重 (g)	花穂長 (cm)	茎径 (mm)	葉数 (枚)	花蕾数 (個)	花径 (cm)
チャイムホワイト	無電照	90.9	73.9	45.5	7.3	67.2	14.3	4.1
	赤色LED	80.7	46.8	42.0	6.8	63.2	12.4	3.9
チャンピオンスカイブルー	無電照	110.4	91.5	50.6	8.2	85.0	20.3	4.9
	赤色LED	91.8	63.0	46.6	7.2	63.8	12.6	4.7
チャンピオンピンク	無電照	119.4	101.7	59.2	8.8	90.6	20.9	4.8
	赤色LED	101.4	72.4	56.0	7.8	85.4	16.5	4.9
チャンピオンホワイト	無電照	101.0	88.5	62.8	7.8	73.0	19.0	4.4
	赤色LED	90.9	58.7	58.0	7.0	70.7	16.6	4.3

花きの部　No.4

項　目：品種比較調査

調査名：ディスバッドマムの品種比較調査(8 月出荷)（継続：平成 31 年度～令和 2 年度）

１目的　今後、当地域の有望花き品目として期待されるディスバッドマムについて、8 月出荷作型における栽培技術及び品種比較調査を行い、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス 11 号（99 ㎡：約 30 坪）

(2)　耕種概要

1) 栽培方法　土耕栽培
2) 定植年月日　令和 2 年 5 月 11 日
3) 栽植距離　ベッド幅 80 ㎝、株間 10 ㎝、条間 10cm、6 条植え（中 2 条抜き）
4) 定植株数　3,600 本/棟
5) わい化剤処理　令和 2 年 7 月 14 日、29 日　ビーナイン顆粒水溶剤 1,000 倍
6) 施肥量　N-P-K-Mg=1.56-0.13-5.15-1.06 kg/a
（基肥）アルガ 215（12-1-5-2）：13.0 kg/a
硫酸加里（K：50）：9.0 kg/a
ハイクド（Mg:40）：2.0 kg/a
7) 使用資材　10cm×8 目フラワーネット、黒マルチ
8) 電照期間　令和 2 年 5 月 11 日～6 月 18 日　22:00～3:00（暗期中断）
9) シェード管理　令和 2 年 6 月 18 日～8 月 13 日　17:30～6:30（11 時間日長）
10) 収穫時期　令和 2 年 8 月 3 日～8 月 13 日
11) 薬剤散布　23 回（成分回数）

(3)　調査区の構成

1) 調査区　13 区（1 区 10 株、1 区制）
2) 供試品種

No.	品種名	花色	会社名
<1>	ｼｬﾝﾃｲ	赤	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<2>	ｱﾋﾞｰ	桃	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<3>	ﾊﾞｳﾞｪｰﾉﾀﾞｰｸ	桃	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<4>	ｱﾋﾞｰｲｴﾛｰ	黄	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<5>	ﾏｸﾞﾅﾑｲｴﾛｰ	黄	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<6>	ｾﾘｶ	白	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<7>	ｼﾍﾞﾘｱ	白	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<8>	ﾊﾞｳﾞｪｰﾉﾎﾜｲﾄ	白	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<9>	ﾌﾞﾗｲﾄﾞ	白	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<10>	ﾏｸﾞﾅﾑ	白	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<11>	ﾚｳﾞｧｰﾅ	黄	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<12>	ﾍﾞﾙｰｶﾞﾗｲﾑ	緑	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<13>	ﾊﾞｲﾀﾘﾃｨ	橙	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ

(4)　調査項目　開花、切花

３結果の概要

(1)　生育

全品種において、病害発生は見られなかったものの、発蕾期にアブラムシ、収穫期にハダニ類の発生が散見された。

7 月 13 日から、脇芽欠きを順次行った。

やなぎ芽及びやなぎ葉については、「レヴァーナ」、「ベルーガライム」の一部において発生が見られた。

(2)　開花

採花時期は、8 月 3 日から 8 月 13 日となった。採花の盛期は 8 月 6 日から 8 月 11 日となり、全品種において盆前が採花盛期となった。

(3)　切花品質

切花長では、全品種で 100cm を超え、「バイタリティ」で最も長く 135.2cm、「セリカ」で最も短く 108.1cm となった。

切花重では、「バイタリティ」で最も重く 90.7g となった。

花首長では、「シャンティ」、「アビー」、「セリカ」、「ブライド」、「バイタリティ」が 1cm 台となった。

茎径では、「マグナムイエロー」で最も太く 8.4mm となった

(4)　その他

「アビー」、「アビーイエロー」、「バイタリティ」は、生育の揃いが良く、他の品種に比べロスが少なかった。

耐暑性について、高温障害の影響は全体で見ると少なかったものの、「バヴェーノダーク」においては色乗りの悪さ及び退色の目立つ個体が散見された。

また、「レヴァーナ」は花首が伸びやすい傾向にあるため、わい化剤による処理と生育期後半の潅水量に留意する必要があると考えられる。

(5)　次年度以降の計画

完了

表 1　採花期

品種名	採花期（開始～終了）	（盛期）
<1> ｼｬﾝﾃｨ	8/ 3～ 8/12	8/ 6
<2> ｱﾋﾞｰ	8/ 4～ 8/11	8/ 7
<3> ﾊﾞｳﾞｪｰﾉﾀﾞｰｸ	8/ 4～ 8/11	8/ 7
<4> ｱﾋﾞｰｲｴﾛｰ	8/ 4～ 8/11	8/ 7
<5> ﾏｸﾞﾅﾑｲｴﾛｰ	8/ 4～ 8/ 7	8/ 7
<6> ｾﾘｶ	8/ 3～ 8/11	8/ 7
<7> ｼﾍﾞﾘｱ	8/ 4～ 8/11	8/ 7
<8> ﾊﾞｳﾞｪｰﾉﾎﾜｲﾄ	8/ 4～ 8/12	8/10
<9> ﾌﾞﾗｲﾄﾞ	8/ 4～ 8/11	8/ 7
<10> ﾏｸﾞﾅﾑ	8/ 4～ 8/ 7	8/ 7
<11> ﾚｳﾞｧｰﾅ	8/ 5～ 8/13	8/11
<12> ﾍﾞﾙｰｶﾞﾗｲﾑ	8/ 5～ 8/13	8/11
<13> ﾊﾞｲﾀﾘﾃｨ	8/ 4～ 8/ 7	8/ 7

表 2　切花調査

品種名	切花長 (cm)	切花重 (g)	花首長 (cm)	茎径 (mm)	花径 (cm)
<1> ｼｬﾝﾃｨ	109.9	74.8	1.4	5.4	6.9
<2> ｱﾋﾞｰ	117.4	70.6	1.7	6.6	6.6
<3> ﾊﾞｳﾞｪｰﾉﾀﾞｰｸ	134.9	78.7	2.1	7.5	12.5
<4> ｱﾋﾞｰｲｴﾛｰ	113.2	64.4	2.1	6.4	6.7
<5> ﾏｸﾞﾅﾑｲｴﾛｰ	130.2	82.8	2.5	8.4	14.9
<6> ｾﾘｶ	108.1	70.0	1.2	6.8	10.6
<7> ｼﾍﾞﾘｱ	112.2	62.9	2.1	6.6	6.2
<8> ﾊﾞｳﾞｪｰﾉﾎﾜｲﾄ	131.3	74.4	2.0	7.5	12.2
<9> ﾌﾞﾗｲﾄﾞ	114.0	79.0	1.9	6.8	7.7
<10> ﾏｸﾞﾅﾑ	127.0	80.7	2.4	8.1	14.0
<11> ﾚｳﾞｧｰﾅ	124.4	58.9	3.8	5.7	6.6
<12> ﾍﾞﾙｰｶﾞﾗｲﾑ	125.7	74.5	2.7	6.7	12.6
<13> ﾊﾞｲﾀﾘﾃｨ	135.2	90.7	1.5	8.0	7.1

〈1〉 ｼｬﾝﾃｨ

〈2〉 ｱﾋﾞｰ

〈3〉 ﾊﾞｳﾞｪｰﾉﾀﾞｰｸ

〈4〉 ｱﾋﾞｰｲｴﾛｰ

〈5〉 ﾏｸﾞﾅﾑｲｴﾛｰ

〈6〉 ｾﾘｶ

〈7〉 ｼﾍﾞﾘｱ

〈8〉 ﾊﾞｳﾞｪｰﾉﾎﾜｲﾄ

〈9〉 ﾌﾞﾗｲﾄﾞ

〈10〉 ﾏｸﾞﾅﾑ

〈11〉 ﾚｳﾞｧｰﾅ

〈12〉 ﾍﾞﾙｰｶﾞﾗｲﾑ

〈13〉 ﾊﾞｲﾀﾘﾃｨ

2-5　調査成績（耕畜連携推進事業パートナー制度）

調査名：ながいも栽培における堆肥の施用効果の検討

１目的　「発酵鶏糞堆肥」の適正な施用について調査・研究し、家畜排泄物を利用した堆肥、肥料の利用を促進するとともに循環型農業の普及を図る。

２調査方法

(1)　調査場所　露地ほ場

(2)　耕種概要

1)　植付月日　令和２年５月 26 日

2)　栽植距離　うね幅 120 ㎝、株間 21 ㎝

3)　植付本数　3,968 本/10a

4)　施肥量　調査区①

N-P-K=25.0-33.3-22.5kg/10a

【基肥】発酵鶏糞堆肥(2.73-4.98-3.05)：475kg/10a

パワーアップながいも(15.0-12.0-10.0)：80kg/10a

調査区②

N-P-K=24.9-33.4-16.6kg/10a

【基肥】パワーアップながいも(15.0-12.0-10.0)：166kg/10a

パワーリン(P:30%)：45kg/10a

調査区	資材	施肥量 (kg/10a)	成分量 (kg/10a) N	P	K
①	発酵鶏糞堆肥	475	13.0	23.7	14.5
	パワーアップながいも	80	12.0	9.6	8.0
②	パワーアップながいも	166	24.9	19.9	16.6
	パワーリン	45	0.0	13.5	0.0

5)　収穫月日　令和２年 12 月４日

6)　薬剤散布　18 回(成分回数)

(3)　調査区の構成

1)　調査区　４区（１区 6.3m（30 本）、１区制）

2)　供試品種　〈1〉園試系６（切片子）：80～100g

〈2〉庄司系（切片子）：80～100g

(4)　調査項目　生育、収量、品質

３結果の概要

(1)　昨年度の結果

配合肥料「パワーアップながいも」のみの調査区が収量及びＡ品率について勝っていた。鶏糞堆肥施用区はいもの尻部に肥料切れによると思われる奇形が多く見られた。

(2)　本年度の結果

1)　生育

萌芽揃期は６月 15 日頃であった。

生育期間を通して大雨が多く、６月下旬から７月前半にかけては降雨及び日照不足の影響により生育が停滞気味であったが、その後、地上部の生育は回復傾向となった。茎葉の量は概ね例年並みであり、茎葉の黄化始めは調査区①、②ともに 10 月上旬頃となったが、調査区①の方が３日程度早かった。強風等による葉落ちやツル切れは見られなかった。

病害虫については、葉渋病が一部で見られた。

2)　収量

いも重及び 10a 換算収量は、「園試系６」、「庄司系」ともに調査区②が多くかった。また、調査区①におけるいも重及び 10a 換算収量は、調査区②の８割前後となった。

3)　品質

Ａ品率は「園試系 6」、「庄司系」ともに調査区②が高かった。共通する落等要因は夏期の大雨によると思われるコブやリングであったが、調査区①では尻部に近い部位に肥料切れによると思われるコブやリング等の奇形が見られた。

今回の調査では、いも重増加及びＡ品率の向上を図るために定植時における「発酵鶏糞堆肥」の施用量を増やしたが、改善には至らなかった。今期は大雨が多く奇形の発生を助長したことも考えられるが、調査区①では尻部の奇形が多いことから、「発酵鶏糞堆肥」を化成肥料の代替として使用するためには、数回に分けた施用についても検討が必要と思われる。

表１　収量調査

調査区名	全長 (cm)	全重 (g)	いも長 (cm)	いも重 (g)	長径 (mm)	Ａ品率 (%)	10a換算収量(kg)	外品 (kg/10a)	10a換算販売収量(kg)
園試系6①	61.3	884.4	42.0	849.8	60.6	10.5	3,372	173	3,199
園試系6②	74.6	1,103.1	54.0	1,045.1	55.7	46.9	4,147	0	4,147

調査区名	全長 (cm)	全重 (g)	いも長 (cm)	いも重 (g)	長径 (mm)	Ａ品率 (%)	10a換算収量(kg)	外品 (kg/10a)	10a換算販売収量(kg)
庄司系①	63.2	925.9	46.2	883.1	56.7	21.0	3,504	0	3,504
庄司系②	77.5	1,117.8	54.6	1,067.4	54.2	55.2	4,236	170	4,065

※10a 換算収量=いも重×植付数(3,968 本/10)。10a 換算販売収量=10a 換算収量−外品。

表２　規格別収量及び収量割合

調査区名	項目	4L	3L	2L	L	M	S	2S	規格外	合計
園試系6①	収量(kg/10a)	352	1,269	1,030	569	71	0	43	38	3,372
	割合(%)	(10.4)	(37.6)	(30.6)	(16.9)	(2.1)	(0)	(1.3)	(1.1)	
園試系6②	収量(kg/10a)	1,676	992	860	409	149	61	0	0	4,147
	割合(%)	(40.4)	(23.9)	(20.7)	(9.9)	(3.6)	(1.5)	(0)	(0)	
庄司系①	収量(kg/10a)	501	879	1,165	742	217	0	0	0	3,504
	割合(%)	(14.3)	(25.1)	(33.2)	(21.2)	(6.2)	(0)	(0)	(0)	
庄司系②	収量(kg/10a)	1,416	1,888	474	458	0	0	0	0	4,236
	割合(%)	(33.4)	(44.6)	(11.2)	(10.8)	(0)	(0)	(0)	(0)	

表３　等級割合（%）

調査区名	A	B	C	平	D	等級外	合計
園試系6①	10.5	18.4	45.0	0.0	21.0	5.1	100.0
園試系6②	46.9	24.1	15.0	3.7	10.3	0.0	100.0
庄司系①	21.0	14.5	31.9	2.6	30.0	0.0	100.0
庄司系②	55.2	31.9	8.9	0.0	0.0	4.0	100.0

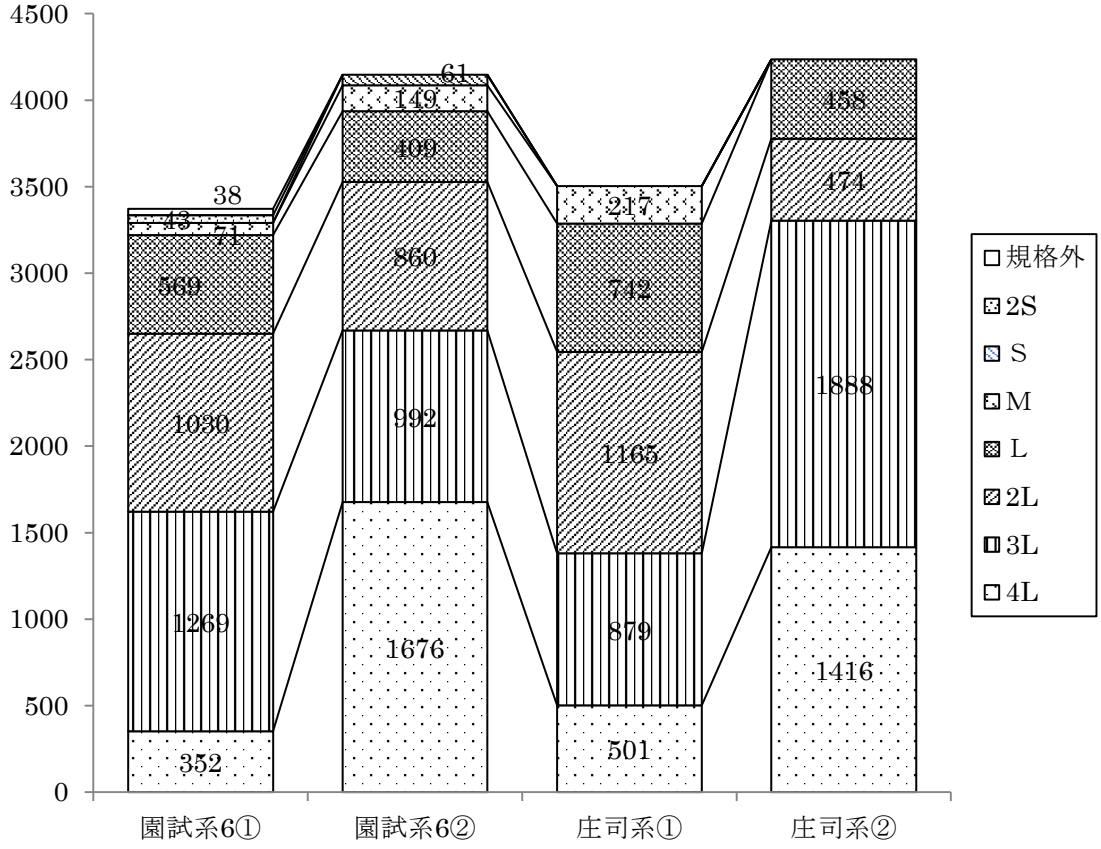


図１　規格別収量（kg/10a）

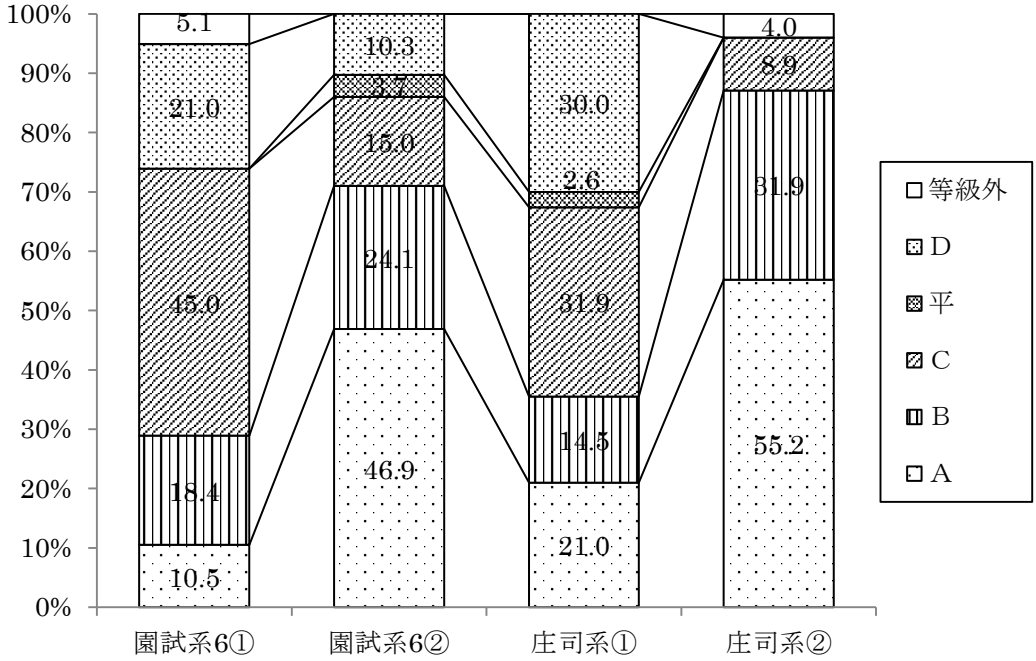


図２　等級割合

園試系 6（調査区①）

園試系 6（調査区②）

庄司系（調査区①）

庄司系（調査区②）

2－6　土壌分析

1　目的

農業者及び農業団体から依頼された土壌を分析し、土壌改良の資料とする。

また、当市において、産地形成されている地域のモデルとなる地点を定点観測地点に設定し、土壌分析を行ない、土壌改良の資料とする。

2　分析実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
依頼数(人)	17	14	9	21	13	22	12	16	74	12	14	41	265
ｻﾝﾌﾟﾙ数(件)	39	32	55	71	34	55	45	48	180	25	76	95	755
分　析　数	374	280	550	710	340	550	426	472	1,776	242	704	758	7,182

3　分析項目

1)　pH（H_2O・KCl）
2)　EC（電気伝導度）
3)　硝酸態窒素
4)　有効態リン酸
5)　リン酸吸収係数
6)　CEC（塩基置換容量）
7)　置換性カルシウム
8)　置換性マグネシウム
9)　置換性カリウム
10)　水分

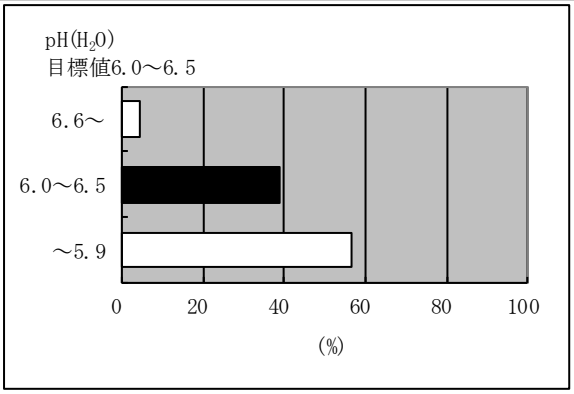
4　定点観測地点の概要

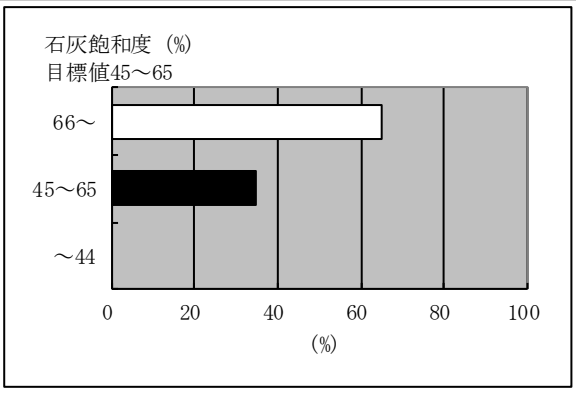
地 区 名	地点数		対　象　作　物	
市川地区	25	21	いちご	施設
		2	ミニトマト	
		2	花き	
下長地区	4	1	いちご	施設
		2	トマト・ミニトマト	
		1	花き	
上長地区	3	1	ながいも	露地
		1	ピーマン	
		1	食用菊	
豊崎地区	2	1	にんにく	露地
		1	ながいも	
館 地 区	8		ミニトマト	施設
是川地区	25	1	いちご	施設
		1	トマト・ミニトマト	
		4	きゅうり	
		1	花き	
		6	ながいも	露地
		6	夏ねぎ	
		6	秋ねぎ	
旧市内地区	2		トマト	施設
南郷地区	4	1	トマト	施設
		1	きゅうり	
		2	そば	露地

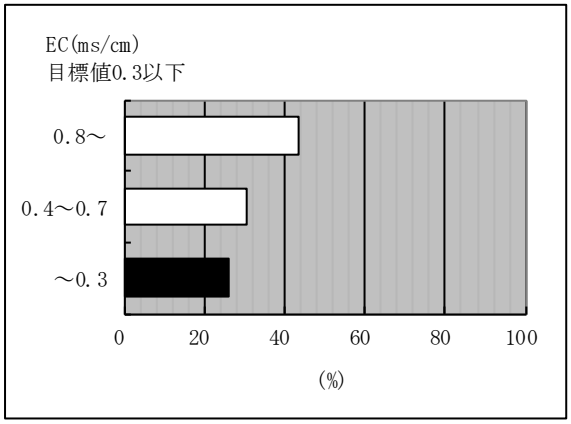
施設野菜（いちご）：23 地点
施設野菜（トマト・ミニトマト・きゅうり）：21 地点
花き：4 点
露地野菜（にんにく・ながいも・ねぎ等）：25 地点　　合計　73 地点

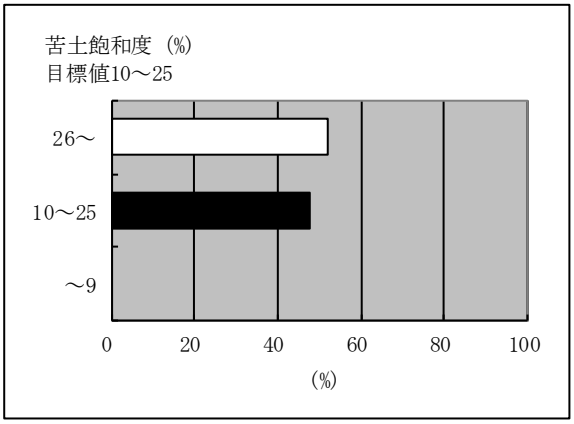
5　分析結果

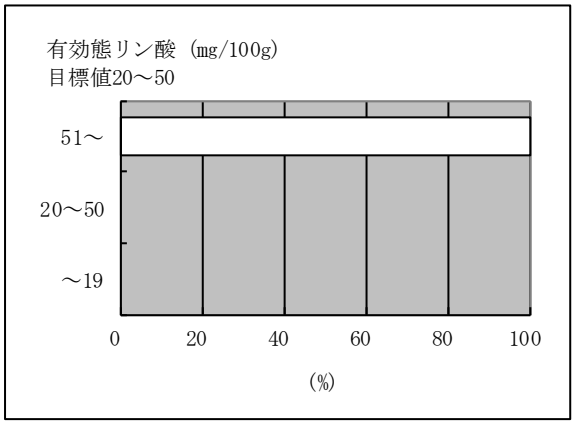
(1)　施設野菜（いちご）

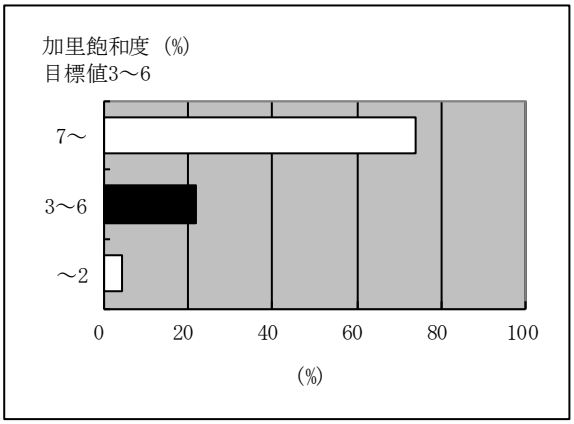


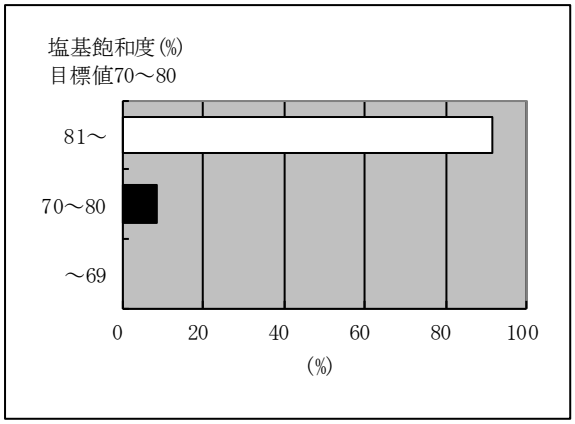










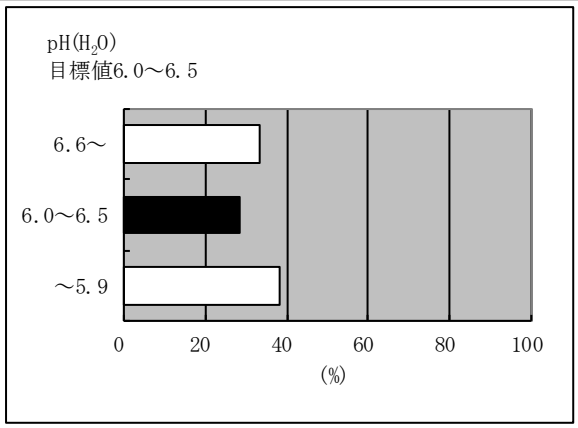


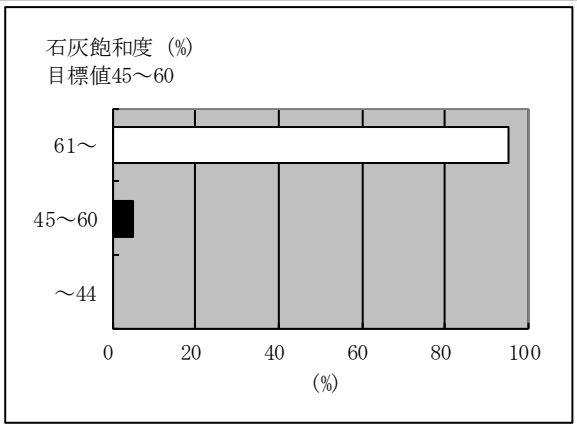
サンプル数：23件

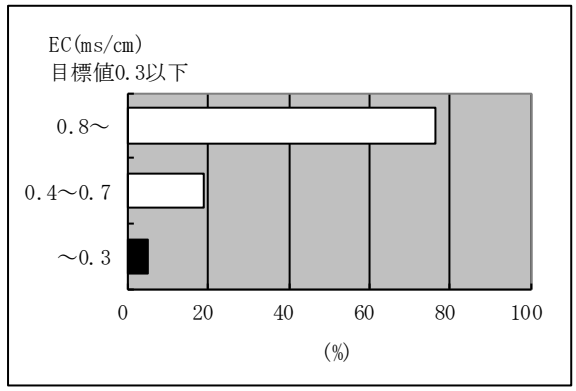
採取地区：市川、是川、日計

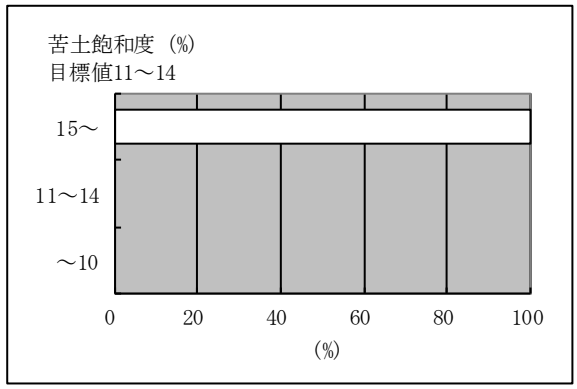
約70%のほ場でECが過剰
全てのほ場でリン酸が過剰
約80％のほ場で塩基が過剰
約70%のほ場で石灰が過剰
約50%のほ場で苦土が過剰
約70％のほ場で加里が過剰

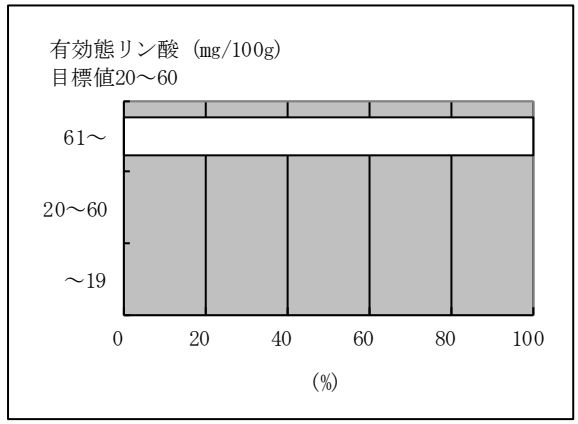
(2)　施設野菜（トマト・ミニトマト・きゅうり）

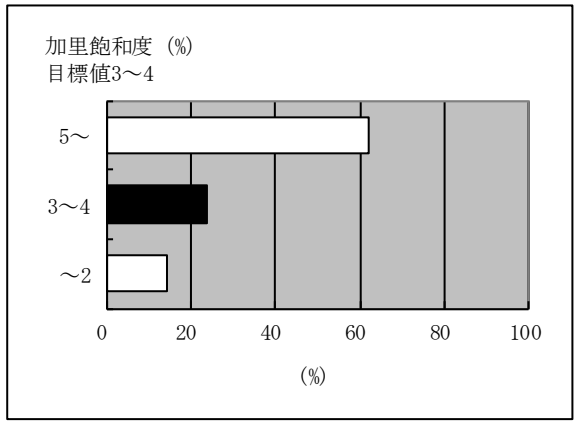


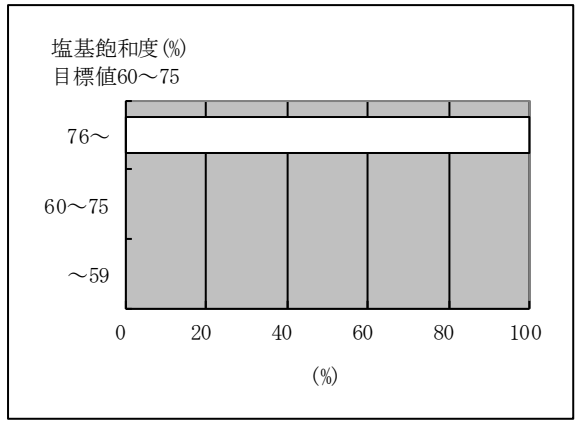










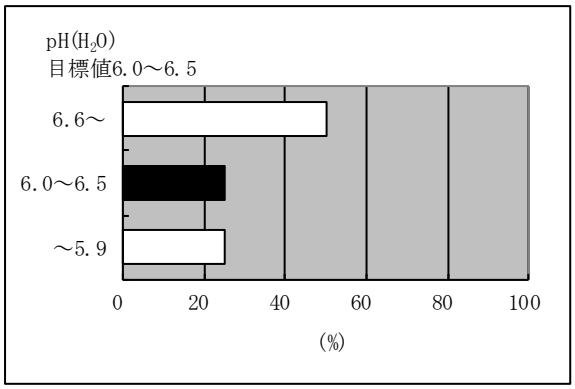


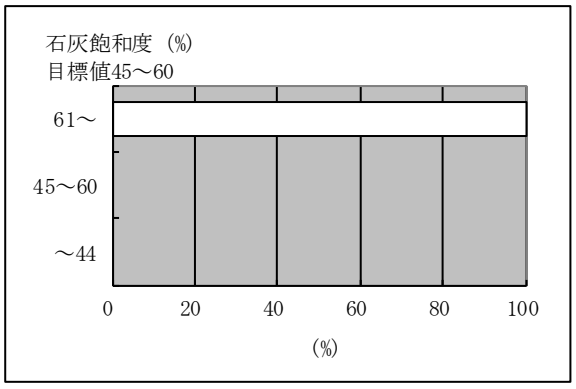
サンプル数：21件

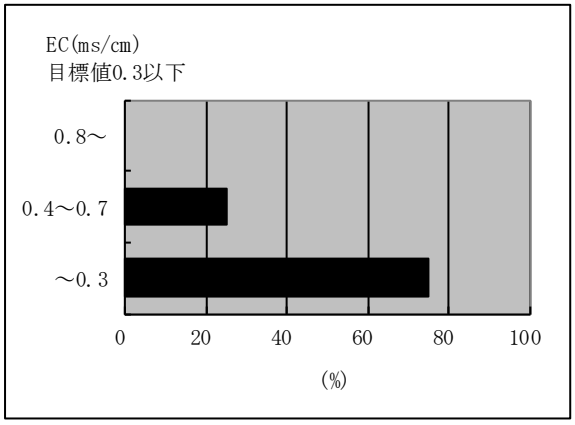
採取地区：市川・下長・館・是川
旧市内・南郷

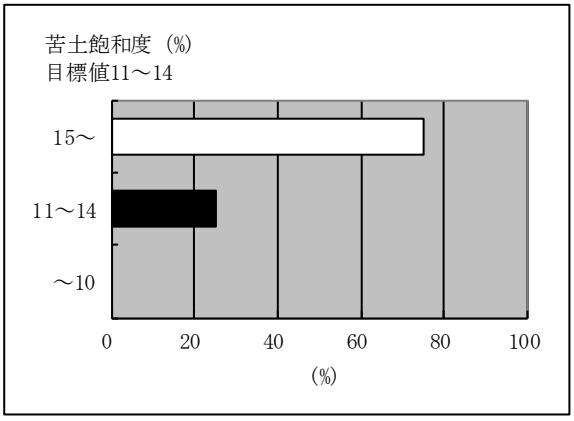
約95%のほ場でECが過剰
全てのほ場でリン酸が過剰
全てのほ場で塩基が過剰
約95%のほ場で石灰が過剰
全てのほ場で苦土が過剰
約60%のほ場で加里が過剰

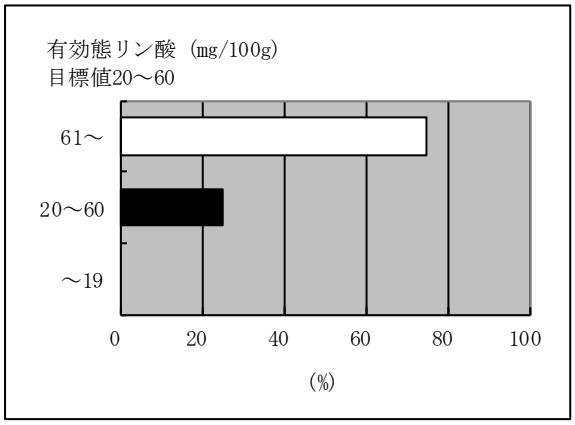
(3)　花き

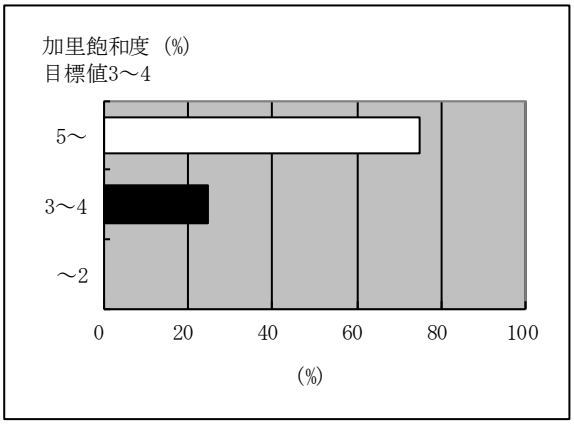


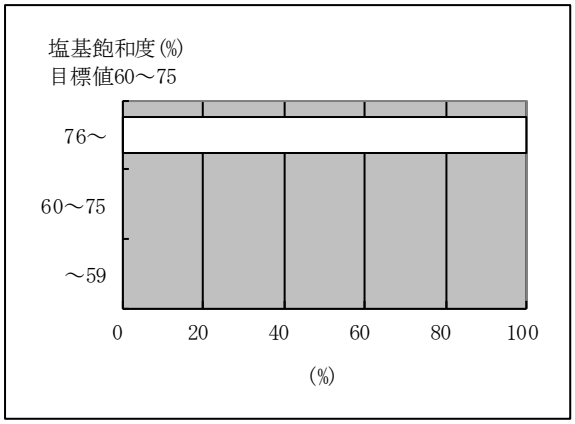










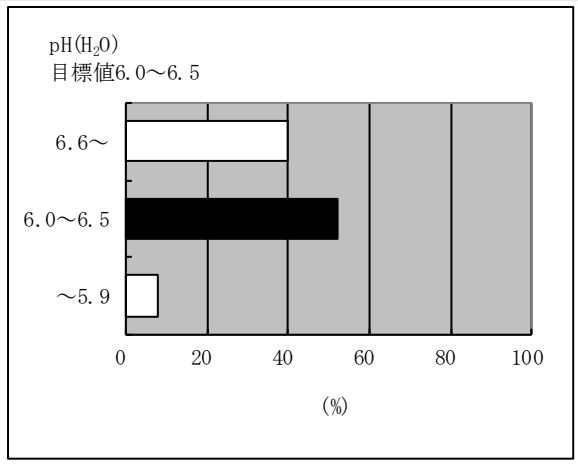


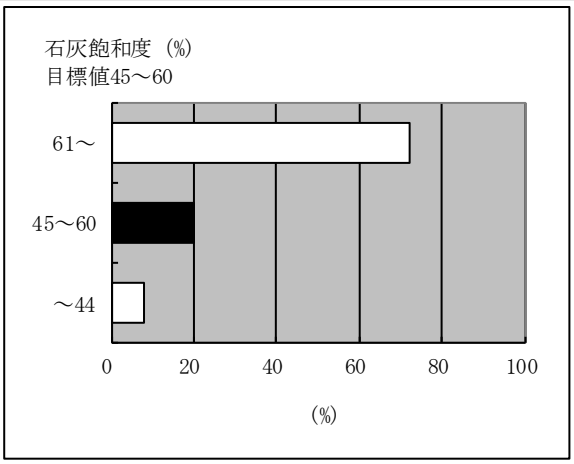
サンプル数：4件

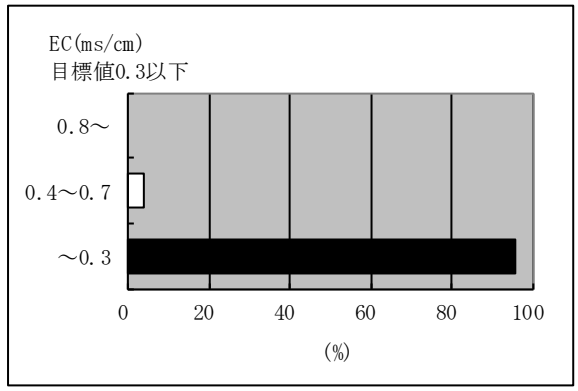
採取地区：市川・下長・是川

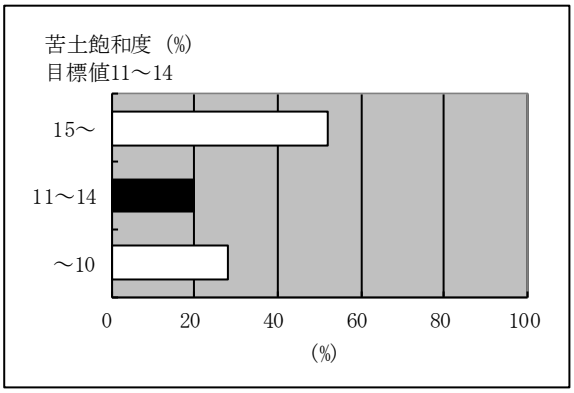
約75％のほ場でリン酸が過剰
全てのほ場で塩基が過剰
全てのほ場で石灰が過剰
約75％のほ場で石灰が過剰
約50%のほ場で加里が過剰

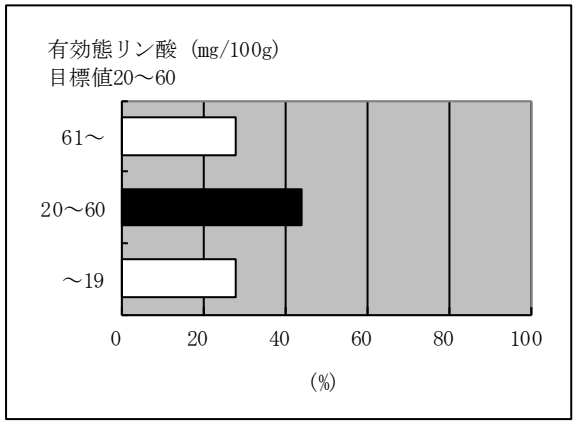
(4)　露地野菜（ながいも・にんにく・ねぎ等）

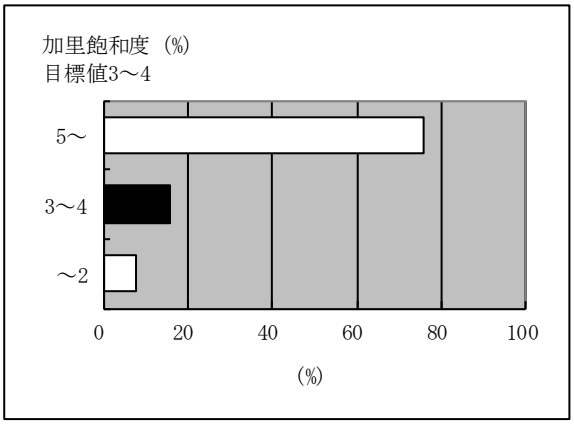


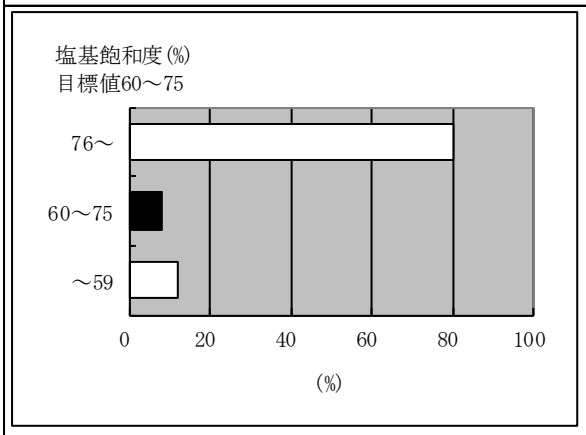












サンプル数：25件

採取地区：上長・豊崎・是川・南郷

約5%のほ場でECが過剰
約30%のほ場でリン酸が過剰
約80%のほ場で塩基が過剰
約70%のほ場で石灰が過剰
約50%のほ場で苦土が過剰
約75%のほ場で加里が過剰

2－7　植物組織培養

1　優良種苗の増殖実績

(1)　いちご・・・・・・・・(13 品種)

(2)　奥州菊・・・・・・・・(5 品種)

2－8　市民農園設置事業

1　目的

自然環境の中での市民が家族ぐるみによる農業体験を通じて、農業知識の向上並びに農業に対する理解を深めてもらうために実施する。

2　場所

八戸市農業経営振興センター内

3　期間

令和 2 年 4 月 19 日～11 月 23 日

4　募集区画面積及び利用者数

(1)　1 区画（33 ㎡）：91 件　　(2)　2 区画（66 ㎡）：37 件

(3)　3 区画（99 ㎡）：29 件

5　対象

八戸市民（1 世帯で最大 3 区画まで利用可能）

6　使用料

(1)　1 区画（33 ㎡）：2,610 円

7　主要施設

・休憩所（1 箇所）　・トイレ（2 基）　・電話（1 台）

・農業用水道（6 箇所）　・駐車場（1 箇所：1,000 ㎡）

8　主な作付け作物

【春】じゃがいも、まめ類、ねぎ、にんじん、だいこん

【秋】だいこん、ねぎ、はくさい、にんじん、ほうれんそう

2－9　農業体験学習

1　目的

小学生等の食育の一環として、農作物を育て、収穫する喜びを体験し、農業及び食に対する理解を深めてもらうため、農業体験の場を提供した。

2　実績

〇収穫作業体験

月日	団体名	人数	体験内容
10 月 20 日	白銀台保育園	30	さつまいも収穫体験
10 月 21 日	長者幼稚園	22	さつまいも収穫体験
10 月 26 日	八戸幼稚園	26	さつまいも収穫体験
10 月 27 日	八戸学院幼稚園	73	さつまいも収穫体験
10 月 29 日	イメルダ幼稚園	23	さつまいも収穫体験
合計	5 回	174	名

2 - 10　農業講座

１　目的

優れた知識や新たな技術の習得により、農業の生産性向上と農家経営の安定を図り、当市農業の活性化を促進するため。

２　実績

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から令和２年度は開催自粛。

2 - 11　家庭菜園講習会

１　目的

野菜づくりに必要な基本的な知識や技術の習得と地場野菜への関心を深めてもらうため。

２　実績

日時	場所	人数	内容
3 月 14 日	八戸市農業経営振興センター	55	家庭菜園講習会「春・夏の野菜づくり」

合計　55 名

2 - 12　施設利用実績

農業講座、家庭菜園講習会等の各種研修、並びに農業関係機関による農業振興に係る営農指導会議等の開催による研修室等における施設利用実績である。

１　来場者数

1,286 名

※施設見学及び指導相談並びに土壌分析依頼・相談の件数

２　指導相談件数

101 件

業務計画

【令和３年度】

所　　長	久　保	昌　広
副 参 事	中　山	貢
（生産振興グループリーダー）		
主　　幹	和　島	将　彦
（経営支援グループリーダー）		
主　　査	柳　谷	悟
技　　査	田　茂	竜　児
主　　査	三　戸	由　香
主　　査	白　川	大　祐
技　　査	戸　田	瞳
主　　事	苫米地	三由希
主　　事	島　守	康　洋
技　　師	佐々木	達　也
技　　師	外　和	昌　大
技　　師	細　越	敬太郎
技　　師	柴　田	あかね

施設野菜の部　№1

項　目：品種特性調査

調査名：種子繁殖型いちご品種「よつぼし」の品種特性調査（新規：令和３年度～令和５年度）

１目的　種子繁殖型いちご品種「よつぼし」について、収量・品質等の品種特性を調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス４号（132 ㎡：約 40 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培
2)　は種月日　令和２年５月７日（406 穴セルトレイ）
3)　移植月日　令和２年６月 29 日（10.5cm ポット）
※406 穴セルトレイ苗を購入、納品後直ちにポットに移植
4)　夜冷処理期間　令和２年７月 31 日～8 月 31 日
5)　夜冷処理日数　31 日
6)　夜冷処理方法　短日処理　８時間日長（16 時 30 分～翌８時 30 分遮光）
夜冷処理　13～15℃（16 時 30 分～翌８時 30 分）
7)　育苗日数　116 日、140 日
8)　定植年月日　令和２年９月１日、25 日
9)　栽植距離　うね幅 110 cm、ベッド幅 70cm、株間 25 cm、２条植え
10)　定植株数　640 株/棟
11)　施肥量　N-P-K=追肥状況による（N 換算で 2.5kg/a 程度を想定）
【基肥】有機アグレット 816（8-1-6）：7.5kg/a
【追肥】大塚養液土耕６号（13.5-10-20）
12)　使用資材　アヅミン（Mg:3%）：5kg/a、ハイフミン・ハイブリット：30kg/a、あったかマルチ
13)　収穫期間　令和２年 10 月 26 日～令和３年６月中旬
14)　保温　内カーテン：令和２年 11 月 10 日～令和３年４月 19 日
15)　加温　温風暖房機（5℃設定）：
令和２年 11 月 16 日～令和３年４月 19 日

(3)　調査区の構成

1)　調査区　３区（1 区 10 株、1 区制）
<1>夜冷短日処理区
<2>電照長日処理区
<3>9 月下旬定植区
2)　供試品種　よつぼし（三重県・香川県・千葉県・農研機構）

(4)　調査項目　生育、収量、品質

施設野菜の部　№2

項目：品種比較調査

調査名：ほうれんそうの寒締め栽培における品種比較調査（継続：令和２年度～令和３年度）

１目的　当地域において冬期間に栽培される「寒締めほうれんそう」に適応する品種について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス 10 号（99 ㎡：約 30 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　土耕栽培、無加温

2)　は種月日　令和３年 10 月上旬

3)　栽植距離　ベッド幅 110 ㎝、株間 15 ㎝、条間 15 ㎝、７条植え、２粒播き

4)　定植株数　2,800 株/棟

5)　施肥量　N-P-K=1.00-0.81-0.19kg/a
シリカ＆フミン（2.7-2.2-0.5）：37kg/a

6)　使用資材　白黒ダブルマルチ

7)　収穫月日　令和３年 12 月下旬

(3)　調査区の構成

1)　調査区　３区（１区 20 株、１区制）

2)　供試品種　<1>雪美菜 02　（雪印種苗㈱）
<2>じっくり朝霧　（㈱渡辺採種場）
<3>朝霧　（㈱渡辺採種場）

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

施設野菜の部　№3

項　目：品種比較調査

調査名：トマトの促成栽培における品種比較調査（継続：平成 31 年度～令和 3 年度）

１目的　トマトの促成栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　ガラス温室 6 号（165 ㎡：約 50 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培
2)　は種月日　令和 2 年 12 月 23 日（144 穴トレイ）
3)　移植月日　令和 3 年 1 月 14 日（12 ㎝ポット）
4)　定植月日　令和 3 年 2 月 25 日
5)　栽植距離　ベッド幅 100 ㎝、株間 40 ㎝、2 条植え
6)　定植株数　320 株/棟
7)　施肥量　土壌溶液 EC 濃度 0.7～1.7（生育ステージによる）
【肥料】大塚養液土耕 5 号（12-20-20、～収穫前）
大塚養液土耕 2 号（14-8-25、収穫開始～）
8)　使用資材　ハイフミンハイブリッド G（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（令和 3 年 6 月下旬～収穫終了日）。
9)　収穫期間　令和 3 年 5 月 7 日～7 月下旬
10)　保温　内カーテン：定植日～令和 3 年 5 月下旬
11)　加温　温風暖房機（12℃設定）：定植日～令和 3 年 5 月 7 日
12)　摘心　令和 3 年 5 月下旬（8 段程度）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　4 区（1 区 5 株、1 区制）
2)　供試品種
〈1〉みそら 64　（みかど協和㈱）
〈2〉CF 桃太郎はるか　（タキイ種苗㈱）
〈3〉桃太郎ネクスト　（タキイ種苗㈱）
〈4〉麗月　（㈱サカタのタネ）

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

施設野菜の部　№4

項　目：品種比較調査

調査名：トマトの夏秋栽培における品種比較調査（継続：令和２年度～令和３年度）

１目的　トマトの夏秋栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　ガラス温室５号（165 ㎡：約 50 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培
2)　は種月日　令和３年２月 22 日（144 穴トレイ）
3)　移植月日　令和３年３月 15 日（12 ㎝ポット）
4)　定植月日　令和３年４月 15 日
5)　栽植距離　ベッド幅 100 ㎝、株間 40 ㎝、２条植え
6)　定植株数　320 株/棟
7)　施肥量　土壌溶液 EC 濃度 0.7～1.7（生育ステージによる）
【肥料】大塚養液土耕５号（12-20-20、～収穫前）
大塚養液土耕２号（14-8-25、収穫開始～）
8)　使用資材　ハイフミンハイブリッドＧ（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（令和３年６月下旬～収穫終了日）。
9)　収穫期間　令和３年６月上旬～10 月下旬
10)　保温　内カーテン：定植日～令和３年５月下旬、９月中旬～収穫終了日
11)　加温　温風暖房機（5℃設定）：定植日～令和３年５月７日
12)　摘心　令和３年９月中旬（20 段程度）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　５区（１区 10 株、１区制）
2)　供試品種
〈1〉みそら 64　（みかど協和㈱）
〈2〉ひなた　（みかど協和㈱）
〈3〉桃太郎ネクスト　（タキイ種苗㈱）
〈4〉りんか 409　（㈱サカタのタネ）
〈5〉麗月　（㈱サカタのタネ）

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

施設野菜の部　№5

項　目：品種比較調査

調査名：トマトの抑制栽培における品種比較調査（継続：平成 31 年度～令和 3 年度）

１目的　トマトの抑制栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　ガラス温室 6 号（165 ㎡：約 50 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培

2)　は種月日　令和 3 年 6 月上旬（72 穴トレイ）

3)　定植月日　令和 3 年 6 月下旬
（前作の栽培中にその株間に定植）

4)　栽植距離　ベッド幅 120 ㎝、株間 40 ㎝、2 条植え

5)　定植株数　320 株/棟

6)　施肥量　土壌溶液 EC 濃度 0.7～1.7（生育ステージによる）
【肥料】大塚養液土耕 5 号（12-20-20、～収穫前）
大塚養液土耕 2 号（14-8-25、収穫開始～）

7)　使用資材　あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（令和 3 年 6 月下旬～9 月中旬）。

8)　収穫期間　令和 3 年 8 月下旬～11 月下旬

9)　保温　内カーテン：令和 3 年 9 月中旬～収穫終了日

10)　加温　温風暖房機（8℃設定）：令和 3 年 11 月上旬～収穫終了日

11)　摘心　令和 3 年 9 月下旬（6 段程度）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　5 区（1 区 10 株、1 区制）

2)　供試品種
〈1〉みそら 64　（みかど協和㈱）
〈2〉ひなた　（みかど協和㈱）
〈3〉桃太郎ネクスト　（タキイ種苗㈱）
〈4〉りんか 409　（㈱サカタのタネ）
〈5〉麗月　（㈱サカタのタネ）

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

施設野菜の部　№6

項　目：品種比較調査

調査名：ミニトマトの促成栽培における品種比較調査（継続：平成 31 年度～令和 3 年度）

１目的　ミニトマトの促成栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス 2 号（132 ㎡：約 40 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培
2)　は種月日　令和 2 年 12 月 25 日（144 穴トレイ）
3)　移植月日　令和 3 年 1 月 14 日（12 ㎝ポット）
4)　定植月日　令和 3 年 2 月 25 日
5)　栽植距離　ベッド幅 100 ㎝、株間 40 ㎝、2 条植え
6)　定植株数　228 株/棟
7)　施肥量　土壌溶液 EC 濃度 0.7～1.7（生育ステージによる）
【肥料】大塚養液土耕 5 号（12-20-20、～収穫前）
大塚養液土耕 2 号（14-8-25、収穫開始～）
8)　使用資材　ハイフミンハイブリッド G（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（令和 3 年 6 月下旬～収穫終了日）。
9)　収穫期間　令和 3 年 4 月 30 日～7 月下旬
10)　保温　内カーテン：定植日～令和 3 年 5 月下旬
11)　加温　温風暖房機（12℃設定）：定植日～令和 3 年 5 月 7 日
12)　摘心　令和 3 年 5 月下旬（8 段程度）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　4 区（1 区 5 株、1 区制）
2)　供試品種　〈1〉キャロル 10　(㈱サカタのタネ)
〈2〉キャロルスター　(㈱サカタのタネ)
〈3〉サンチェリーピュア　(トキタ種苗㈱)
〈4〉サマー千果　(タキイ種苗㈱)

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

施設野菜の部　№7

項　目：品種比較調査

調査名：ミニトマトの夏秋栽培における品種比較調査（継続：平成 31 年度～令和 3 年度）

１目的　ミニトマトの夏秋栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス 1 号（132 ㎡：約 40 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培
2)　は種月日　令和 3 年 2 月 22 日（144 穴トレイ）
3)　移植月日　令和 3 年 3 月 15 日（12 ㎝ポット）
4)　定植月日　令和 3 年 4 月 14 日
5)　栽植距離　ベッド幅 100 ㎝、株間 40 ㎝、2 条植え
6)　定植株数　228 株/棟
7)　施肥量　土壌溶液 EC 濃度 0.7～1.7（生育ステージによる）
【肥料】大塚養液土耕 5 号（12-20-20、～収穫前）
大塚養液土耕 2 号（14-8-25、収穫開始～）
8)　使用資材　ハイフミンハイブリッド G（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（令和 3 年 6 月下旬～収穫終了日）。
9)　収穫期間　令和 3 年 6 月上旬～10 月下旬
10)　保温　内カーテン：定植日～令和 3 年 5 月下旬、9 月中旬～収穫終了日
11)　加温　温風暖房機（5℃設定）：定植日～令和 3 年 5 月 7 日
12)　摘心　令和 3 年 9 月中旬（20 段程度）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　7 区（1 区 5 株、1 区制）
2)　供試品種
〈1〉キャロル 10　(㈱サカタのタネ)
〈2〉キャロルスター　(㈱サカタのタネ)
〈3〉サンチェリーピュア　(トキタ種苗㈱)
〈4〉サマー千果　(タキイ種苗㈱)
〈5〉アイラ　(㈱武蔵野種苗園)
〈6〉キャロルムーン　(㈱サカタのタネ)
〈7〉MKS-T833　(みかど協和㈱)

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

施設野菜の部　№8

項　目：品種比較調査

調査名：**ミニトマトの抑制栽培における品種比較調査**（継続：平成 31 年度～令和 3 年度）

１目的　ミニトマトの抑制栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス 2 号（132 ㎡：約 40 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培

2)　は種月日　令和 3 年 6 月上旬（72 穴トレイ）

3)　定植月日　令和 3 年 6 月下旬
（前作の栽培中にその株間に定植）

4)　栽植距離　ベッド幅 100 ㎝、株間 40 ㎝、2 条植え

5)　定植株数　228 株/棟

6)　施肥量　土壌溶液 EC 濃度 0.7～1.7（生育ステージによる）
【肥料】大塚養液土耕 5 号（12-20-20、～収穫前）
大塚養液土耕 2 号（14-8-25、～収穫開始）

7)　使用資材　あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（令和 3 年 6 月下旬～9 月中旬）。

8)　収穫期間　令和 3 年 8 月下旬～11 月下旬

9)　保温　内カーテン：9 月中旬～収穫終了日

10)　加温　温風暖房機（8℃設定）：令和 3 年 11 月上旬～収穫終了日

11)　摘心　令和 3 年 9 月下旬（6 段程度）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　6 区（1 区 5 株、1 区制）

2)　供試品種
〈1〉キャロル 10　(㈱サカタのタネ)
〈2〉キャロルスター　(㈱サカタのタネ)
〈3〉サンチェリーピュア　(トキタ種苗㈱)
〈4〉アイラ　(㈱武蔵野種苗園)
〈5〉キャロルムーン　(㈱サカタのタネ)
〈6〉MKS-T833　(みかど協和㈱)

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

3-2 調査計画（露地野菜）

露地野菜の部　No.1

項目：品種比較調査
調査名：ねぎの品種比較調査（継続：令和２年度～令和４年度）

１目的　　当地域におけるねぎの作型別適応品種について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　　露地ほ場

(2)　耕種概要

1)　育苗方法　　チェーンポット CP-303（264 穴）2 粒播き

2)　は種及び定植月日

	〈は　種〉	〈定　植〉
7 月収穫	：令和３年１月５日	令和３年３月 24 日
9 月収穫	：令和３年３月 29 日	令和３年５月 13 日
10 月収穫	：令和３年５月 14 日	令和３年６月中旬

3)　栽植距離　　うね幅 100 ㎝、株間 5 ㎝（2 粒播き）

4)　定植本数　　40,000 本/10a

5)　施肥量　　N-P-K=18.0-18.0-18.0 kg/10a
【基肥】ハイパーCDU555(中期)(15-15-15)：40 kg/10a
【追肥】ハイパーCDU555(中期)(15-15-15)：40 kg/10a×2 回

6)　収穫月日　　7 月収穫　：令和３年７月下旬
9 月収穫　：令和３年９月中旬
10 月収穫：令和３年 10 月下旬

(3)　調査区の構成

1)　調査区　　20 区（１区 40 本（1.0m）　、1 区制）

2)　供試品種

7 月収穫	9 月収穫	10 月収穫	メーカー名
夏扇パワー	夏扇パワー	夏扇パワー	㈱サカタのタネ
夏秋白扇 5 号	夏秋白扇 5 号	夏秋白扇 5 号	吉田種苗㈱
みちのく 701 はやぶさ 7	みちのく 701 はやぶさ 7	みちのく 701 はやぶさ 7	㈱パセリー菜
	夏の宝山 秋の宝山 MKS-N43	夏の宝山 秋の宝山 MKS-N43	みかど協和㈱
	名月一文字	名月一文字	タキイ種苗㈱

(4)　調査項目　　生育、収量、品質

露地野菜の部　№2

項目：品種比較調査

調査名：ねぎのリン酸減肥技術品種比較調査（継続：令和２年度～令和３年度）

１目的　定植前の苗にリン酸カリ溶液（リン酸濃度 1.15%）を施用することで、本圃へのリン酸施用量を削減する技術について、当地域における適応品種を調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1) 調査場所　露地ほ場

(2) 耕種概要

1) 育苗方法　チェーンポット CP-303（264 穴）２粒播き

2) は種及び定植月日　〈は　種〉令和３年１月５日　〈定　植〉令和３年３月 24 日

3) 栽植距離　うね幅 100 ㎝、株間５㎝（２粒播き）

4) 植付本数　40,000 本/10a

5) 施肥量　N-P-K＝18.0-18.0-18.0 kg/10a
【基肥】ハイパーCDU555(中期)(15-15-15)：40 kg/10a
【追肥】ハイパーCDU555(中期)(15-15-15)：40 kg/10a×２回
※基肥及び追肥は全調査区共通。

6) 使用資材

調査区	リン酸カリ溶液	パワーリン (P:30%)	過リン酸石灰 (17%粉)
慣行区	－	120kg/10a	２回
浸漬区	定植前浸漬	60kg/10a	０回
潅注区	定植前潅注	60kg/10a	０回

※リン酸カリ溶液はリン酸濃度 1.15%に調整し、浸漬区は定植当日に溶液への浸漬、潅注区は定植１週間前及び定植当日にトレイ毎に溶液 1L の潅注を実施。
パワーリンは植付前に全面施用。
過リン酸石灰は植付時及び１回目追肥時に植え溝施用。

7) 収穫月日　令和３年７月上旬、下旬

(3) 調査区の構成

1) 調査区　９区（１区 40 本（1m）、１区制）

2) 供試品種
<1>夏扇パワー　(㈱サカタのタネ)
<2>夏秋白扇５号　(吉田種苗㈱)
<3>みちのく 701　(㈱パセリー菜)

(4) 調査項目　生育、収量、品質

露地野菜の部　№3

項目：品種比較調査

調査名：ピーマンの品種比較調査（継続：令和２年度～令和４年度）

１目的　当地域におけるピーマンの露地栽培に適応する品種について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　露地ほ場

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　マルチ栽培

2)　は種及び定植月日

〈は　種〉	〈定　植〉
①4月定植：令和3年2月12日	令和3年4月20日 (定植直後アイホッカ1枚トンネル被覆)
②5月定植：令和3年3月11日	令和3年5月12日 (定植直後パスライト1枚トンネル被覆)

3)　栽植距離　うね幅150㎝、株間50㎝

4)　定植株数　1,300株/10a

5)　施肥量　〈4月定植〉
N－P－K＝48.0-34.5-43.0 kg/10a
【基肥】豊作太郎(12-12-10)：250 kg/10a
【追肥】くみあい燐硝安加里S646(16-4-16)：22.5 kg/10a×5回
〈5月定植〉
N－P－K＝44.4-33.6-39.4 kg/10a
【基肥】豊作太郎(12-12-10)：250 kg/10a
【追肥】くみあい燐硝安加里S646(16-4-16)：22.5 kg/10a×4回

6)　収穫期間　令和3年6月中旬～10月下旬

(3)　調査区の構成

1)　調査区　6区（1区5株、1区制）

2)　供試品種
〈1〉ピクシー　(横浜植木㈱)
〈2〉P-2020　(㈱パセリー菜)
〈3〉P-2021　(㈱パセリー菜)

(4)　調査項目　生育、収量、品質

露地野菜の部　№4

項目：栽培技術調査

調査名：ピーマン品種「ピクシー」の施肥体系別収量調査（新規：令和３年度～令和４年度）

１目的　当地域におけるピーマン品種「ピクシー」の露地栽培において、施肥体系の違いが収量・品質に及ぼす影響について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　露地ほ場

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　マルチ栽培

2)　は種及び定植月日　〈は　種〉令和３年３月 11 日　〈定　植〉令和３年５月 12 日（定植直後パスライト１枚トンネル被覆）

3)　栽植距離　うね幅 150 ㎝、株間 50 ㎝

4)　定植株数　1,300 株/10a

5)　施肥量

【施肥量】

	〈基肥〉(kg/10a) 豊作太郎 (12-12-10)	パワーリン (P:30%)	〈追肥〉(kg/10a) くみあい燐硝安加里 S646 (16-4-16)
①	250	0	22.5×４回
②	250	0	18.0×５回
③	200	15	31.9×４回
④	200	15	25.5×５回

【成分量】

	〈基肥〉(kg/10a)			〈追肥〉(kg/10a)			合計 (kg/10a)		
	N	P	K	N	P	K	N	P	K
①	30.0	30.0	25.0	14.4	3.6	14.4	44.4	33.6	39.4
②	30.0	30.0	25.0	14.4	3.6	14.4	44.4	33.6	39.4
③	24.0	24.0	20.0	20.4	5.1	20.4	44.4	33.6	40.4
④	24.0	24.0	20.0	20.4	5.1	20.4	44.4	33.6	40.4

【追肥時期】

①定植後 60 日、以降概ね 20 日おき　計４回
②定植後 60 日、以降概ね 15 日おき　計５回
③定植後 60 日、以降概ね 20 日おき　計４回
④定植後 60 日、以降概ね 15 日おき　計５回

２回目以降の追肥間隔は草勢及び天候により調整

6)　収穫期間　令和３年６月中旬～10 月下旬

(3)　調査区の構成

1)　調査区　４区（１区５株、１区制）

2)　供試品種　ピクシー　（横浜植木㈱）

(4)　調査項目　生育、収量、品質

露地野菜の部　No.5

項目：栽培技術調査

調査名：ピーマン整枝方法別収量比較調査（継続：令和２年度～令和４年度）

１目的　当地域におけるピーマン品種「ピクシー」の露地栽培において、整枝方法の違いが収量・品質に及ぼす影響について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　露地ほ場

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　マルチ栽培

2)　は種及び定植月日　〈は　種〉　令和３年３月11日　〈定　植〉　令和３年５月12日（定植直後パスライト１枚トンネル被覆）

3)　整枝方法　①第２分枝を主枝４本に整枝、以降側枝を適宜整枝
②第２分枝を主枝４本に整枝、以降側枝を適宜整枝、９月上旬に摘心

4)　栽植距離　うね幅150㎝、株間50㎝

5)　定植株数　1,300株/10a

6)　施肥量　N－P－K＝44.4-33.6-39.4 kg/10a
【基肥】豊作太郎(12-12-10)：250 kg/10a
【追肥】くみあい燐硝安加里S646(16-4-16)：22.5 kg/10a×４回

7)　収穫期間　令和３年６月中旬～10月下旬

(3)　調査区の構成

1)　調査区　２区（１区５株、１区制）

2)　供試品種　ピクシー　（横浜植木㈱）

(4)　調査項目　生育、収量、品質

3 調査計画（花き）

花きの部　No.1

項　目：品種比較調査

調査名：トルコギキョウの品種比較調査(7～8 月出荷)（継続：令和 2 年度～令和 3 年度）

１目的　収益性を見込める花き品目として有望なトルコギキョウについて、7～8 月出荷栽培における品種比較調査を行い、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス 11 号（99 ㎡：約 30 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　土耕栽培

2)　は種年月日　令和 3 年 2 月 18 日

3)　定植年月日　令和 3 年 4 月 6 日

4)　栽植距離　ベッド幅 60 cm、株間 10 cm、条間 10cm、4 条植え(中 2 条抜き)

5)　定植株数　2,720 本/棟

6)　施肥量　基肥 N-P-K-Mg=0.96-0.08-2.20-0.52 kg/a
追肥 N-P-K=0.50-0.30-0.50 kg/a　※生育状況による
（基肥）アルガ 215（12-1-5-2）：8.0 kg/a
ケイ酸加里（20-34-4）：9.0 kg/a
（追肥）資材は生育状況を踏まえ検討する

7)　使用資材　白黒ダブルマルチ、10cm×6 目フラワーネット

8)　収穫時期　令和 3 年 7 月下旬～8 月中旬

(3)　調査区の構成

1)　調査区　14 区（1 区 10 株、1 区制）

2)　供試品種

No.	品種名	早晩性	花径	色	会社名
<1>	ｾﾚﾌﾞ 1 型ﾗﾍﾞﾝﾀﾞｰ	中早生	大	薄紫	住化農業資材㈱
<2>	ﾏｷｱﾎﾜｲﾄ	中生	中大	白	㈱サカタのタネ
<3>	ﾏｷｱﾗﾍﾞﾝﾀﾞｰ	中生	中大	薄紫	㈱サカタのタネ
<4>	ｼﾞｭﾘｱｽｲｴﾛｰ	中生	大	黄	カネコ種苗㈱
<5>	ﾙｶｺﾞｰﾙﾄﾞ	中生	中大	黄	カネコ種苗㈱
<6>	ｺｽﾀﾎﾜｲﾄ	中生	大	白	カネコ種苗㈱
<7>	ｱﾃﾞﾙｸﾞﾘｰﾝ	中生	中大	緑	カネコ種苗㈱
<8>	海えりか	中生	中	白紫	住化農業資材㈱
<9>	ﾁｱﾗｲﾄﾋﾟﾝｸ	中生	中大	薄桃	㈱ミヨシ
<10>	ﾁｱﾋﾟﾝｸ	中生	中大	桃	㈱ミヨシ
<11>	ｱﾓｰﾚﾎﾜｲﾄ 18	中生	大	白	タキイ種苗㈱
<12>	ﾏｲｺ	中晩生	大	白	タキイ種苗㈱
<13>	ｿﾛ PF ﾛｰｽﾞﾋﾟｺﾃｨ	中晩生	小	白桃	㈱サカタのタネ
<14>	PF ﾀﾞﾌﾞﾙｽﾉｰ	晩生	中	白	㈱サカタのタネ

(4)　調査項目　開花、切花

花きの部　No.2

項　目：品種比較調査

調査名：トルコギキョウの品種比較調査(9 月出荷)（継続：令和 2 年度～令和 3 年度）

１目的　収益性を見込める花き品目として有望なトルコギキョウについて、9 月出荷栽培における品種比較調査を行い、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス 9 号（99 ㎡：約 30 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　土耕栽培
2)　は種年月日　令和 3 年 3 月 16 日
3)　定植年月日　令和 3 年 6 月上旬
4)　栽植距離　ベッド幅 60 ㎝、株間 10 ㎝、条間 10㎝、4 条植え(中 2 条抜き)
5)　定植株数　2,720 本/棟
6)　施肥量　基肥 N-P-K=1.50-1.00-1.50 kg/a
追肥 N-P-K=0.50-0.30-0.50 kg/a　※生育状況による
（基肥）資材は土壌分析結果を踏まえ検討する
（追肥）資材は生育状況を踏まえ検討する
7)　使用資材　白黒ダブルマルチ、10cm×6 目フラワーネット
8)　遮光　メガクール（期間は生育状況及び天候を踏まえ検討する）
9)　収穫時期　令和 3 年 9 月上旬～9 月中旬

(3)　調査区の構成

1)　調査区　12 区（1 区 10 株、1 区制）
2)　供試品種

No.	品種名	早晩性	花径	色	会社名
<1>	ﾏｷｱﾎﾜｲﾄ	中生	中大	白	㈱サカタのタネ
<2>	ｼﾞｭﾘｱｽｲｴﾛｰ	中生	大	黄	カネコ種苗㈱
<3>	ｿﾛ PF ﾛｰｽﾞﾋﾟｺﾃｨ	中晩生	小	白桃	㈱サカタのタネ
<4>	ｴﾚｶﾞﾝｽｸﾞﾘｰﾝ	中晩生	中	緑	住化農業資材㈱
<5>	ﾗﾌｰﾙ 3 型ﾜｲﾝ	中晩生	小	濃赤	住化農業資材㈱
<6>	海しずか	中晩生	中小	白紫	住化農業資材㈱
<7>	ﾏｲｺ	中晩生	大	白	タキイ種苗㈱
<8>	ｾﾐﾌｧｲﾅﾙﾛｰｽﾞ	中晩生	大	桃	タキイ種苗㈱
<9>	ﾏﾝﾊｯﾀﾝ	中晩生	中	紫	タキイ種苗㈱
<10>	ﾗﾙｺﾞﾏﾘﾝ	晩生	中大	白紫	㈱ミヨシ
<11>	ﾗﾙｺﾞﾋﾟｰﾁ	晩生	中大	白桃	㈱ミヨシ
<12>	PF ﾀﾞﾌﾞﾙｽﾉｰ	晩生	中	白	㈱サカタのタネ

(4)　調査項目　開花、切花

花きの部　No.3

項　目：栽培技術調査

調査名：トルコギキョウの赤色 LED 電照栽培技術調査(9 月出荷)

（新規：令和 3 年度～令和 4 年度）

１目的　トルコギキョウの赤色 LED 電照処理により開花抑制が可能とされていることから、当地域における実用性について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス 9 号（99 ㎡：約 30 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　土耕栽培

2)　は種年月日　令和 3 年 3 月 16 日

3)　定植年月日　令和 3 年 6 月上旬

4)　栽植距離　ベッド幅 60 ㎝、株間 10 ㎝、条間 10cm、4 条植え(中 2 条抜き)

5)　定植株数　2,720 本/棟

6)　施肥量　基肥 N-P-K=1.50-1.00-1.50 kg/a
追肥 N-P-K=0.50-0.30-0.50 kg/a　※生育状況による
（基肥）資材は土壌分析結果を踏まえ検討する
（追肥）資材は生育状況を踏まえ検討する

7)　使用資材　白黒ダブルマルチ、赤色 LED ライト（620nm～630nm)、10cm×6 目フラワーネット

8)　電照期間　調査区①　無電照
調査区②　令和 3 年 6 月上旬（定植後）～収穫期まで
※16：00～8：00（16 時間電照）
メガクール（期間は生育状況及び天候を踏まえ検討する）

9)　遮光　令和 3 年 9 月上旬～9 月中旬

10)　収穫時期

(3)　調査区の構成

1)　調査区　14 区（1 区 10 株、1 区制）

2)　供試品種

No.	品種名	早晩性	花径	色	会社名
<1>	ﾏｷｱﾎﾜｲﾄ	中生	中大	白	㈱サカタのタネ
<2>	ｼﾞｭﾘｱｽｲｴﾛｰ	中生	大	黄	カネコ種苗㈱
<3>	ｿﾛ PF ﾛｰｽﾞﾋﾟｺﾃｨ	中晩生	小	白桃	㈱サカタのタネ
<4>	海しずか	中晩生	中小	白紫	住化農業資材㈱
<5>	ｾﾐﾌｧｲﾅﾙﾛｰｽﾞ	中晩生	大	桃	タキイ種苗㈱
<6>	ﾗﾙｺﾞﾏﾘﾝ	晩生	中大	白紫	㈱ミヨシ
<7>	PF ﾀﾞﾌﾞﾙｽﾉｰ	晩生	中	白	㈱サカタのタネ

(4)　調査項目　開花、切花

花きの部　No.4

項　目：栽培技術調査

調査名：カンパニュラの赤色 LED 電照栽培技術調査（継続：令和 2 年度～令和 4 年度）

１目的　カンパニュラの赤色 LED 電照処理により開花促進が可能とされていることから、当地域における実用性について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス 9 号（99 ㎡：約 30 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　土耕栽培

2)　は種年月日　令和 2 年 9 月 11 日

3)　定植年月日　令和 2 年 10 月 15 日

4)　仕立て法　調査区②：令和 2 年 11 月 20 日、その他は 12 月 9 日に摘心

5)　栽植距離　ベッド幅 60 ㎝、株間 20 ㎝、条間 40㎝、2 条植え（中 1 条抜き）

6)　定植株数　620 株/棟

7)　施肥量　N-P-K=1.00-0.99-1.60 kg/a
（基肥）ビオン 068（10-6-8）：10.0 kg/a
パワーリン（P:30）：1.3 kg/a
硫酸加里（K:50）：1.6 kg/a

8)　使用資材　バイオ 21、黒マルチ、赤色 LED ライト（620nm～630nm）、20cm×3 目フラワーネット

9)　電照期間　調査区①　無電照
調査区②　令和 2 年 10 月 15 日（定植後）～収穫期まで
調査区③　令和 2 年 12 月 9 日（摘心後）～収穫期まで
調査区④　2 月 1 日～収穫期まで
※いずれも 22:00～2:00 の暗期中断とする

10)　収穫時期　令和 3 年 4 月中旬～6 月上旬

(3)　調査区の構成

1)　調査区　25 区（1 区 5 株、1 区制）

2)　供試品種

No.	品種名	花色	会社名
<1>	チャイムホワイト	白	㈱サカタのタネ
<2>	チャンピオンスカイブルー	青紫	㈱サカタのタネ
<3>	チャンピオンピンク	桃	㈱サカタのタネ
<4>	チャンピオン iQ ローズ	濃桃	㈱サカタのタネ
<5>	チャンピオン iQ ライラック	薄紫	㈱サカタのタネ

(4)　調査項目　開花、切花

花きの部　No.5

項　目：品種比較調査

調査名：ディスバッドマムの品種比較調査(8 月出荷)（新規：令和 3 年度～令和 4 年度）

１目的　今後、当地域の有望花き品目として期待されるディスバッドマムについて、8 月出荷作型における栽培技術及び品種比較調査を行い、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス 8 号（99 ㎡：約 30 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　土耕栽培

2)　定植年月日　令和 3 年 5 月 13 日（直挿し）

3)　栽植距離　ベッド幅 80 ㎝、株間 10 ㎝、条間 10cm、6 条植え（中 2 条抜き）

4)　定植株数　3,600 本/棟

5)　わい化剤処理　ビーナイン顆粒水溶剤を散布
※濃度及び散布回数は生育状況による

6)　施肥量　N-P-K-Mg=1.50-0.136-4.48-0.97 kg/a
（基肥）アルガ 215（12-1-5-2）：12.5 kg/a
硫酸加里（K:50）：7.7 kg/a
ハイクド（P:40）：1.8 kg/a

7)　使用資材　10cm×8 目フラワーネット、黒マルチ

8)　電照期間　令和 3 年 5 月 13 日～6 月中旬まで　22:00～3:00（暗期中断）

9)　シェード管理　令和 3 年 6 月中旬～採花まで　18:00～7:00（11 時間日長）

10)　収穫時期　令和 3 年 8 月上旬～8 月中旬

(3)　調査区の構成

1)　調査区　未定（1 区 10 株、1 区制）

2)　供試品種　※供試品種については、メーカーからの新品種が発表され次第、順次選定するものとする。10～15 品種程度で検討予定。

(4)　調査項目　開花、切花

3-4 調査計画（耕畜連携推進事業パートナー制度）

調査名：ながいも栽培における堆肥の施用効果の検討

１目的　「発酵鶏糞堆肥」の適正な施用について調査・研究し、家畜排泄物を利用した堆肥、肥料の利用を促進するとともに循環型農業の普及を図る。

２調査方法

(1)　調査場所　露地ほ場

(2)　耕種概要

1)　植付月日　令和３年５月下旬

2)　栽植距離　うね幅 120 cm、株間 21 cm

3)　植付本数　3,968 本/10a

4)　施肥量　調査区①

N-P-K=25.0-33.2-22.5kg/10a

【基肥】発酵鶏糞堆肥(2.73-4.98-3.05)：91kg/10a

パワーアップながいも(15.0-12.0-10.0)：80kg/10a

【追肥】発酵鶏糞堆肥(2.73-4.98-3.05)：96kg/10×４回

７月上旬から 10 日おきに計４回

調査区②

N-P-K=24.9-33.4-16.6kg/10a

【基肥】パワーアップながいも(15.0-12.0-10.0)：166kg/10a

パワーリン(P:30%)：45kg/10a

調査区	資材	施肥量 (kg/10a)	成分量 (kg/10a) N	P	K
①	【基肥】				
	発酵鶏糞堆肥	91	2.5	4.5	2.8
	パワーアップながいも	80	12.0	9.6	8.0
	【追肥】				
	発酵鶏糞堆肥	384	10.5	19.1	11.7
②	パワーアップながいも	166	24.9	19.9	16.6
	パワーリン	45	0.0	13.5	0.0

5)　収穫月日　令和３年 11 月下旬

(3)　調査区の構成

1)　調査区　４区（１区 6.3m（30 本）、１区制）

2)　供試品種　〈1〉園試系６（切片子）：80～100g

〈2〉庄司系（切片子）：80～100g

(4)　調査項目　生育、収量、品質

3-5　土壌分析

1　目的

農業者及び農業団体から依頼された土壌を分析し、土壌改良の資料とする。

また、当市において、産地形成されている地域のモデルとなる地点を定点観測地点に設定し、土壌分析を行ない、土壌改良の資料とする。

2　分析項目

1)　pH（H_2O・KCl）
2)　EC（電気伝導度）
3)　硝酸態窒素
4)　有効態リン酸
5)　リン酸吸収係数
6)　CEC（塩基置換容量）
7)　置換性カルシウム
8)　置換性マグネシウム
9)　置換性カリウム
10)　水分

3　定点観測地点の概要

地 区 名	地点数		対　象　作　物	
市川地区	25	21	いちご	施設
		2	ミニトマト	
		2	花き	
下長地区	4	1	いちご	施設
		2	トマト・ミニトマト	
		1	花き	
上長地区	3	1	ながいも	露地
		1	ピーマン	
		1	食用菊	
豊崎地区	2	1	にんにく	露地
		1	ながいも	
館 地 区	8		ミニトマト	施設
是川地区	25	1	いちご	施設
		1	トマト・ミニトマト	
		4	きゅうり	
		1	花き	
		7	ながいも	露地
		6	夏ねぎ	
		5	秋ねぎ	
旧市内地区	2		トマト	施設
南郷地区	4	1	トマト	施設
		1	きゅうり	
		2	そば	露地

施設野菜（いちご）：23 地点
施設野菜（トマト・ミニトマト・きゅうり）：21 地点
花き：4 点
露地野菜（にんにく・ながいも・ねぎ等）：25 地点　　合計　73 地点

3－6　植物組織培養

1　優良種苗の増殖計画

1)　いちご・・・・・・・・(13 品種)

2)　奥州菊・・・・・・・・(5 品種)

3)　食用菊・・・・・・・・(4 品種)

3－7　市民農園設置事業

1　目的

自然環境の中での市民が家庭ぐるみによる農業体験を通じて、農業知識の向上並びに農業に対する理解を深めてもらうために実施する。

2　場所

八戸市農業経営振興センター内

3　期間

令和 3 年 4 月 18 日～11 月 21 日

4　面積及び募集区画数

小区画（33 ㎡）、中区画（66 ㎡）、大区画（99 ㎡）：小区画換算 250 区画

5　対象

八戸市民（1 世帯につき 1 箇所の区画を利用可能）

6　使用料

小区画（33 ㎡）：2,610 円

中区画（66 ㎡）：5,220 円

大区画（99 ㎡）：7,830 円

7　主要施設

・休憩所（1 箇所）　・トイレ（2 基）　・電話（1 台）

・農業用水道（6 箇所）　・駐車場（1 箇所：1,000 ㎡）

3－8　農業体験学習

1　目的

小学生等の食育の一環として、農作物を育て、収穫する喜びを体験し、農業及び食に対する理解を深めてもらうため、農業体験の場を提供する。

2　計画

事業名	目的	内容	対象
農業体験学習	食育の一環として、農作物を育て収穫する喜びを体験し、農業及び食に対する理解を深める。	・農作物（さつまいも、だいこん等）の植付け、は種及び収穫 ・八戸市の農業に関する座学及び農業経営振興センターの施設見学 ・農業経営振興センター職員が、園（校）内にて栽培等の指導を行う農業体験出前講座　等	市内幼稚園、保育園、小学校、中学校等

【ガラス温室】

	作物名	調査区分	～R2	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1号	いちご（高設・夏秋）	展示栽培				●定植3/30	━━━	■収穫6中	━━━	━━━	━━━	━━━	━━━	━━━	□収穫12下
2号	共通育苗	－													
3号	－	－													
4号	－	－													
5号	トマト（夏秋）	品種比較			▲は種2/22		●定植4/15	━━━	■収穫6上	━━━	━━━	━━━	━━━	□収穫10下	
6号	トマト（促成）	品種比較	▲は種12/23			●定植2/25	━━━	■収穫5/7	━━━	□収穫7下					
	トマト（抑制）	品種比較							▲は種6上	●定植6下	━━━	■収穫8下	━━━	□収穫11下	
7号	－	－													
8号	トルコギキョウ（越冬）	品種比較	━━━	━━━	━━━	━━━	━━━	━━━	━━━	■収穫7上中					

【パイプハウス】

	作物名	調査区分	～R2	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1号	ミニトマト（夏秋）	品種比較	▲ は種2/22				● 定植4/14	■ 収穫6上					□ 収穫10下		
2号	ミニトマト（促成）	品種比較	▲ は種12/25		● 定植2/25		■ 収穫4/30			□ 収穫7下					
	ミニトマト（抑制）	品種比較							▲ は種6上	● 定植6下		■ 収穫8下		□ 収穫11下	
3号	花き育苗	―													
4号	いちご（促成）	品種比較							□ 収穫～6中			● 定植8下		■ 収穫11下～	
5号	いちご（促成）	品種特性							□ 収穫～6中			● 定植8下		■ 収穫11下～	
6号	メロン（半促成）	展示栽培				▲ は種3/2	● 定植4/12			■ 収穫7下					
	いちご（半促成）	展示栽培										● 定植8下			
7号	いちご（半促成）	展示栽培				■ 収穫3/16			□ 収穫6中						
	スナップエンドウ（夏まき）	展示栽培								▲ は種7中		■ 収穫9上	□ 収穫10下		
	こまつな	展示栽培												▲ は種11下	
8号	ディスバッドマム	展示栽培						● 定植5/13			■ 収穫8上				

【パイプハウス】

	作物名	調査区分	～R2	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
9号	トルコギキョウ（抑制）	栽培技術	▲ は種3/16						● 定植6上			■ 収穫9上中			
10号	ほうれん草（寒締め）	品種比較											▲ は種9下		■ 収穫12下
11号	トルコギキョウ	品種比較			▲ は種2/18		● 定植4/6				■ 収穫8上				
	ストック	展示栽培									▲ は種8上	● 定植8下			■ 収穫12中
12号	いちご（夏秋）	品種比較				● 定植3/30			■ 収穫6上						□ 収穫12下
13号	いちご（親株）	―						■	□ 採苗5/中～7上			● 植付9中			
14号	―	―													
15号	デルフィニウム	展示栽培			▲ は種2/25	● 定植3/30				■ 収穫7上中					
16号	いちご（半促成）	展示栽培				■ 収穫3/23			□ 収穫6中			● 定植8下			

【露地野菜】

作物名	調査区分	～R2	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ねぎ	品種比較 栽培技術	▲ は種1/5			● 定植3/24	■ 収穫7下								
					▲ は種3/29		● 定植5/13		■ 収穫9中					
							▲ は種5/14	● 定植6中			■ 収穫10下			
ピーマン	品種比較 栽培技術			▲ は種2/12		● 定植4/20		■ 収穫6中			□ 収穫10下			
					▲ は種3/11		● 定植5/12	■ 収穫6下			□ 収穫10下			
ながいも	耕畜連携						● 植付5下					■ 収穫11下		
にんにく	栽培技術	● 植付10/1						■ 収穫6下,7上	■			● 植付10上		
糠塚きゅうり	展示栽培					▲ は種4/26	● 定植5下	■ 収穫6中		□ 収穫8中				
食用菊	展示栽培							● 植付6中			■ 収穫9中		□ 収穫11上	

【露地花き】

作物名	調査区分	～R2	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
アスター	展示栽培	▲ は種4/3	● 定植4/30	━━━	━━━	━━━	━━━	━━━	━━━	■ 収穫8上				
葉牡丹	展示栽培								▲ は種7中	● 定植8上	━━━	■ 収穫10上		
スノーボール	展示栽培						■ 収穫5/8～							
スモークツリー	展示栽培							■ 収穫6中						
ヒペリカム	展示栽培								■ 収穫7下					
姫ヒマワリ	展示栽培								■ 収穫7下					
ソリダコ	展示栽培									■ 収穫8上				
ソリダスター	展示栽培									■ 収穫8上				

発行：八戸市農業経営振興センター（令和３年６月）

〒番号　039-1101
住　所　青森県八戸市大字尻内町字毛合清水 29
電　話　0178-27-9163
ＦＡＸ　0178-27-9166
E-mail　nokei@city.hachinohe.aomori.jp